

千環協ニュース

平成28年10月

創立40周年記念特集



千葉県環境計量協会

Chiba Prefectural Environmental Measurement Association

千環協ニュース 創立 40 周年記念特集

目 次

千環協創立 40 周年記念行事

1. 会長挨拶

千環協 創立 40 周年記念式典の開催に際して 千葉県環境計量協会 会長 野口 康成	7
---	---

2. 祝 辞

千葉県環境計量協会創立 40 周年記念式典祝辞 千葉県環境生活部 次長 大竹 毅	9
千葉県環境計量協会創立 40 周年記念式典ご挨拶 (社)日本環境測定分析協会 関東支部長 津上 昌平	11
表彰者を代表して 功労者表彰者挨拶 千葉県環境計量協会第 11 代会長 甘崎 恭徳	13

3. 記念式典

千環協創立 40 周年記念式典報告	15
創立 40 周年記念式典次第	16
来賓及び式典出席者	17
表彰(功労者)	22
創立 40 周年記念式典風景	23

4. 記念講演

計量制度の変遷と今後 経済産業省 産業技術環境局 計量行政室 室長補佐 関口 敦司	26
---	----

5. 創立 40 周年に寄せて

千環協 40 周年記念によせて

中外テクノス株式会社 甘崎 恭徳……………36

千葉県環境計量協会 40 周年に寄せて

株式会社住化分析センター 吉田 寧子……………37

40 周年を振り返って

株式会社ダイワ 菅谷 光夫……………38

50 周年に向けて

日鉄住金環境株式会社 内野 洋之……………39

千葉県環境計量協会『創立 40 周年』に寄せて

習和産業株式会社 吉野 昭仁……………40

千環協 40 年間の歩み

1. 計量法関係動向……………	45
2. 千葉県環境関係動向……………	54
3. 事業活動実績……………	65
4. 技術事例発表テーマ……………	98
5. 研修見学会実績……………	102
6. 技術講演会実績……………	105
7. 新春講演会実績……………	107
8. 経営問題懇談会実績……………	111
9. ソフトボール大会・ゴルフ大会・ボウリング大会……………	118

千環協について

1. 千葉県環境計量協会について.....123
2. 千葉県環境計量協会の組織及び事業活動.....124
3. 千葉県環境計量協会規約.....125
4. 現理事及び歴代理事.....129

千環協会員名簿

- 会員名簿.....137

広告

- 広告.....143

編集後記

千環協創立40周年記念行事

1.会長挨拶

千環協 創立 40 周年記念式典の開催に際して

千葉県環境計量協会
会長 野口 康成

会長を仰せつかっております野口でございます。開会にあたり協会を代表してご挨拶申し上げます。

本日は創立 40 周年の式典にご多忙のなか、ご来賓の方々を始め、関係団体、協会 OBならびに会員の皆様に多数ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

心より厚く御礼申し上げます。

千葉県環境計量協会は、振り返りますと 1976 年(昭和 51 年)6 月 25 日に発足しました。当時の時代背景といたしましては、千環協発足の 2 年前、昭和 49 年に環境計量が計量証明事業に加わりました。そして翌年の昭和 50 年には、環境計量士、および環境計量証明事業の登録制度が開始され、その翌年、昭和 51 年に千葉県内の計量証明事業登録機関、7 事業所にて設立されました。公害問題の対策が盛んに叫ばれていた時代です。新たな基準や規制が生まれ、私たちの業界は、この時代の流れに後押しされ、当協会も 10 周年、20 周年、そして 30 周年と迎え、着実に会員数を増やし、その活動も盛んなものとなりました。私たちを取り巻く、水、空気、土は元気を取り戻し、環境改善にも一翼を担って来ました。

しかしながら、昭和から平成を迎え、その模様は少し変わりました。たとえば、皆さん、「公害」という言葉を最近聞いたことがありますか？ では、「リサイクル」あるいは「エコ」といった言葉はどうでしょう？ 「環境」について、世間の見方が変わったのだと思います。私だけが強くそう思うのかもかもしれませんが、特にこの 10 年、その方向が変わり、かつ加速しているように感じます。一つの例を挙げれば会員の数です。当協会而言えば、30 周年時は 67 の会員が在籍しておりましたが、今年は 54 と、13 会員も減っております。以前にはまったく考えられなかった現象です。拡大路線であった環境分析に陰りが見え始めたのと同時に、分析のあり方も、人に頼る分析から、機器を中心とする分析へと移りました。その結果、分析単価低減競争が激しくなり、過剰すぎるほどの下落を

招いてしまいました。このような中で 40 周年を迎え、業界にとっても今まさに本当の節目を迎えていると考えております。

私たちの業界は、安全・安心の上にある「信頼」を商売としているサービス業です。その信頼を培ってきたのは、30年、40年と経験を積んできたベテラン技術者であることは言うまでもありません。しかしながら、その技術者が退職していく中、どのようにして「信頼」を担保するのか。今一度原点に戻り、問題解決に向けて、関係する団体とさらなる連携をとりながら、取り組んでいかなければなりません。

また、会員事業者様におかれましては、会社の存続を継続していく、という大変深刻な課題に直面しております。日本における環境計量証明事業者数は約 1200 と聞いておりますが、米国は 300 程度だそうです。「小さくてもきらりと光る」各社独自のオリジナリティを如何に見出していくのか、すでに分かれ道に立っているのではないのでしょうか。

本日は、経済産業省産業技術環境局 計量行政室の関口様に「計量制度の変遷と今後」とのタイトルでご講演いただく予定でおります。ぜひ、ここから次へのステップとなるヒントが得られることを期待しております。

本日の 40 周年式典では、これまでの歩みを振り返ると共に、50 周年に向けた新たなスタートであるとも言えます。当協会の活動も皆様から思えば満足いくものではないと思います。出来ることは限られているかも知れませんが、選んだ道を信じて、一緒に歩んで行きたいと思っております。

すぐ目の前には、分析単価の健全化、計量証明書の電子納品化や化学物質のリスクアセスメントなど、取り組むべき事項を抱えております。最新情報を発信していくのが、当協会の重要な役割の一つと思っております。

最後に、本日の記念式典を開催するにあたり、実行委員としてご協力いただいた役員、ご助言をいただきました行政機関、関係団体やOBの方々、そして本日お手伝いとしてご協力いただきました会員の方々に厚く御礼申し上げます。また、皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後も当協会に対してご支援を賜りますようお願いして挨拶いたします。

本日は誠にありがとうございました。

2.祝 辞

千葉県環境計量協会創立 40 周年記念式典祝辞

千葉県環境生活部
次長 大竹 毅

今、ご紹介いただきました千葉県環境生活部次長の大竹でございます。本日は、千葉県環境計量協会創立 40 周年記念式典が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

環境計量協会の皆様には、日ごろ、本県の環境行政に格別のご理解とご協力を賜り、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ただ今 40 周年ということでしたが、私事になりますけど、私も 40 年まではいかないのですが、三十数年こういった形で環境に携わってきました。

主に水質関係を中心にやらせていただきましたが、私が入りました当初は、まだまだ排水の規制項目というのは、ほとんどが前処理も含めて手作業でやっていたという時代でございます。ですから、人により、時期により、だいたひ測定結果に差がでるということで同じ中でやっている数人ですので、そんな事があってはいけないということで機器などを揃えて道具ですね、道具などを揃えて共通なものを使うようにして、そういった分析の誤差をなくそうということをずいぶん工夫をしていたことを今すごく思い出されます。

皆様が行っています環境計量事業というのは、今私が行っています環境行政、こういったものとはかなり深くつながりを持っております。

一例を申し上げますと、県などでは大気環境測定、それから水の環境測定、いわゆる公共用水域の水質測定ですね、今がどんな環境であつてどのくらい改善されてきて、またはどういうふうに変化があつたのかすべて皆様方が出しているデータを基に我々がいろいろ検討をして、次の施策につなげていくということを行っております。そういった意味でも皆様が行っているこういった分析というものが非常に環境の我々にとっては役に立っているということでございます。

そして、大気や水質、当然排水規制、事業場の指導などの結果にもこういったものを使っています。いわゆる立入検査ということでございますけど、これら立入検査にかかわる分析というのも、今ほとんどは皆様方に委託をして行っている実情でございます。

この分析結果によりまして、事業者への指導、こういったものを行っておりますので、指導を行う我々行政、それから指導を受ける事業者、こういったお互いにとって計量証明を行う皆様方というのは、独立した立場で欠かせない存在だというふうに考えております。

この規制項目など、いわゆる公定法というのですが、先ほどお話したように、以前はほとんどが手作業で行われていたということですが、最近はそれがどんどん微量なものまで機械で測定ができるという状況になってきて、分析精度も高くなってきておりますが、それに応じて求められる定量下限といえますか、濃度についてもだんだん低いものが求められるようになっておきております。

そして今までより、新しい項目が増えてきていることなどがありまして、今まで以上に採取や分析の管理が求められてきているというふうに感じてきているところでございます。

今後も環境計量事業が、我々環境行政にとって非常に重要な位置を占めていくと思いますが、皆様におかれましては、引き続き各種研修の実施や適切な管理を行うことなどにより、精度の高い計量証明事業に取り組んでいただくようお願い申し上げます。

最後になりますが、千葉県環境計量協会の益々のご発展と本日もご列席の皆様のご健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

千葉県環境計量協会創立40周年記念式典ご挨拶

社団法人日本環境測定分析協会
関東支部長 津上昌平

(一社)日本環境測定分析協会 関東支部長の津上です。本日は、千葉県環境計量協会の設立40周年の記念式典にお招きいただき誠にありがとうございます。本来は日環協本部より田中会長がご挨拶にお伺いする予定でしたが、急遽私の方で代役を務めさせていただくこととなりました。本日のこの大変お目でたい式典の開催にあたり、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

さて、環境計量証明事業につきましては、この後の特別講演にて、経済産業省計量行政室の方からもお話があるかと思いますが、昭和49年に計量法改正により制度化されて、翌50年より全国での登録機関が業務を開始しております。千葉県においてもいち早く計量証明事業者が創業され、51年には当時の登録事業者7社により、現在の千環協の母体である「千葉県環境計量証明事業者協議会」がスタートしたと聞いております。以降環境問題が重要となる中、環境測定・分析のニーズも増加し全国でも登録事業者の数も増大し、千葉県でもピーク時には約80社以上が登録されていましたが、2016年7月現在では、濃度関係で64社と多少減少しているようです。

平成25年度に日環協にて実施した計量証明事業者の実態調査においては、全国で1561事業所が登録されておりましたが、1事業所当たり人員で20名程度、年間売上で1~2億円と比較的中小規模の事業者が多いという、いわば地域密着型のビジネスモデルが一般的であると見受けられます。一方複数の企業間での合併や、外資系資本の参入など時代の変遷と共に、我々の業態も変化を迫られてきております。

そのような中、日環協ではISO/IEC 17025の試験所認定制度に代表される国際化への対応や、各種技能試験の実施、環境測定分析士制度などを通じて、「環境分析・測定の信頼性の向上」を目指して活動しております。また、近年では、分析・測定費用の低価格化が大きな問題となっており、行政サイドへの最低制限価格制度の導入を含めた要望書の提出などについても、支部や各県の協議会と合同で行っております。昨年10月には、経済産業省からもご指導をいただき、今後導入が検討されている計量証明書の電子化(いわゆるECD)についてのガイドラインを作成いたしました。また、本年3月より計量制度見直しを含めた計量行政審議会においても、業界団体としての意見や要望を提言させていただいているところです。これらの日環協の活動を行う上で各種の委員会や関東支部の運営委員会にも、千環協からも多数の委員の方々にご

協力をいただいておりますことに、改めて厚く御礼を申し上げる次第です。

以上、本日は日環協としてのお祝いのご挨拶を述べさせていただきましたが、私は千葉県習志野市内の事業所(習和産業株式会社)に勤務しており、この歴史ある千環協の会長を、平成14年度より3期6年間務めさせていただきました。ちょうど10年前の平成18年の7月には、当時の会長として30周年記念式典を盛大に開催したのが、昨日のここのように思い出されます。本日は当時一緒に役員をされた方々とも久しぶりにお会いすることが出来て大変嬉しく思います。私が会長を務めていた頃も、会員の皆様の多大なご協力をいただきながら、何とか協会として活動を活発にしたいという思いで努力しておりましたが、企業を取り巻く環境は大変厳しく、千葉県においても近年大手製造メーカーの関連会社として登録されていた事業所が、計量証明事業から撤退される例が相次いでおります。全国組織である日環協も含め、協会活動は各分析機関の方々のボランティアとしての活動に負うところが大きく、今後の運営の在り方についても見直しをする時期であるかも知れません。

最後に今後千環協の会員及び役員の皆様におかれましては、本日お集まりの関係団体、事業者の方々により連携を深められますと共に、私を含めた協会OBもいろいろな意味での知恵袋としての活用していただきつつ、本日を機に次なる50周年、60周年に向けて大いに飛躍して新たなスタートとなりますよう、特に次代を担う若い方々への心からの期待を込めて、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

表彰者を代表して 一功労者表彰者挨拶一

第11代 会長 甘崎 恭徳

千葉県環境計量協会、千環協 40 周年、誠におめでとうございます。

一口に 40 年といいますが、相当長い歴史といえます。赤ん坊が中年になるわけですから。働き盛りといったところでしょうか。そのうち私がかかわらせていただいたのは 6 / 40 だけです。昭和 51 年の設立当時にご苦勞された諸先輩方、好景気、不景気の変動、様々な環境問題、新規規制物質への対応にご苦勞された方々、歴代の役員、こちらにおられる功勞者の皆さま、会員各企業の皆さまなど、関わってこられた方々すべてに敬意を表したいと思います。

さて、皆さまご存知のことではありますが、環境計量証明業界を概観してみますと、測定分析料金の低価格化、人材育成や人材確保が困難な状況、新規規制物質への対応、設備投資や更新などの課題がある一方で、我々が提供するデータの信頼性・精度の確保・向上は重要度を増しています。むしろ当たり前としての社会の要求です。それらのための自動化、ロボット化など、さらには、計量法の改正、計量証明書の電子化への対応検討、ISO17025 をはじめとした試験所認定、国際的な動向など、様々な課題への対応が求められています。

こうした社会情勢の中で、千環協の社会的責任と果たすべき役割は、小さくないものと思っています。具体的には、千葉県への入札制度改善要望書提出、首都圏と共同した分析料金見直し、人材育成や技術向上の場の提供、クロスチェック、見学会や研修会、発表会意見交換会の開催、ソフトボール大会やボーリング大会などの親睦行事の開催などです。県単組織である千環協の良いところはたくさんあります。学会発表や日環協発表などに至る前の第一ステップとしての活用、交流を深めたあとのざっくばらんな意見や情報の交換の場、とにかく肩肘張らないプラットフォームとしての意義は大きいのではないのでしょうか。

千環協には、今後とも安全、安心な社会を維持、発展させていくために、必要不可欠な業界における基礎の団体として、次の節目である 50 周年に向けて発展され、より貢献されることを期待させていただきます。会員各位におかれましては、千環協をうまく利用することで、ついでに千環協を育てるといった気持ちで積極的に参画いただけると幸いです。

少し長くなって恐縮ですが、さきほど、功労者として表彰いただきました。

私がこうやって表彰していただけるのも、皆様のご支援、ご協力のたまものでございます。内野さんをはじめ、私の後を引き継いでくださった野口さん、山本さんをはじめとした理事の皆さま及び事務局の川添さん、こちらの功労者の皆さま、会員各企業からの委員のみなさまのご協力があつてこそです。特に内野様には大変お世話になりました。また、岡崎顧問には、その人脈とご経験に基づくアドバイスなどいただき大変助かりました。岡崎さんがいなければ、私は無事に勤めあげられなかったと思いますし、野口さんに引き継ぐこともできませんでした。本当にありがとうございました。

さらに、千葉県環境生活部・環境研究センター、千葉市環境保全部、千葉県計量検定所、千葉県計量協会の皆さま、また、首都圏環境計量協議会連絡会の山崎様はじめ各県単の皆さまには、様々な面でご指導をいただきました。本当に皆様に感謝申し上げます

最後になりますが、今後の千環協ならびに会員企業、関連団体のみなさま、ここにご出席されている皆さまの、ますますのご発展とご健勝を祈念させていただきまして、私の祝辞とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

3.記念式典

千環協創立 40 周年記念式典報告

千葉県環境計量協会の創立 40 周年を祝して、7 月 15 日ホテルプラザ菜の花において、記念式典、記念講演並びに祝賀会が盛大に行われました。

本協会は昭和 51 年 6 月、「千葉県の公害対策並びに環境保全に寄与する」ことを目的として創立され、環境計量に関する技術の向上と、適正な環境計量の実施を確保するための各種事業を実施しています。

本協会を構成する会員は、環境計量証明事業の登録を千葉県知事に行った事業所を中心とし、関係諸機関のご指導とすべての会員の方の不断の努力により、平成 28 年 7 月現在では、正会員 48 社、賛助会員 8 社の合計 56 社の規模となっております。

本年度は本協会の創立 40 周年にあたり、式典には千葉県及び千葉市関係者の方々 5 名、関係諸団体の方々 16 名、歴代の会長・理事の方々 9 名、会員の方々 42 名、合計 72 名の参加のもとに、山本副会長の開会宣言で開会しました。

はじめに創立 30 周年以降より、当協会の運営に尽くされた方々に対して功労者表彰を行い、野口会長より功労者の方々を代表して、甘崎第 11 代会長に会長表彰状の贈呈が行われました。野口会長からの挨拶のあと、大竹毅千葉県環境生活部次長、津上昌平日本環境測定分析協会関東支部長、そして OB を代表して甘崎第 11 代会長に祝辞を賜りました。

記念講演は、経済産業技術環境局計量行政室の関口敦司様から、「計量精度の変遷と今後」という演題で御講演をいただきました。

祝賀会は会場を 3F の式典会場に移し、内野 40 周年記念行事実行委員長の挨拶、山崎埼玉県環境計量協議会会長による乾杯の音頭で盛大に始まりました。

祝賀会では、協賛企業・団体の紹介が行われ、東京・神奈川・茨城・埼玉・山梨の環境計量協会の方々のご祝辞を頂戴いたしました。また、アトラクションとして本協会の事務局の川添さんの紹介で集まっていた方々による演奏が行われ、祝賀会に華を添えていただきました。

このような盛大な式典が成功裏に終了したのは、裏方で何ヶ月も前から準備に奔走していただいた実行委員の方々の努力があったからこそと考えます。

今後 50 周年、60 周年の記念式典が今回と同様に、開催できるように、会員の皆さん全員が努力してまいりましょう。

千葉県環境計量協会創立40周年記念式典ならびに記念講演次第

1. 開催年月日 平成28年7月15日(金)

2. 場所 ホテルプラザ菜の花 (千葉市中央区長洲1-8-1)

記念式典、講演会 5階 楨

祝賀会 4階 菜の花

3. プログラム

1) 記念式典 (13:30～14:15)

功労者表彰

会長挨拶 千葉県環境計量協会 会長 野口 康成

来賓紹介

来賓挨拶 [千葉県]千葉県環境生活部 次長 大竹 毅 様

[関係団体]一般社団法人日本環境測定分析協会 関東支部長 津上 昌平 様

[功労者代表]中外テクノス株式会社 甘崎 恭徳 様

2) 記念講演 (14:30～15:30)

講演者 経済産業省 産業技術環境局 計量行政室 室長補佐 関口 敦司 様

演題 「計量制度の変遷と今後」

3) 祝賀会 (15:50～18:00)

開会挨拶 40周年記念行事实行委員長 内野 洋之

乾杯 首都圏環協連代表 山崎 研一 様

祝辞

協賛企業様ご紹介

アトラクション 弦楽四重奏

開会挨拶

* 記念品は、10年連続モンドセレクション金賞を受賞した「見波亭」の「のこぎり山バウムクーヘン」を用意。

1. 来賓

(敬称略)

所 属	氏 名
千葉県環境生活部 次長	大竹 毅
千葉市環境局環境保全部 部長	大木 俊郎
千葉市環境局環境保全部 環境規制課 主査	石井 佳世子
千葉県計量検定所 所長	山田 満
千葉県計量検定所 上席計量員	中澤 義明
一般社団法人計量協会 会長	惠藤 敏郎
一般社団法人日本環境測定分析協会 関東支部長	津上 昌平
東京都環境計量協議会 会長	佐藤 隆
東京都環境計量協議会 副会長	竹田 良平
東京都環境計量協議会 副会長	五十嵐 鋼
一般社団法人 神奈川県環境計量協議会 会長	梶田 哲弘
一般社団法人 神奈川県環境計量協議会	西田 俊哉
一般社団法人 埼玉県環境計量協議会 会長	山崎 研一
一般社団法人 埼玉県環境計量協議会 副会長	吉田 裕之
一般社団法人 埼玉県環境計量協議会 副会長	鈴木 竜一
一般社団法人 埼玉県環境計量協議会 理事・事務局長	野口 裕司
一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会	袴田 賢一
一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会	山川 篤
茨城県環境分析協議会 会長	片野 明
茨城県環境分析協議会 事務局	大津 寿
山梨県環境計量協会 副会長	小澤 一昭

2. 講演者

敬称略

	氏 名
経済産業省 産業技術環境局 計量行政室 室長補佐	関口 敦司

3. 千環協 功労者

敬称略

役職(当時)	所 属	氏 名
会長	習和産業株式会社	津上 昌平(*1)
会長	中外テクノス株式会社	甘崎 恭徳
副会長	日鉄住金環境株式会社	内野 洋之
副会長	株式会社ダイワ	菅谷 光夫
経営・業務委員長	株式会社住化分析センター	吉田 寧子
広報・情報委員長	習和産業株式会社	吉野 昭仁
広報・情報委員長	株式会社住化分析センター	村上 雅志
総務委員長	株式会社ダイワ	石澤 善博
監事	菱冷環境エンジニアリング株式会社	丸山 孝彦

*1: 来賓として重複掲載

4. 千環協 役員

敬称略

役 職	所 属	氏 名
会長	株式会社太平洋コンサルタント	野口 康成
副会長	株式会社環境管理センター	山本 重俊
副会長	東京パワーテクノロジー株式会社	福田 茂晴
経営・業務委員長	月島機械株式会社	鈴木 健治
総務委員長	中外テクノス株式会社	川口 弘樹
技術委員長	株式会社ユーベック	大井 裕之
広報・情報委員長	イカリ消毒株式会社	田中 亮
顧問		岡崎 成美

5. 千環協会員ならびに協賛企業

敬称略

会 員 名	氏 名
イカリ消毒株式会社	吉浪 誠
イカリ消毒株式会社	水柿 貴史
株式会社出光プランテック千葉	栗澤 秀典
株式会社出光プランテック千葉	釧持 剛
株式会社上総環境調査センター	濱田 康夫
株式会社加藤建設	平山 千恵子
株式会社環境管理センター	斉藤 徹
株式会社環境管理センター	堀 宏一郎

会 員 名	氏 名
株式会社環境コントロールセンター	永友 康浩
習和産業株式会社	小梁 裕司
習和産業株式会社	安田 喜孝
習和産業株式会社	西村 欣也
株式会社住化分析センター	坂本 保子
株式会社住化分析センター	高橋 孝史
株式会社太平洋コンサルタント	長濱 剛
株式会社太平洋コンサルタント	櫻井 康裕
株式会社太平洋コンサルタント	吉実 年正
株式会社ダイワ	中根 好太
中外テクノス株式会社	沖室 桂治
東京パワーテクノロジー株式会社	木塚 智洋
日鉄住金環境株式会社	坂本 雅史
日鉄住金テクノロジー株式会社	山本 祐輔
株式会社日本公害管理センター	松倉 達夫
株式会社ユーベック	黒瀬 高章
株式会社ユーベック	座間 千夏
菱冷環境エンジニアリング株式会社	酒井 祐介
有限会社ケーズオフィス	川添 公貴
株式会社コスモス	柴田 美保子
株式会社コスモス	神子 雄司
株式会社コスモス	高橋 将也
ビーエルテック株式会社	秋月 晃

会 員 名	氏 名
松田産業株式会社	吉川 栄一
松田産業株式会社	竹内 猛
東京電機産業株式会社	高橋 潤

表彰（功勞者）

津上昌平	習和産業(株)	(第9代会長)
甘崎恭徳	中外テクノス(株)	(第11代会長)
吉野昭仁	習和産業(株)	(元理事)
菅谷光夫	(株)ダイワ	(〃)
石澤善博	(株)ダイワ	(〃)
内野洋之	(株)日鉄住金環境	(〃)
吉田寧子	(株)住化分析センター	(〃)
村上雅志	(株)住化分析センター	(〃)
丸山孝彦	菱冷環境エンジニアリング(株)	(〃)

(順不同・敬称略)



功勞者の方一同



表彰状授与(代表者 甘崎氏)

創立40周年記念式典風景

挨拶及びご来賓祝辞



山本副会長 開会宣言



野口会長 挨拶



千葉県環境生活部次長 大竹様



(一社)日本環境測定分析協会関東支部長 津上様



千環協第11代会長 甘崎様



会場風景



質問の様子



質問に答える関口様

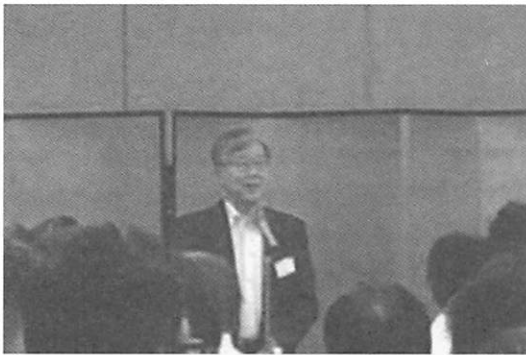
祝賀会



内野 40 周年記念行事実行委員長



(一社)埼玉県環境計量協議会会長 山崎様



茨城県環境分析協議会会長 片野様



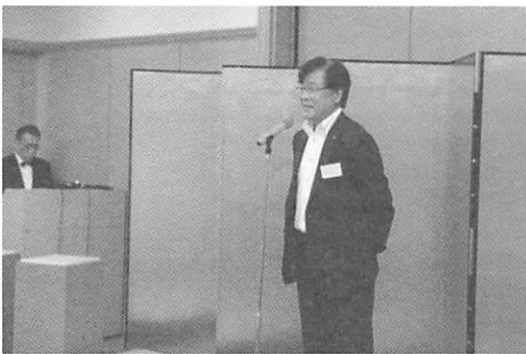
東京都環境計量協議会会長 佐藤様



(一社)神奈川県環境計量協議会会長 梶田様



(一社)埼玉県環境計量協議会副会長 鈴木様



山梨県環境計量協会副会長 小澤様

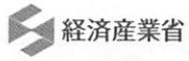


締めのご挨拶



アトラクション

3.記念講演



計量制度の変遷と今後

平成 28 年 7 月 15 日
経済産業省産業技術環境局
計量行政室
関口 敦司



経済産業省産業技術環境局 計量行政室 関口様

1. 度量衡

- 度は「長さ」および「さし（ものさし）」
- 量は「体積」および「枴（升、ます）」
- 衡は「質量」および「秤（はかり）」

1

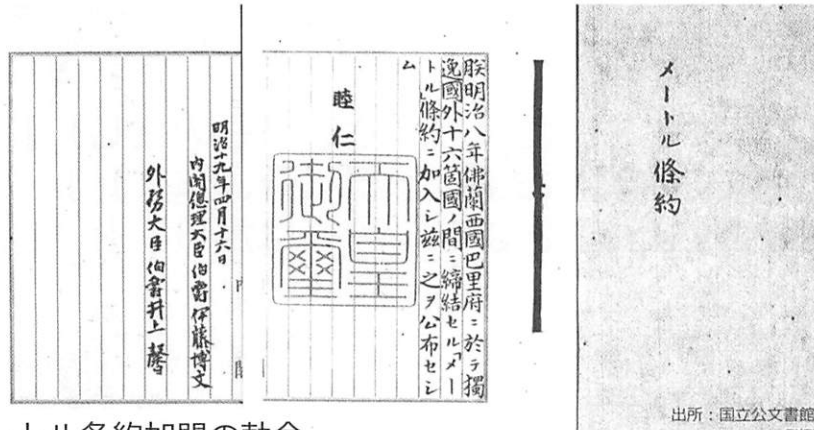
2. 日本の度量衡制度の始まり

- **大宝律令（大宝元年（701年））**
日本の度量衡制度の始まり。
大宝律令の原文は散逸。
養老律令（天平宝字元年（757年））の注釈書『令義解』
『令集解』から内容を復元。
- **養老律令の内容**
度十分条
凡度十分為寸 十寸為尺……
量十合為升……
權衡廿四銖為兩 十六兩為斤
用度量条
凡用度量權官司皆給樣 其樣皆銅為之
（樣（ためし）＝標準原器）

1

3. メートル条約加盟

● 明治 19 年 (1886 年) メートル条約加盟



メートル条約加盟の勅令

「朕明治八年仏蘭西國巴里府ニ於テ獨逸國外十六箇國ノ間ニ締結セル「メートル」條約ニ加入シ茲ニ之ヲ公布セシム」とある。

2

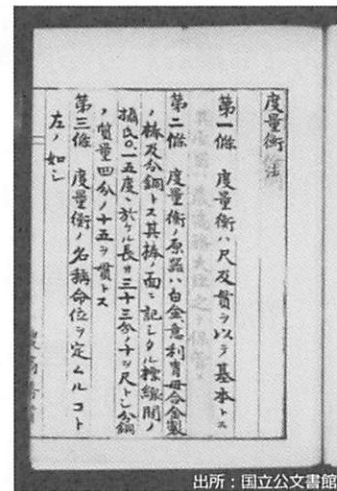
4. 度量衡法の制定

● 明治 24 年 (1891 年) 度量衡法制定

- 尺と貫をメートル原器、キログラム原器から定義

「第一條 度量衡ハ尺及貫ヲ以テ基本トス
第二條 度量衡ノ原器ハ白金、「イリチウム」合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス」とある。

- 度量衡器の製作、修理及び販売の免許制、全品検査
- 工業用計測器を含め、あらゆる計量器が規制対象



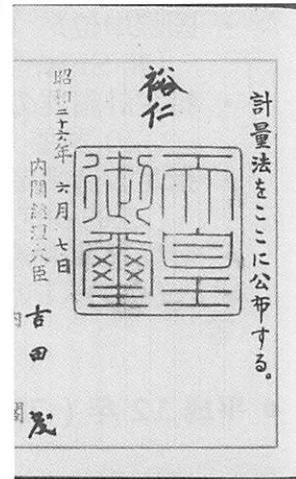
3

5. 旧計量法の制定

- 昭和 26 年 (1951 年) 旧計量法の制定
製作、修理を許可制へ、販売を登録制へ

「第十三條 計量器の製造 (修理……) の事業を行おうとする者は……その工場又は事業場ごとに、通商産業大臣の許可を受けなければならない。」

「第四十七條 計量器の販売又は販売の仲立 (以下「販売等」という。) の事業を行おうとする者は……その店舗ごとに、この所在地を管轄する都道府県知事の登録を受けなければならない。」

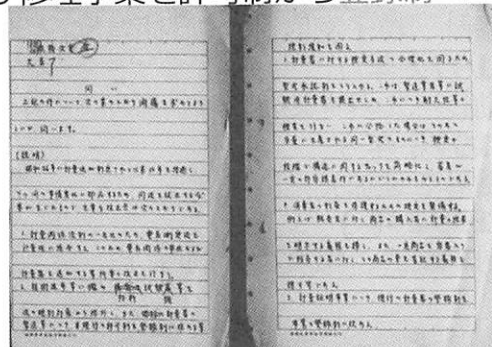


出所：国立公文書館

4

6. 旧計量法見直し

- 昭和 41 年 (1966 年) 旧計量法の大改正
 - ・ 電気計測法との統合 (計量関係法制の一元化)
 - ・ 型式承認制度の導入 (検定の合理化)
 - ・ 規制の対象となる計量器 (特定計量器) の範囲の縮小
(材料試験器等を規制対象から除外。
39+3 器種 → 18 器種)
 - ・ 製造及び修理事業を許可制から登録制へ



出所：国立公文書館

5

7. 新計量法の制定

- **平成 4 年 (1992 年) 新計量法の制定 (翌年施行)**
 - ・ 国際単位系 (SI 単位) への統一
(非 SI 単位については猶予期間を設け、完全移行へ)
 - ・ 特定計量器の見直し
(20 器種 → 18 器種)
 - ・ 指定製造事業者制度の創設
(公的検定 → 自社検定の許容)
 - ・ 計量標準供給制度の整備
(JCSS 制度の創設)
- **平成 12 年 (2000 年) 地方分権一括法による自治事務化**

6

8. 特定計量器の変遷

- ・ **明治 24 年 (度量衡法 1891 年)**
9 器種 (直尺・回転尺、非自動はかり・分銅、ますなど)
- ・ **昭和 26 年 (1951 年)**
34 器種 (速さ計、流量計、熱量計などを追加)
- ・ **昭和 33 年 (1958 年)**
42 器種 (照射線量計、粒子密度計、動粘度計などを追加)
- ・ **昭和 41 年 (1966 年)**
18 器種 (流量計、粒子密度計、動粘度計などを削除)
- ・ **昭和 47 年 (1972 年)**
19 器種 (振動レベル計を追加)
- ・ **昭和 53 年 (1978 年)**
20 器種 (流量計を追加)
- ・ **平成 4 年 (1992 年)**
18 器種 (照射線量計、織度計を削除)

7

9. 環境計量証明制度の変遷

- 昭和 47 年 (1972 年) 法定計量器に公害計測器を追加併せて、公害計測方法の JIS 化、標準物質の製造供給
- 昭和 50 年 (1975 年) 環境計量証明事業の登録創設
環境計量証明事業の登録制度創設
環境計量士制度の創設
- 平成 14 年 (2002 年) 特定計量証明事業 (MLAP) の創設
ダイオキシン等極微量物質に関する計量証明事業の整備

1

10. 計量制度の見直し

- 「計量制度に関する課題検討会」報告書 (平成28年3月)
計量制度の見直しの論点を3つの視点から整理。
これをもとに、計量行政審議会において制度的対応の在り方を検討

視点1：民間事業者の参入の促進

民間の製造事業者・試験所等の参入や計量士の活用を促進するための見直しを検討する。

視点2：技術革新、社会的環境変化への対応

社会的環境変化に対応し、規制対象の見直し・新たな規制の導入等を検討する。

視点3：規制範囲・規定事項等の再整理・明確化

現在の規制に関して、その範囲・規定事項等を再整理又は明確化し、適切なものとするための措置を図る。

9

1 1. 計量制度見直しの論点－各論点の方向性（案）－

視点	論点	方向性（案）
1 民間事業者の参入の促進	1 計量器開発の効率化	平成29年4月の政省令改正に向け、見直しを進める。
	2 指定検定機関への民間事業者参入の促進	平成29年4月の政省令改正に向け、見直しを進める。
	3 指定製造事業者を指定する際のISO9001の活用	平成29年4月の省令改正に向け、見直しを進める。
	4 計量士の確保、育成	(1) 見直しを進める。(2) 計量士登録後の技術研修等を実施する。
	5 適正計量管理事業所制度の要件の見直し等	見直しを進める。
	6 基準器と計量標準供給制度（JCSS）校正計量器の共通化 スマートメーター化を見据えた特定計量器の構造基準の見直し	中長期的に技術基準及び運用の見直しを進める。 (1) 計量器団体を中心に共通的課題を抽出した上で、技術基準の検討を行う。
2 技術革新、社会的環境変化への対応	7 (1) 計量器のスマートメーター化に関し、技術革新の促進・計量器の構造基準の見直しをすべきか (2) 計量器の管理のため、ICタグ等のシステムを導入すべきか	(2) 技術基準に組み込む法令改正はせず、計量器団体を中心とする自主的取り組みによって中長期的にガイドライン等の作成を行う。
	8 特定計量器として規制することを検討すべき計量器 (1) 自動はかりに関し、非自動はかりと同様に規制すべきか (2) 水素ディスプレイに関し、特定計量器に追加すべきか	(1) 平成29年4月の政令改正に向け、特定計量器への追加を行う。 検定・検査・型式承認の方法を早急に整備し、検定・型式承認は中期的に実施する。 (2) 平成29年4月の政令改正に向け、検定除外特定計量器への追加を行う。検定対象とするかどうかは、中期的に検討を進める。
3 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化	9 計量証明事業者に所有を義務づけている機器の見直し等	(1) 見直しを進める。(2) ガイドライン等を設定する。
	10 計量証明事業者が定期的に受ける計量証明検査の見直し	(1) 現状の制度とする。(2)(3) ガイドライン等を設定する。
	11 質量分率と体積分率の明確化（wt%やvol%等の表記）	法令改正はせず、中長期的に事業者の自主的な標準化を行う。
	12 特定計量器修理後の検定までの間の計量器の使用	法令改正はせず、中長期的に事業者が指定検定機関に参入する。
	13 計量器に修理実施者への修理実績の義務付け	法令改正はせず、中長期的にICタグ等のシステムの標準化を図る。
	14 新たに指定された特定計量器の初回定期検査免除期間の統一	平成29年4月の政省令改正に向け見直しを進める。
	15 計量器販売事業者の遵守事項の追加	現状の制度を維持する。
	16 検定証印・定期検査済証印の年号表記及び表示方法の統一	平成29年4月の省令改正に向け見直しを進める。
	17 商品量目制度の他法令の規制との関係整理・規制の簡素化	現状の制度を維持しつつ、運用面での改善を行う。
	18 商品量目制度の国際勧告への整合化	現行の制度を維持する。
	19 特殊容器使用商品の追加	平成29年4月の政令改正に向け見直しを進める。
	20 申請者の利便性の向上・手続の効率化	見直しを進める。
21 自治体間が協力していく取り組みの必要性	自治体の自主的な取組に任せる。	

（出所 計量行政審議会基本部会（平成28年6月10日）資料 10）

1 2. 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化（1）

〈計量証明事業に関する論点〉

- ・ 所有すべき最低設備等の見直し
- ・ 都道府県による指導の均一化

現状

- 所有すべき最低設備等の見直しについて
 - ・ 計量証明事業者が所有すべき、最低設備等が定められている。
 - ・ 最低設備等については、区分ごとに全ての設備を一律に求めている。
 - ・ 事業形態の専門化・分業化や技術進歩に伴い、使用されない機器も含まれている。
- 都道府県による指導の均一化について
 - ・ 複数の都道府県に事業所を持つ事業者の場合、都道府県で指導内容が異なると混乱を招く。

1 3 . 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化 (2)

論点の背景・基本的考え方

- 最低設備等の見直しについては、各国により計量証明の事業者の業務形態やその規制・認定の実態・状況は異なることに留意。
我が国では、サンプリングから証明に至るまでの一連の工程を
 - ・ 一事業者が行う従来の形態
 - ・ 複数の者にて分業して行う形態海外では、
 - ・ 分業形態にて計量証明を実施が一般的。
- 規定・認定における詳細な条件にも差異が想定される。
- 計量証明事業の登録に必要な最低設備等の設定の意義
 - ・ 計量証明の実施可能な事業者を正しく条件付けするために必要。
 - ・ 一方、過度な負担を避けるため、必要最小限とすべき。

12

1 4 . 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化 (3)

見直しの方向性

短期的取組み

- ・ 最低設備等の見直しを行う。
- ・ 適切な機器の選定については、関係者の意見を聴取。
- ・ 現行の濃度の区分（大気、水又は土壌）の見直しの是非も含めて検討する。

中長期的取組み

- ・ 最低設備等の見直しは、将来にわたって定期的実施することが望ましい。
- ・ 環境計量証明事業は、グローバル化を見据えた在り方の検討を行う。
- ・ 技術的要件の整理等を設定し、都道府県の指導のレベルの均一化に努める。

13

15. 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化(4)

〈計量証明検査に関する論点〉

現状

- 計量証明検査の在り方の見通し
実施方式や検定との関係についての整理が必要。
- 都道府県による指導の均一化
立入検査の周期や手数料について都道府県で異なる。

14

15. 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化(4)

論点の背景・基本的な考え方

- 特定計量器に対して、最少の規制コストで最大の効果が得られることが望ましい。
- 技術的要件等については、ガイドライン等で統一されることが望ましい。(自治事務であることを考慮)

以下の要望については、既存事業者への影響を考慮。

- ・ 標準物質による校正方法、採取した試料の管理、組織の運営管理等の計量証明事業者本来求められるべき点に着目した基準・運用にすべき。
- ・ 計量証明事業の登録や計量証明検査におけるマネジメントシステム規格(ISO/IEC 17025等)を活用すべき。

15

16. 規制範囲・規定事項等の再整理・明確化(5)

見直しの方向性

短期的取組み

- 計量証明検査について、関係者の意見を聴取するなど実態の把握に努め、在り方を検討する。

中長期的取組み

- 立入検査について、技術的要件の整理やガイドライン等を設定し、都道府県の指導のレベルの均一化に努める。
- 標準物質による校正方法等に着眼した基準、運用への改正、あるいは、マネジメントシステム規格の活用は、必要に応じて中長期的に検討する。

16

ご静聴ありがとうございます

17

5. 創立40周年に寄せて

千環協 40 周年記念によせて

中外テクノス株式会社
甘崎 恭徳

千葉県環境計量協会（千環協）40周年、誠におめでとうございます。

一口に40年といいますが、相当長い歴史といえます。昭和51年設立当時にご苦労された諸先輩方、その後の好景気または不景気、様々な環境問題、新規規制物質への対応に苦心された方々など、歴代の役員、委員、会員企業など、関わってこられたすべての皆さまに敬意を表しますとともに、お祝いを申し上げます。

環境計量証明・測定分析業界を概観してみますと、測定分析料金の低価格化をはじめとして、人材育成や人材確保が困難な状況、新規規制物質への対応、設備更新・新規投資などの課題がみられます。一方で、社会・顧客に提供するデータの信頼性と精度の確保及び向上は重要度を増しています。むしろ「当たり前」としての社会の要求です。これらの要求に健全な経営状態を保ちながら対応するためには、技術力向上とあわせて自動化による処理能力向上と精度確保の両立の検討などが欠かせません。さらには、計量法の改正、計量証明書の電子化、ISO17025やGLP、NVLAPなどの国際認証の検討など、様々な課題への対応が求められています。

こうした社会情勢のなかで、千環協の社会的責任と果たすべき役割は、小さくありません。具体的には、首都圏環境計量協議会連絡会と協働した、千葉県への入札制度改善要望書提出や分析料金見直しに関する活動は、会員企業の経営改善に資するものと考えます。また、人材育成、技術力向上及び親睦の「場」「機会」として、クロスチェック・共同実験、見学会、講習会、発表会、実務者意見交換会、ソフトボール大会などを会員企業の皆さまに提供されています。

会員企業にとって、身近な県単組織である千環協の良い面は多いのではないのでしょうか。関連学会での発表や日環協での発表に至る前の第一ステップ・登竜門としての「場」、交流を深めたあとのざっくばらんな意見や情報の交換の「場」など、肩肘張らないですむ「場」が提供されています。

以上のような、「ひと」「もの」「金」「情報」といった経営に資する情報や機会の、プラットフォームとしての千環協活動の意義は大きいと考えます。

環境測定分析業界は、安全、安心な社会を維持、発展させていくために必要不可欠な業界です。千環協にはその基礎となる団体として、次の節目である50周年に向け、より発展され、より貢献されることを期待させていただきます。会員各位におかれましては、千環協をうまく利用しつつ、ついでに千環協を育てる、といった前向きな姿勢での積極的な参画をお薦めします。

千葉県環境計量協会 40 周年に寄せて

株式会社住化分析センター
吉田 寧子

私が千葉県環境計量協会理事を拝命しておりましたのは、2011年8月から2015年3月迄でした。最初は広報・情報委員会、その後経営・業務委員会で活動させて頂きました。

広報・情報委員会は、会誌「千環協ニュース」の企画・編集が主な役割です。協会会員あるいは官公庁など関係機関に向けて、今どんな情報発信が必要なのか、どんなトピックスを記事に取り上げるべきか、委員の皆様へ情報を持ち寄って頂き、非常に和気あいあいとした雰囲気の中議論させて頂いた事が印象に残っています。

経営・業務委員会は、会員ガイドの発行の他、経営に関する諸問題について検討する事が主な役割です。委員会活動の一環として、2012年11月には株式会社環境管理センター東関東支社様に事業所訪問をさせて頂きました。ラボを新設するにあたり、周辺環境へきめ細やかな配慮をされたこと、住民の方とのコミュニケーション、さらに品質・技術・安全衛生に関する日々の改善活動が競争力ある事業所運営へとつながっているように感じました。情報交換の場では、当時ヘリウムガスの供給が相当に切迫した状況となっていたこともあり、会員各社様とも確保は難しい状況である事、他ガスへの切り替えを検討している等の話題が有りました。

理事会では、岡崎顧問をはじめ、会長、副会長、理事皆様のご厚意に甘えて、社内では学べない、多くの事を学ばせて頂きました。週末に協会関係の業務をしておりますと、着手して初めていろいろな疑問・課題が見つかる事が多かったのですが、日曜日に「どうでしょう？」とメールをお送りしますと、(特に当時の甘崎会長は)日曜日中に回答を頂くことが常であったように思います。皆様の協会活動への熱心さに頭が上がりませんでした。

40周年にあたり、千環協が私共にとってどのような存在であったかを改めて考えました。当社では多くの社員がここで初めて社外での技術事例発表をさせて頂きました。今では中堅以上、管理職になりました社員が「千環協という場所は、とても暖かかった」と申しております。若手社員もセミナーやクロスチェック報告会などに参加させて頂き、初対面の同業の方と分析上の不具合などについて、緊張の面持ちながらも具体的な解決に向けた熱い議論をさせて頂きました。

現在、環境分析事業はコモディティ化・低価格化が進み、経営としては非常に厳しい状況にあります。しかし事業の根本である「(若手の育成も含めた)技術力」「分析値の信頼性」に千環協の活動が大きく貢献しており、会員各社様の努力によってこれが継続されていると確信しています。末筆ながら、お世話になりましたご関係の皆様へ感謝申し上げます、千環協、会員各社様のさらなるご発展を祈念申し上げます。

40周年を振り返って

株式会社ダイワ
菅谷 光夫

名門「紫カントリークラブ」での誘いを受けたのは平成3年の秋でした。

中村理事（当時、中外テクノス(株)東関東技術センター所長）より一緒に回りましょう。千環協ゴルフの特別バージョンと勝手に思い込んだ私は、「分かりました」と軽々返事をしたのを記憶しています。

ゴルフ当日は後藤顧問（当時、(株)環境管理センター役員後に社長）、加藤会長（当時、(株)住化分析センター千葉事業所長）、岡崎成美理事（当時、(株)出光興産）他の理事面々が総揃いの中プレイし、スコアにならなかったのは言うまでもありません。

翌平成4年4月総会での承認を得て微力ながら理事（広報委員長）を拝命し、右も左もわからない中、各委員の絶大な協力の下、「千環協ニュース」の発行を努めさせていただきました。当時は年3回の発行でしたので広報委員の皆様には相当な負担をお掛けし大変申し訳なく思っています。なんとか予定日までに発行した後の「特別委員会」での一杯は格別でした。委員の皆様大変ありがとうございました心より感謝申し上げます。

平成11年青木副会長（当時、(株)環境管理センター東関東支社長）の本社への栄転に伴い、広報委員長では才能が無い私を、副会長でガンバレと叱咤激励を受け、ほぼ強制的に名取会長（当時、セイコーアイ・テクノリサーチ(株)社長）からの要請を受け平成17年まで皆様の協力のもと努めさせていただきました。

この間、鴨川ホテルで開催した日環協関東支部環境セミナーで技術事例発表後の貸し切り露天風呂、夕食の鮑の踊り食いを200余名で食した場景、田中理事（当時、(株)環境管理センター東関東支社長）、藤谷理事（当時、中外テクノス(株)東関東技術センター副所長）他と海に見える窓越しのカウンターで飲んだ「山崎」の味が思い浮かびます。

また30周年記念式典の会場を初瀬川委員（東海地質）と模索し「京成ホテルミラーマーレ」を決め、理事会の承認を得られた時は、少しほっとした事を記憶しています。記念式典準備の任期途中でリタイヤしてしまい津上会長、内野副会長をはじめ理事の皆さんに多大なご迷惑をお掛けしたことを改めてお詫び申し上げます。軽音楽を聞きながら千環協記念ラベルのビールで「祝杯」が出来なかった事は残念でなりません。

40周年記念式典への案内状が届いた時は嬉しさと皆に会える楽しみ、懐かしさがこみ上げ感無量でした。素晴らしい式典では功労者表彰を頂き、祝宴では10年越しの「祝杯」を皆さんと上げることが出来ました。内野さん大変ありがとうございました。

末筆ながら千環協40周年を心からお祝い申し上げますと共に50周年に向け協会の益々の発展、会員皆様のご盛業と潤沢なる継続を心より祈念申し上げます。

50周年に向けて

日鉄住金環境株式会社
内野 洋之

私は、平成14年4月の総会で理事を拝命し、平成28年4月の総会で退任するまで、企画委員長を4年間、副会長を10年務めました。誰よりも千環協のお世話になったのだと思います。

このたび理事最後の仕事として40周年記念行事の実行委員長を務め、大勢の方に参加していただいたことで、最高の締めくくりとなりました。大変ありがとうございました。

さて、この10年間、副会長としての反省は、40周年記念行事のこの盛り上がりとは別に、千環協の各行事への参加者が増えなかったことです。

毎年1月17日の阪神淡路大震災の前後に新春講演会・賀詞交歓会が開催され、副会長挨拶をしてきました。このときいつも思い出されるのは、「震災で助け出された人の多くは、近所の人たちの協力であって、消防や自衛隊だけではない」というものです。業界に逆風が吹いている今こそ千環協が必要なのだと思います。

私個人にとっての千環協は、同じ仕事をし、同じ悩みを経験した仲間の集まりでした。

理事を拝命してまもなく、営業から現場への異動を打診され躊躇していたとき、社内では弱音を吐けず、理事の先輩に相談し、「男なら一度は大勢の部下を引き連れてみる！」と励ましていただきました。そのほか数限りなくヒントやアドバイスをいただきました。会社員として後半戦を有意義に、そして結果的には会社にも多少の貢献ができたのは千環協の皆様のおかげです。

会社としては受注を奪い合うライバル同士ではあっても、一人一人は同じ仕事をやる仲間です。仲間が集う場所が千環協だと思っています。これからの10年も、多くの方が千環協行事や委員会への参加を通して、自分のために役立てていただけたらと思います。それは結果として業界の活性化や会社の収益にもつながると信じています。

次の50周年に向けて、千環協のますますの発展を期待しています。

千葉県環境計量協会『創立 40 周年』に寄せて

習和産業株式会社
吉野 昭仁

千葉県環境計量協会(以下、千環協と略す)が創立40周年を迎えられたことをあらためてお祝い申し上げます。これも、協会を運営されている理事、及び会員の皆様のご尽力と努力の賜物と思います。また、記念式典の場においては、短い任期であったのにも拘らず功労者として表彰を賜り、本紙面をお借りしてお礼申し上げます。

今回、功労者表彰を受けて寄稿を書く事になり、改めて千環協の思い出を振り返ってみますと、色々な事が思い出されます。私が千環協の広報・情報委員会の委員長を拝命していたのは、平成24～27年度の4年間です。しかしながら、弊社が千環協に入会してから、私が是非聞いてみたいと思う講演のある行事にちょこちょこ出席するようになってから、早いものでもう30年以上経ちます。会場も現在のホテルプラザ菜の花ではなく、その当時は千葉ポートタワーに近い千葉県自治会館でした。入会して数年後に、現在の広報・情報委員会(当時はHPの運用がなかったため広報委員会と称していました。)に入れて頂き、その当時の広報委員長であった(株)ダイワの菅谷さんを中心とした各委員の方々に色々ご指導を頂きながら、お手伝いをさせて頂いたのを今では懐かしく思います。

各行事の後の懇親会では、会員各社の皆さんとお知り合いになれた事が、今では私の宝となっております。特に、弊社で実績がない測定・分析に対してアドバイスを頂いたり、外注対応して頂いたり、仕事面でも色々幅が広がりました。大変感謝しております。中には、たったひとつの質問に対して事細かに説明をして頂き、測定・分析のノウハウ的な部分を含めて2時間以上も対応して下さいました。これこそが千環協に加入している最大のメリットだと思います。

私は、創立30周年記念式典の際も当日のお手伝いをさせて頂きましたが、今回の40周年記念式典と比較してみますと、どちらも盛大にかつ大成功に終わったと思います。ただ、30周年記念式典の会場(京成ホテルミラマーレ)は出来たばかりで新しく、とても立派な会場での開催だったものですから、会場の雰囲気等はどうしてもランクが下がったように感じてしまったのは、私だけでしょうか。

近年、弊社に係わらず、色々な分野の協会加入について、経営的にメリットが得られるのかとか、同業が数多く集まることについてコンプライアンス的に問題がないのかと言われてしまう事が多くなったような感じがします。これらの事が問題となり、会員数もやや減少傾向にあるのかなと思う次第であります。

千環協の会員各社の皆さんが、協会の集まりに参加した後の社内報告等で、協会に参加する事の重要性やメリットを社内にもっとうまくPRして頂き、社内できちんと認識して貰う事が必要なのかなと思い、また年に1度ぐらいは上司の方にも参加して頂くようにして頂き、協会の活動内容をきちんと理解して頂く事が出来ればより参加しやすくなると思います。また、会員の皆様の日常お付き合いのある千環協に加入していない同業他社があるのであれば、千環協の良い処をどんどんPRして頂いて勧誘して下さい。きっと、徐々に会員数も増加していくようになると思います。

最後に、色々ご指導を頂きお世話になりました千環協と会員各社の皆様のご発展を祈念致します。

千環協40年間の歩み

1. 計量法関係動向

(経営・業務委員会)

計量法関係動向については、千環協ニュース創立 10 周年記念特集号の千葉県検量検定所による記事、創立 20 周年記念特集号の記事、創立 30 周年記念特集号の記事、ならびに平成 18 年に千葉県計量検定所よりいただいた「平成 8 年以降の計量制度関係動向」等を参考に編集しました。経済産業省、環境省のホームページも参考にしています。

昭和 49 年	<ul style="list-style-type: none"> ・計量証明事業に環境計量がはいる ・計量士の登録区分を創設し、一般、環境の 2 区分とした
昭和 50 年	<ul style="list-style-type: none"> ・環境計量証明事業登録開始 【計量器検定検査令改正】 ・ガラス電極式水素イオン濃度計を検定及び型式承認の対象器種とし、その検定の主体、有効期間を定めた 【計量法関係手数料令の全面改正】 【計量法施行令改正】 ・環境計量器の使用方法の制限を定めた
昭和 51 年	<ul style="list-style-type: none"> 【計量器検定検査令改正】 ・非分散型赤外線式濃度計を検定及び型式承認の対象とした
昭和 53 年	<ul style="list-style-type: none"> 【計量法第 16 次改定】 ・基本単位に物質量(モル)を追加、誘導単位に電気のコンダクタンス等を追加 ・流速計、流量計を計量器として追加 【計量法関係、手数料令の改正】 【計量法施行令改正】 ・磁気式濃度計、放射線式濃度計を計量器に追加
昭和 54 年	<ul style="list-style-type: none"> 【計量器検定検査令改正】 ・ひょう量 30kg 以下の電気抵抗線式はかりを検定対象に追加 ・ガソリン量器(口径 5cm 以下)、アネロイド型圧力計(2040kgf/cm² 以下)についての検定対象の拡大 【基準器検査令改正】 ・タキシーメーター用基準器、基準面積板、液体メーター用基準タンクの基準器検査の主体を都道府県知事に変更

昭和55年	<p>【計量法施行令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジルコニア式酸素濃度計、磁気式酸素濃度計について使用方法の制限を定める <p>【計量器検定検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気式タキシーメーター、光電式はかり、電気式アネロイド型血圧計の型式承認の開始 ・ジルコニア式酸素濃度計、磁気式酸素濃度計、振動レベル計の検定開始
昭和56年	<p>【計量関係手数料令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定検査の手数料を含め全面的改正
昭和57年	<p>【計量法第17次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊容器製造事業者の指定有効期間を3年から5年へ
昭和58年	<p>【計量法第18次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊容器製造事業者の指定を外国まで拡大 <p>【計量法施行令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁式はかりが計量器として追加 ・家庭用はかりを販売事業登録の対象計量器から削除 <p>【計量器検定検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気抵抗式はかりであって特定大型はかりについては、検定対象器種として追加 ・特定大型はかりの検定公差の変更 ・都市ガスメーターの検定有効期間の延長(7年→10年) (注)特定大型はかり:ひょう量が2tを超えるはかりで、m^2で表した載せ台の面積を、tで表したひょう量の値で除したものが5分の1を超えるもの ・基準湿式ガスメーターで、1回転20L以下のものが都道府県知事の検査になる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月1日より特定市として松戸市が指定される
昭和59年	<p>【計量法施行規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊容器の型式の一部変更
昭和60年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本たばこ産業(株)及び日本電信電話(株)の民間化により指定事業場の指定権限が国から都道府県知事に委譲

昭和 61年	<p>【計量法第20次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気計器等の検定等の主体に指定検定機関が追加 <p>【計量法施行令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NTT、ガス、電気供給業に係わる計量器使用事業の指定権限を大臣から知事へ委任 <p>【計量法施行規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格による環境計量士の登録要件に「環境計量に関する実務に1年以上従事した者」を新たに追加
昭和 62年	<p>【計量施行令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の補助計量単位に新たにヘクトパスカルを追加 ・竹製の巻尺等7機種を計量法の対象となる計量器から除外した <p>【計量器検定検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直示てんびんを検定を行わない計量器に追加 <p>【基準器検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準台手動はかりの一部の基準器検査の事務を知事に委譲 ・基準直尺等9器種の基準器検査の有効期間を延長 ・日本国有鉄道の民営化に伴い計量器使用事業場の指定権限を知事へ移行
昭和 63年	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入計量器のうちガラス製体温計、アネロイド型血圧計の検定を（財）機械電子検査検定協会が行うこととなる
平成 元年	<p>【計量法第21次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入により計量関係手数料等改正 <p>【計量器検定検査規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気抵抗線式はかりの質量の1目盛の値等と表す量の比を「6000分の1以上」に改正 ・基準こうかん、基準電気抵抗線式ロードセルを使用して検査のできるはかりの範囲をひょう量が「30kg以上の」はかりに拡大 ・デジタル式振動レベル計の技術基準の追加 <p>【基準器検査規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LPG用基準浮ひょう型密度計の目盛範囲の下限を「0.47g/cm³」に改正
平成 2年	<p>【計量法第22次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度の現示の方法の定義を改正(国際度量衡総会の採択を導入) ・24年ぶり計量法全面見直しの方針固める
平成 3年	<p>【計量器検定検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油ガスメーターの有効期間の延長(10年) <p>【計量法規則関係改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊容器の型式変更等 ・アネロイド型血圧計の技術基準の改正 ・計量制度100年記念

平成 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・新計量法が5月20日公布される 改正の主な要点 <ol style="list-style-type: none"> 1.計量単位の国際単位系(SI)への統一 2.計量器に係わる規制の見直し 3.計量標準認証制度の創設 4.消費者保護関連制度の見直し ・計量法施行期日を定める制令(11/1)、計量単位令(11/1)、計量単位規則(11/30)の公布 						
平成 5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「特定商品の販売に係わる計量に関する制令」の公布 ・計量法施行令の公布 ・計量法関係手数料令の公布 ・計量法施行規則ほか各省令が順次公布 ・「新計量法」施行 ・新計量法施行関係告示(指定校正機関告示ほか)相次ぐ ・計量記念日を11/1に変更する通達 ・(財)機械電子検査検定協会が(財)日本品質保証機構(JQA)に名称変更 						
平成 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音・振動レベル計用レベルレコーダーが検討対象となる 						
平成 7 年	<ul style="list-style-type: none"> ・計量証明対象物質名及び計量の方法と機器または装置について通達が出る 						
平成 8 年	<p>【特定計量器検定検査規則及び基準器検査規則の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特級基準分銅の及び実用基準分銅使用制度の創設 ・基準器検査の受検対象者範囲縮小へ (温度、密度、比重基準器を含む関係法令施行平成8年11月1日～) 						
平成 9 年	<ul style="list-style-type: none"> ・計量単位切換えに係る第二次猶予期限到来(マイクロン、サイクル等) ・日本圧力計温度計工業会発足(日本金属製温度計工業組合及び日本圧力計工業組合が解散、合体移行平成9年4月1日) 						
平成 10 年	<ul style="list-style-type: none"> ・計量行政審議会から基準認証制度の見直しを答申 ・騒音計、pH指示計、pH検出器は政令第90号により検定有効期間が延長 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">騒音計</td> <td>3年から5年</td> </tr> <tr> <td>pH指示計</td> <td>3年から5年</td> </tr> <tr> <td>pH検出器</td> <td>1年から2年</td> </tr> </table> 	騒音計	3年から5年	pH指示計	3年から5年	pH検出器	1年から2年
騒音計	3年から5年						
pH指示計	3年から5年						
pH検出器	1年から2年						

平成11年	<p>【中央省庁等改革一括法改正, 地方分権一括法成立及び地方自治法一部改正に伴う計量法及び関係法令の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政組織, 審議会規定等の見直し ・地方自治体の事務を機関委任事務から自治事務と法定受託事務へ再構築 ・地方自治体職員の計量教習の受講義務の廃止 ・振動レベル計, 濃度計の検定有効期間の延長 ・計量単位切換えに係る第三次猶予期限到来 (重量キログラム, 重量キログラム毎平方メートル等), S I 化完了 ・振動レベル計, ジルコニア式酸素濃度濃度計等は政令 154 号により検定期間が延長 振動レベル計 3年から6年 ジルコニア酸素濃度計等 5年から8年
平成12年	<p>【千葉県使用料及び手数料条例の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計量法関係事務の自治事務化による計量関係手数料の設定 <p>【特定計量器検定検査規則の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非自動はかりに係る新技术基準の改正 (国際勧告 O I M L R 76 への整合) ・極微量物質 (ダイオキシン類) の濃度の単位として pg/m^3 (1 兆分の 1 (ピコ) g) が使われる ・基準器 (温度、密度、比重基準器を含む) の検査証印有効期間延長
平成13年	<p>【基準認証一括法改正に伴う計量法の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定機関公益法人要件の撤廃 ・J C S S 階層制の導入 ・「届出済証」貼付非自動はかりの取引・証明に係る経過措置終了 <p>【計量法施行規則 省令第 250 号発令】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計量証明の発行に関する事項[計量証明書に法第 110 条の 2 第 1 項の標章 (登録ロゴマーク) を付す場合は標章の取扱いに関する事項を含む]を追加 ・計量証明書の事業の工程の一部を外部のものに行わせる場合の取扱いに関する事項
平成14年	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシン類の計量証明事業 (特定計量証明事業) を行う事業者の認定制度 (M L A P 認定制度) の開始 ・濃度の計量単位に質量一兆分率, 質量千兆分率, 体積一兆分率, 体積千兆分率が追加 ・計量証明事業の登録区分に特定濃度追加 ・計量証明事業者, 認定特定計量証明事業者が計量証明書に付する標章の制定 ・千環協会員は計量検定所の指導の下で事業規定の変更を実施 ・特定計量証明事業認定制度 (M L A P) が加わる
平成15年	<p>【公益法人一括法の改正に伴う計量法の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計量法校正事業者制度 (J C S S) 認定から登録制度への移行 ・計量法施行令第 28 条第 1 号における「水」の範囲に係る解釈が経済産業省から示される ・極微量物質 (ダイオキシン類) 関係の措置 ・計量証明事業区分に、特定濃度が新たに設けられる ・現にダイオキシン類の計量証明事業を行っているものは平成 15 年 4 月 1 日以降当該業務が出来なくなる

平成 16 年	<p>【特定計量器検定検査規則の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非自動はかりに係る重力加速度の補正の式等を変更 ・計量行政の現制度の問題点や進むべき方向として ・規制緩和（官主導から民主導へ、自己責任の時代） ・適正計量の確保（精度管理、企業倫理、立入検査、等） ・国際化（MLAP、登録制度、計量証明書、MRA、等） ・地方分権（機関委任事務から自治事務へ）
平成 17 年	<p>【計量法施行規則，特定計量器検定検査規則の改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定計量器（7機種：タクシーメーター，非自動はかり，ガラス製体温計，抵抗体温計，水道メーター，温水メーター及び電気式アネロイド型血圧計）の技術基準をJ I S規格引用 ・タクシーメーターに係る頭部検査及び運賃改定時の装置検査の廃止並びに新基準メーターの基準を制定（平成26年まで完全移行） ・計量制度の見直しが計量行政審議会に諮問される ・計量単位と標準について、標準物質の決め方は暫定的に決めることとする ・計量証明事業について不正事項に対する罰則規定を検討する ・例えばMLAPについては登録を取り消す等の対応を検討している
平成 18 年	<p>【計量行政審議会標準部会審議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定副標準器の指定並びに特定標準器及び特定副標準器の指定の取消しについて（光（分布温度）） ・校正等の実施（範囲の拡大）（電圧（低周波）） ・特定標準物質（酸素標準ガス） ・計量標準供給体制の整備状況 ・特定標準器「量子ホール効果抵抗測定装置」の改修完了報告 ・GPS衛生仲介法による周波数遠隔校正について ・特定標準器「液体流量校正施設」の一時停止について
平成 19 年	<p>【計量行政審議会標準部会審議内容】</p> <p>【第一回計量標準部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定標準器の指定及び校正の実施について・・・電気（高周波）：高周波インピーダンス ・校正等の実施について・・・電気（高周波）：光減衰量 ・校正等の実施について・・・温度（抵抗温度計） ・校正等の実施について・・・振動加速度 <p>【第二回計量標準部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校正の実施について・・・流量・流速：液体流量校正装置、流量・流速：石油用流量計、電気（高周波）：電磁波の減衰量 ・特定標準器の指定及び校正の実施について 放射線：速中性子フルエンス ・標準物質の値付けの実施について・・・揮発性有機化合物12種混合標準ガス、揮発性有機化合物7種混合標準ガス、アセトアルデヒド標準ガス）、ほう素標準液、金属15種混合標準液、陰イオン7種混合標準液、ホルムアルデヒド標準液

平成 20 年	<p>計量制度検討小委員会報告書 平成5年以來の特定計量器の見直し、型式承認の手数料の見直し等。主な内容は以下のとおり。</p> <p>【計量器の規制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規制対象となる特定計量器の見直し ・国際的整合化のための技術基準・規程のJ I S化の推進 ・検査・検定手数料の実情に合わせた見直し ・家庭用計量器を環境整備を行った上で規制対象外へ <p>【商品量目制度及び自主的な計量管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品量目制度等の着実な運用（不正事業者名公表手続の整備等） ・登録更新制等の導入による計量士の能力の維持・向上の確保と計量士を活用した執行の充実（より多くの立入検査の実施） ・一般国民の計量制度に対する関心・知識の向上
平成 21 年	<p>「計量法に基づく検定・検査業務の実施について(技術的助言)」(平成21・05・28産第16号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県が実施する計量器の検定、装置検査及び基準器検査につき、アウトソーシングを行う場合の在り方について、計量行政室としてのスタンスを明確にするため、地方自治法に基づく技術的助言として発出したもの。 <p>【計量行政審議会標準部会審議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校正等の実施について・・・光：分光放射照度 ・特定標準器及び特定副標準器の指定の取消し、校正等の取りやめ、特定標準器の指定並びに校正等の実施について・・・電気（直流・低周波）：交流電流 ・校正等の実施について 電気（高周波）：高周波インピーダンス
平成 22 年	<p>【事後規制の有効性確保】 不正事業者名の公表手続き整備(平成22年4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の執務参考用ガイドラインに不正事業者名の公表規定及び手続きを追加 <p>【規制の合理化】 特定計量器の見直し</p> <p>特定計量器の見直しに伴い、次の3機種を特定計量器から削除（平成22年5月）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユンケルス式流水型熱量計 ・ボンベ型熱量計 ・ベックマン温度計 <p>【運用の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体の計量法執行業務の参考とするための解釈運用や執務参考用ガイドラインについて、地方自治体と検討を行い、現場の実態を踏まえて随時見直しを実施。 ・（独）産業技術総合研究所が行う型式承認に係る手数料を業務の実務実態にあわせたものに改定（平成22年5月） <p>【常用漢字から計量に関わりのある漢字を削除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字から、計量にかかわりのある銚(せん)、錘(すい)、勺(しゃく)、匁(もんめ)、脹(ちょう)が削除。

平成 23 年	<p>【計量行政審議会標準部会審議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震の影響により独立行政法人産業技術総合研究所の特定標準器による校正を行えない計量器に係る校正の期間の延長等を行うことについて ・東北地方太平洋沖地震に起因して生じた事態に対応するため「計量法に基づく登録事業者の登録等に係る規程」の特例等を定める規程 <p>【計量法改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震に起因して生じた事態に対応するための計量法施行規則の特例に関する省令及び第二条の規定に基づく特例特定二次標準器及びその校正の期間の告示（平成23年7月）
平成 24 年	<p>【計量法改正】</p> <p>スマートメーターの導入インセンティブを付与する観点から、計量法に基づく検定手数料を引き下げる見直しを行ない、検定手数料を約4割引き下げ。（計量法関係手数料令）</p>
平成 25 年	<p>【技術革新への対応・国際整合化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計量器の使用から生ずる技術上及び行政上の諸課題を国際的に解決するための条約機関OIML（国際法定計量機関）に加盟、議論に参加。OIMLの18の技術委員会に対応する国内委員会を組織し、年間、約40件の勧告案を検討、審議、提案。 ・国際法定計量機関（OIML）の勧告等を踏まえJISを策定。これまで策定されたJISのうち23件を特定計量器検定検査規則（特定計量器の技術基準）への引用実施（血圧計等7件については、平成25年4月に実施）。 ・日本はTC8（流量計の技術委員会）の幹事国（平成24年～） <p>【生体内圧力の恒久化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体内の圧力に関するmmHg等の6単位を恒久化
平成 26 年	<p>【自動はかりの計量性能技術基準のJIS化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホップスケールのJIS公示・・・JIS B7603

平成 27 年	<p>【水素燃料計量システムの計量性能技術基準のJ I S化】 水素燃料の取引の際、適正計量が行われることは、取引当事者間、とりわけ消費者保護の観点から極めて重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水素ステーション普及の促進（研究・技術開発の促進）と適正計量の確保との両立 ・O I M L 提案を前提にすることによって、計量器メーカーの国際市場獲得を期待 ・平成 27 年度 J I S 原案作成委託事業を実施し、平成 27 年 11 月終了、平成 28 年 5 月公示
平成 28 年	<p>【特定計量器検定検査規則及び計量法施行規則の一部改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力計、濃度計、家庭用特定計量器等 15 器種に関する特定計量器検定検査規則を改正し、特定計量器等として規定された技術基準の J I S 引用が完了した。 ・関連する特定計量器等 <ol style="list-style-type: none"> ①アネロイド型圧力計・・・アネロイド型圧力計、鉄道車両用ブルドン管圧力計 ②ジルコニア式酸素濃度計(全 9 器種) ③ガラス電極式水素イオン濃度指示計 ④家庭用特定計量器・・・体重計、乳幼児用体重計、調理用はかり <p>【自動はかりの計量性能技術基準の J I S 化】・・・原案作成予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動捕捉式はかり（キャッチウェイヤ） ・充填用自動はかり ・コンベヤスケール

2. 千葉県環境関係動向

(経営・業務委員会)

	千葉県の主なできごと	環境関係の動向
昭和50年	<ul style="list-style-type: none"> ・都市対抗野球で電々関東千葉優勝 ・全国高校野球大会で習志野高校が優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ・公害防止に関する細目協定書が36社、41工場と締結される
昭和51年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県新総合5ヵ年計画51-55)が策定 ・稲毛人工海浜がオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機騒音防止法に基づく第一種地域当を指定(成田空港周辺地域) ・水質調査船(きよすみ)403t建造 ・廃棄物対策課を生活環境課に改称 ・勝浦海中公園整備事業開始 ・市川市等におけるクロム鉱さい埋立地の環境汚染対策に関する基本方針及び環境汚染防止対策実施要領制定 ・県内企業12社と公害防止協定を締結 ・大気汚染監視センター設置 ・SO_xに係る総量削減計画の策定及び総量規制基準を県告示(51. 10. 1 施行) ・水質汚染防止法に基づき排水基準を定める条例一部改正(52. 1. 1 施行)
昭和52年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市都市モノレール素案決まる ・新空港にそなえ、騒音測定実施 ・心身障害者職業センター開設 ・県内企業倒産史上最高 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪臭防止法に基づく追加3物質に係る規制基準を県告示 ・環境浄化推進県民運動開始 ・振動規制法に基づき規制地域、規制基準等を県告示(53. 1. 1 施行 千葉市・市川市当21市町) ・騒音規制法に基づき規制地域の拡大を県告示(銚子市) ・千葉県産業廃棄物処理計画(53-60年度)策定
昭和53年	<ul style="list-style-type: none"> ・新東京国際空港(成田)開港 ・富津沖埋立て工事着手 ・武蔵野線が開通 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機騒音に係る環境基準の地域類型指定を県告示(成田空港関係13市町、羽田空港関係2市)

昭和54年	<ul style="list-style-type: none"> ・6都市首脳会議発足 ・千葉市ニュータウン入居開始 ・米軍柏通信所跡地全面返還 ・北千葉広域水道給水開始 	<p>二酸化窒素に係る千葉県環境目標値(0.04ppm)設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県し尿浄化槽取扱指導要綱全面改訂(54.5.1施行) ・(社)千葉県産業廃棄物処理業協会設立 ・(社)千葉県浄化槽検査センター設立 ・千葉県行徳野鳥観察舎完成
昭和55年	<ul style="list-style-type: none"> ・冷夏により、農作物に被害甚大 ・千葉県長期構想を策定 ・千葉県救急医療センター完成 ・長生郡市広域水道が給水を開始 ・千葉港上半期輸入額で全国一 ・東京ディズニーランド起工式 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉臨海地域に係る新公害防止計画(54-58年度)策定 ・県内企業50社と公害防止細目協定を改定締結 ・東京湾に係るCOD総量削減計画を公表 ・日化工(株)六価クロム鉱さいの撤去・封じ込め措置完了 ・東京湾に係るCOD総量規制基準を県告示(55/7.1施行) ・大気汚染情報テレホンサービス開始 ・騒音規制法及び振動規制法に基づき規制地域の拡大等を県告示(我孫子市、沼南町、富里村、白井町) ・勝浦海中公園に海中展望塔オープン ・千葉県環境影響評価の実施に関する指導要綱制定(56.6.1施行)
昭和56年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県立衛生短期大学開校 ・四街道、浦安市制施行 ・千葉リハビリテーションセンターがオープン ・千葉県第2次新総合5ヵ年計画(56-60年度)が策定されスタート ・東総用水事業完成 ・国鉄総武線津田沼、千葉間複々線化完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県環境影響審査会設置 ・県内企業11社と地盤沈下防止協定を改定締結 ・公害研究所に騒音・振動研究棟完成

昭和57年	<ul style="list-style-type: none"> 千葉都市モノレール部建設に着手 印旛沼、手賀沼水質管理計画策定 千葉県栽培漁業センターがオープン 東京湾横断道路が国の第9次道路整備5ヵ年計画案に盛り込まれる 国鉄常磐線、我孫子・取手間の複々線化工事完成 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県空き缶等対策推進要綱制定(57.2.13 施行) 千葉市以北のガラス製造4社と窒素酸化物に関する覚書の締結 千葉県家庭雑排水処理指導要綱制定(57.4.1 制定) 印旛沼水質管理計画及び手賀沼水質管理計画策定 家庭雑排水共同処理施設技術指針策定(57.4.1 策定) 新東京国際空港周辺地域における航空機騒音対策基本方針決定 水質汚濁防止法に基づき排水基準を定める条例一部改正(58.1.1 施行)
昭和58年	<ul style="list-style-type: none"> 国立歴史民俗博物館が佐倉市にオープン 東京ディズニーランドが浦安市にオープン 成田空港の燃料輸送用パイプライン完成 県人口500万人突破 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県窒素酸化物対策指導要綱制定(58.4.1 施行) 美しいふるさとづくり運動の実施 深夜営業騒音等の規制強化に係る方針(市町村公害防止条例の改正等)を市町村に通知 柏通信所跡地地区土地区画整理事業に係る環境影響評価書を公表、縦覧
昭和59年	<ul style="list-style-type: none"> 国際武道大学開校 県民の日(6/15)制定 千葉ニュータウン線、一部開通 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音規制法及び振動規制法に基づく規制地域の拡大等を県告示(館山市、佐原市、東金市、旭市、八街市を新規指定) 湖沼の窒素及びりんに係る環境基準に基づき印旛沼、手賀沼も水域類型を指定 千葉県産業廃棄物処理計画(59-65年度)策定 大気汚染防止法に基づき排出基準を定める条例(上乘せ条例)一部改正(58.10.18 施行) 財団法人印旛沼環境基金設立(県及び関係15市町村)
昭和60年	<ul style="list-style-type: none"> 千葉市動物園開園 放送大学開校 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音規制法及び振動規制法に基づく規制地域の拡大等を県告示(茂原市、八日市場市、勝浦市、関宿町、栄町、小見川町、大原町を新規指定) 県内企業50社と公害防止細目協定を改定締結 千葉臨海地域公害防止計画(59-63年度)策定(計画地域を26市町村に拡大) 水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定を県告示(高崎川、師戸川、亀成川)

昭和61年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本コンベンションセンター設立 ・県立房総のむら開設 ・千葉ポートタワー開業 ・上総新研究開発都市の第一期事業化計画作成 ・木原線が第三セクター方式で存続決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県炭化水素対策指導要綱」制定 ・「ふるさと千葉環境プラン」策定 ・「千葉廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」制定 ・騒音規制法及び振動規制法に基づく規制地域の拡大等を県告示
昭和62年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉都市モノレール「タウンライナー」の試運転 ・幕張メッセの起工式 	<ul style="list-style-type: none"> ・印旛沼、手賀沼の「湖沼水質保全計画」を策定 ・第2次「東京湾COD総量削減計画」策定 ・第2次「東京湾富栄養化対策指導指針」策定
昭和63年	<ul style="list-style-type: none"> ・市原市で3世紀の前方後円墳発見 ・千葉市モノレール開業 ・JR京葉線が蘇我－新木場間で延長開業 	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音規制法及び振動規制法に基づく規制地域の一部改正等を県告示
平成元年	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾横断道路の起工式 ・県内各地で集中豪雨 ・幕張メッセがオープン ・国指定史跡に無断で道路建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県地下水汚染防止対策指導要綱」の制定 ・「ふるさと千葉のゴミ問題を考える懇談会（トーク・ザ・クリーンちば）」の設置 ・「千葉県環境影響評価の実施に関する指導要綱」一部改正
平成2年	<ul style="list-style-type: none"> ・JR京葉線全線開業 ・千葉マリスタジアムオープン ・深刻な水不足で取水制限 ・安房郡農家でコピー牛誕生 ・外房地方を竜巻が襲い大被害 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業49社と公害防止細目協定を改定締結 ・「千葉県県外産業廃棄物の適正処理に関する指導要綱」制定 ・「千葉県地域公害防止計画」 ・「ふるさと千葉アメニティプラン」策定 ・「千葉県地域環境保全基金条例」策定 ・「千葉県自然公園における建築物建設に係る指導要綱」制定

平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ・かずさアカデミアパーク起工式 ・袖ヶ浦市誕生 ・千葉都市モノレールが JR 千葉駅に乗り入れ ・三番瀬埋め立て問題を考えるシンポジウム開催 ・国民文化祭開催 ・成田空港シンポジウム開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾の第3次「化学的酸素要求量に係る総量削減計画」策定 ・水質汚濁防止法に基づく生活排水対策重点地域に千葉市、松戸市及び柏市を指定 ・「千葉みどりの基金条例」制定 ・「千葉県立自然公園条例」一部改正（車馬の使用等の制限） ・「千葉県自然環境保全条例」一部改正（車馬の使用等の制限等） ・「千葉県産業廃棄物処理計画」（3年度～7年度）策定 ・第3次の「東京湾富栄養化対策指導指針」策定 ・騒音規制法、振動規制法に基づく規制地域の拡大等を県告示 ・悪臭防止法に基づく規制地域等を県告示（旧告示は廃止）（千葉市等43市長村） ・航空機騒音に係わる環境基準の地域類型指定の一部改正を県告示（下総飛行場関係2市2町）
平成4年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市の政令指定都市移行 ・千葉ロッテマリーンズ誕生 ・全国豊かな海づくり大会開催 ・青葉の森公園芸術文化ホール完成 ・幕張新都心の街づくりで日本都市計画学会の「石川賞」受賞 ・千葉急行線部分開業 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県自動車交通公害防止計画」策定 ・「千葉県環境学習基本方針」策定 ・「千葉県定置型内燃機関窒素酸化物対策指導要綱」策定 ・「千葉県化学物質環境保全対策指導指針」の施行 ・「千葉県環境会議」の設置 ・「千葉県環境調整検討委員会」の設置 ・「みどりの基本構想」の策定 ・「地球環境フェスティバルちば'92」の開催
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港問題円卓会議の開催 ・谷津干潟のラムサール条約登録 ・県誕生百二十周年記念事業 ・大手出版社長らによる成田空港開港以来の大型コカイン密輸事件の検挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県環境憲章」の制定 ・「千葉地域公害防止計画」 ・「ふるさと千葉のゴミ減量推進協議会」の設置 ・「アジア・太平洋環境会議」の開催 ・「湖沼水質保全特別措置法に基づく汚濁負荷量に係る規制基準」（窒素含有量及び燐含有量）制定 ・「千葉県地球環境保全行動計画」の策定 ・自動車NOx削減法に基づき「千葉県自動車排出窒素酸化物総量削減計画」策定

平成 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港問題円卓会議の終結 ・かずさDNA研究所の開所とかずさアカデミックセンターの着工 ・千葉県科学会議の開催 ・千葉県立現代産業科学館の開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・「計量法」施行に伴い騒音規制法の規制基準の一部改正告示（ホン→デシベル） ・悪臭防止法に基づく規制基準告示（追加 10 物質） ・「千葉県廃棄物情報技術センター」の設置 ・「千葉県環境審議会」設置 ・「千葉県ごみ減量化推進県民会議」設置 ・「千葉県のごみの減量化と再資源化を進める基本方針」策定
平成 7 年	<ul style="list-style-type: none"> ・館山自動車道路の開通 ・千葉新時代 5 年計画の策定 ・第十二回全国都市緑化千葉フェアの開催 ・成田空港地域共生委員会の開催 ・千葉都市モノレールの一号線の開業 ・家庭ゴミ指定袋制度スタート ・千葉ロッテマリーンズがパ・リーグ二位 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業 53 社と公害防止細目協定を改定締結 ・「千葉県炭化水素対策指導要綱」一部改正 ・高滝ダム上流域水道原水水質保全事業実施促進計画を策定 ・「千葉県環境基本条例」の制定 ・「千葉県環境保全条例」の制定 ・「公共事業における産業廃棄物の再資源化及び再生品の利用の促進に関する基本方針」の策定 ・「千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」の一部改正 ・「千葉県のゴミ減量化行動計画」策定 ・地盤沈下防止協定細目協定の改定（天然ガス関係）
平成 8 年	<ul style="list-style-type: none"> ・東葉高速鉄道開通 ・成田空港元小川派代表が移転同意 ・耐震対策充実強化 ・O157 感染女児死亡 ・水不足による 30%利根川取水制限 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県溶融スラグ利用促進指針」の策定 ・「千葉県定置型内燃機関窒素酸化物対策指導要綱」の一部改正 ・「化学的酸素要求量に係る総量規制基準」の設定 ・騒音規制法、振動規制法及び悪臭防止法に基づく規制地域の一部改正の県告示 ・「東京湾富栄養化対策指導指針」の策定

平成9年	<ul style="list-style-type: none"> ・かずさアークオープン ・「ダイヤモンドグレース号」原油流出事故 ・(財)成田空港周辺地域共生財団設立 ・幕張メッセ新展示場オープン ・東京湾アクアライン開通 	<ul style="list-style-type: none"> ・「印旛沼及び手賀沼に係る第3期湖沼水質保全計画」の策定 ・「千葉県地下水汚染防止対策指導要綱」の一部改正 ・「千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」の一部改正 ・「千葉県化学物質環境管理指針」の策定 ・「千葉県自然公園特別地域における大規模な開発行為に係る指導要綱」の制定 ・「千葉県土砂等埋め立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例」の制定 ・「騒音規制法」、「振動規制法」及び悪臭防止法に基づく規制地域の拡大等の告示 ・環境新技術推進制度(エコテク・サポート)スタート ・「千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」の一部改正
平成10年	<ul style="list-style-type: none"> ・芝山鉄道着工 ・「千葉県循環器病センター」がオープン ・千葉東金道路二期が開通 ・米の新品種「ふさおとめ」初出荷 ・総合産業支援施設「東葛テクノプラザ」オープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉地域公害防止計画」(9~13年度)の策定 ・「千葉県一般廃棄物処理マスタープラン」の策定 ・「千葉県野性猿保護管理計画」の策定 ・「県立九十九里自然公園」車両乗り入れ規制区域の指定 ・東京湾に係る第4次「化学的酸素要求量に係る総量規制基準」の一部改正告示 ・「千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」の一部改正 ・「千葉県環境影響評価条例」の制定 ・「千葉県廃棄物処理施設設置等専門委員会」の設置 ・「小型廃棄物焼却炉等に係るダイオキシン類及びばいじん排出抑制指導要綱」の制定 ・「水質汚濁防止法に基づき排出基準を定める条例」の一部改正
平成11年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県長期ビジョン「みんなでひらく2025年のちば」策定 ・千葉都市モノレール千葉駅~県庁前駅間開業 ・かずさいんキュベーションセンターのオープン ・富津館山道路富津竹岡~鋸南富山間開通 ・成田空港平行滑走路工事着工 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁に係る環境基準の一部改正 ・「悪臭防止法施行規則等」の一部改正 ・「千葉県環境保全条例施行規則」の一部改正 ・「千葉県県外廃棄物の適正処理に関する指導要綱」の一部改正 ・「千葉県レッドデータブック植物編」の公表 ・「千葉県立自然公園条例施行規則」の一部改正 ・「千葉県自動車排出窒素酸化物総量抑制指導要綱」の制定

平成12年	<ul style="list-style-type: none"> ・市川二期・京葉港二期地区の見直し計画案を千葉県環境会議に報告 ・東京湾アクアラインの通行料金引き下げ ・千葉県行政改革の一環として本庁部課の再編、公社等外郭団体の統合推進 ・北総公団線全線開通 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉ごみゼロプラン」(第二次千葉県ごみ減量化と再資源化を進める基本方針)の策定 ・「千葉県立自然公園事業執行認可等の取扱要綱」の制定 ・「騒音規制法」、振動規制法及び悪臭防止法に基づく規制地域の拡大等告示 ・「千葉県レッドデータブック動物編」の公表 ・「千葉県地球温暖化防止計画」の策定
平成13年	<ul style="list-style-type: none"> ・堂本暁子知事就任 ・日本最初のBSE感染牛が白井市で確認 ・東京ディズニーシーオープン ・首都圏中央道 木更津～茂原間着工 	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県レッドデータブックー普及版ー」の公表 ・航空機騒音に係る環境基準の地域類型指定の一部改正告示 ・「千葉県ディーゼル自動車排出ガス対策指針」の策定 ・鉛等の環境保全対策のため、千葉県射撃場を一時全面使用中止 ・「千葉県自然公園施設設置条例」の一部改正
平成14年	<ul style="list-style-type: none"> ・三番瀬再生計画検討会議(三番瀬円卓会議)設置 ・成田空港の暫定平行滑走路供用開始 ・手賀沼 27年間続いた湖沼水質ワースト1返上 ・芝山鉄道開業 ・千葉県人口 600万人到達 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港周辺航空機騒音監視システムを整備 ・「千葉環境再生計画」の策定 ・「水質汚濁防止法に基づき排水基準を定める条例」の一部改正 ・「千葉県環境保全条例」の一部改正 ・「千葉県廃棄物処理計画」(13～17年度)の策定 ・「千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例」の制定 ・「東京湾広域異臭発生時の対応要領」の制定 ・「印旛沼及び手賀沼に係る第4期湖沼水質保全計画」の策定 ・「東京湾に係る「化学物質酸素要求量に係る総量規制基準」、「窒素含有量に係る総量規制基準」、「りん含有量に係る総量規制基準」の告示 ・「千葉県ディーゼル自動車から排出される粒子状物質の排出抑制に関する条例施行規則」の制定 ・「千葉県環境保全条例施行規則」の一部改正
平成15年	<ul style="list-style-type: none"> ・第54回全国植樹祭開催 ・千葉県里山条例施行 ・ディーゼル自動車運行規制スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県特定鳥獣保護管理計画の策定 ・千葉県レッドリスト(植物編)〈維管束植物改訂版〉の公表 ・「千葉県立自然公園条例」の一部改正 ・「千葉県自動車交通公害防止計画」の策定 ・「バイオマス立県ちば」推進方針の策定 ・「千葉県自動車排出窒素酸化物及び自動車排出粒子状物質総量削減計画」の策定

平成16年	<ul style="list-style-type: none"> ・「あすのちばを開く10のちから～千葉主権の確立～」策定 ・富津館山道路全線開通 ・「観光立県ちば推進ビジョン」策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画」の策定 ・千葉県レッドリスト(植物編) (2004年改訂版)の公表 ・「三番瀬再生会議」の設置
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ・平成の大合併による市町村再編 ・つくばエクスプレス開業 ・千葉ロッテマリーンズ優勝 ・千葉県アスベスト問題対策会議設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県特定鳥獣保護管理計画の策定 ・悪臭防止法に基づく臭気指数規制区域の告示 ・千葉県市町村震災廃棄物処理計画策定指針の改正
平成18年	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港平行滑走路北伸着工 ・市川市に建築設計事務所による耐震強度構造計算書偽装に係る建築基準法等違反事件の検挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県生活排水対策マニュアル作成 ・千葉県レッドリスト(動物編)改定 ・千葉県緑化協定制度見直し ・千葉県地球温暖化防止計画改定
平成19年	<ul style="list-style-type: none"> ・館山自動車道(東関東自動車道千葉富津線)が全線開通 ・G20グレンイーグルズ閣僚級対話の千葉県開催が決定 ・千葉地方裁判所が、県の産業廃棄物最終処分場の設置許可を取消す 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県三番瀬再生計画(事業計画)の策定 ・「エネルギーフロントランナーちば推進戦略」の策定 ・「千葉県硫酸ピッチの生成の禁止に関する条例」の制定 ・化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量削減計画の策定
平成20年	<ul style="list-style-type: none"> ・海上自衛隊イージス艦「あたご」と漁船「清徳丸」の衝突事故 ・成田国際空港開港30周年 ・中国産冷凍餃子による有機リン系化合物「メタミドホス」の薬物中毒事件発生 ・三番瀬海域における漁業補償問題に係る民事調停の成立 ・幕張メッセで「G20グレンイーグルズ閣僚級対話(G20)」が開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の環境政策を担う4つの計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> I. 千葉県環境基本計画～千葉県の環境政策の新しいマスタープラン～ II. 生物多様性ちば県戦略～生命(いのち)の賑わいとつながりを子どもたちの未来へ～ III. ちば県環境学習基本計画～環境のために主体的に行動する人づくり～ IV. 千葉県廃棄物処理計画(第7次)～3Rと適正処理の推進～ ・生物多様性ちば県戦略の策定 ・千葉県硫酸ピッチの精製の禁止に関する条例の改正

平成21年	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾アクアラインの通行料金引下げ（800円化） ・森田健作千葉県知事が就任 ・農業産出額全国第2位奪還 ・不正経理問題の発生 ・成田国際空港 B 滑走路の供用開始 ・新型インフルエンザの世界的な大流行 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県環境大使に野口健氏を任命、不法投棄問題への対応や子供の環境教室を開催 ・千葉県廃棄物対策推進会議設置
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会の開催 ・千葉ロッテマリーンズ、5年ぶりの日本一 ・成田スカイアクセス開業(日暮里と空港第2ビル間最高時速160キロ、最速36分) ・宇宙飛行士山崎直子さんへの県民栄誉賞の授与 ・東京湾アクアライン 800円社会実験～交通量は1.5倍 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県及び千葉市、木更津市、市原市、君津市、富津市、袖ヶ浦市は環境保全協定を千葉臨海地域に進出している主要企業51社との間で協定を締結。 ・「ちば食べきりエコスタイル」（家庭や飲食店などから発生する食品廃棄物の削減）を推進
平成23年	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の発生～本県でも原発事故により深刻な影響 ・千葉県選出初の首相～民主党野田内閣発足 ・柏レイソル、Jリーグ初優勝 ・チーバくん千葉県マスコットキャラクターに就任 ・天皇皇后両陛下がご来県 ・高病原性鳥インフルエンザの発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県海岸漂流物対策地域計画の作成 ・千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例の改正 ・東日本大震災を契機とした環境分野での取組 <ul style="list-style-type: none"> ①大気環境や海水中の放射能モニタリング ②災害廃棄物の処理 ③夏季節電対策の実施 ④新エネルギーの活用推進に向けた取組 ⑤海岸漂流物処理の推進 ・千葉県地域グリーンニューディール基金の創設
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちばアクアラインマラソン開催 ・木更津市に首都圏最大級のアウトレットモールのオープン ・第90回全国高等学校サッカー選手権大会市立船橋高等学校 優勝 ・避難のための津波浸水予測図、液状化しやすさマップの公表 ・「千葉県地域防災計画」見直し ・ロンドンオリンピック、パラリンピック開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉地域公害防止計画の作成 ・千葉県排水水及び特定地下浸透水の汚染状態の測定回数等を定める条例の制定 ・化学的酸素要求量に係る総量規制基準の制定 ・窒素含有量に係る総量規制基準の制定 ・りん含有量に係る総量規制基準の制定 ・東日本大震災を契機とした環境分野での取組の継続

平成25年	<ul style="list-style-type: none"> ・森田健作千葉県知事が再選 ・首都圏中央連絡自動車道の東金・木更津間 42.9km が開通 ・長嶋茂雄氏に県民栄誉賞授与 ・酒々井プレミアム・アウトレットがオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例の改正 ・東日本大震災を契機とした環境分野での取組の継続 <ul style="list-style-type: none"> ①環境中の放射能モニタリング ②液状化現象の解明に関する研究推進 ・特定外来生物対策の推進 ・微小粒子状物質(PM2.5)の監視(平成22年度から)と対策
平成26年	<ul style="list-style-type: none"> ・ちばアクアラインマラソン2014 ・東京湾アクアライン 800 円の継続、交通量 1.9 倍に。 ・マレーシア、台湾に知事トップセールス ・圏央道「茨城県稲敷～神崎間」が開通 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入及び省エネルギーの推進に係る取組を開始 <ul style="list-style-type: none"> ①住宅向け太陽光発電設備補助 ②住宅向け省エネルギー設備補助 ③ちばエネルギーエコ宣言事業所登録制度の創設 ④防災拠点等への再生可能エネルギー等の導入開始
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港第3旅客ターミナルがオープン。新ターミナルの開業は22年ぶり。グッドデザイン金賞 ・圏央道「神崎・大栄間」が開通 ・マレーシア、タイに知事トップセールス ・サッカー日本代表の活動拠点が幕張新都心に 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)の一部改正 ・千葉県特定自動車部品のヤード内保管等の適正化に関する条例(ヤード適正化条例)施行 ・千葉県動物の愛護及び管理に関する条例の施行

注) 参考資料

- ・千葉県法規集(http://www3.e-reikinet.jp/cgi-bin/chiba-ken/dlw_startup.exe)
- ・千葉県県政十大ニュース(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/houdou/news/index.html>)
- ・千葉県環境白書(<https://www.pref.chiba.lg.jp/cate/km/kankyouseisaku/kankyohakusho/index.html>)
- ・千葉県環境研究センターニュース(<https://www.pref.chiba.lg.jp/wit/index.html>)
- ・千環協ニュース 10 周年記念特集
- ・千環協ニュース 20 周年記念特集
- ・千環協ニュース 30 周年記念特集

3. 事業活動実績

(広報・情報委員会)

年度	月日	活動内容
昭和51年	6.25	千環協設立総会（千葉京成ホテル） 初代会長に(財)千葉県環境技術センター前沢辰雄氏就任 理事会5回開催
昭和52年		理事会1回開催
昭和53年		理事会2回開催 拡大準備委員会3回開催
昭和54年	6.8	通常総会（農業会館） 理事会3回開催 拡大準備委員会3回開催 千環協ニュース No.1 発行 研修見学会1回開催 講演会2回開催
昭和55年	5.15 10.31 1.28	通常総会(職員会館) 理事会4回開催 首都圏連絡会はじまる(千葉、東京、神奈川、埼玉の4都県で結成) 新春賀詞交歓会 千環協ニュース No.2-4 発行 第1回クロスチェック分析実施(カドミウム、亜鉛、塩素) 研修見学会1回開催 講演会1回開催 第1回くらしと計量展に協賛 首都圏連絡会に参加(アンケート調査実施)
昭和56年	5.14 7.7	通常総会(職員会館)で役員改選 第2代会長に(株)住化分析センター栗山晃太郎氏就任 理事会5回開催 各種委員会活動方針検討会(農業会館) 総務、技術、企画の3委員会発足 千環協ニュース No.5-7 発行 首都圏連絡会業務委員会に参加(水質関連) 研修見学会1回開催 講演会3回開催 第2回くらしと計量展に協賛

年度	月日	活動内容
昭和57年	5.13	通常総会(職員会館)
	7.14	合同委員会(農業会館)
		理事会 6 回開催
	1.18	新春賀詞交歓会(自治会館) 千環協ニュース No. 8-10 発行 第 1 回ソフトボール大会実施 首都圏連絡会業務委員会に参加 第 2 回クロスチェック分析実施 (COD, Mn) 計量証明書の様式統一化のアンケート調査実施 精度管理の勉強会実施 研修見学会 1 回開催 講演会 1 回開催 第 3 回くらしと計量展に協賛
昭和58年	4.21	通常総会(自治会館)
	6.15	合同委員会(職員会館) 業務委員会が発足し、4 委員会となる 理事会 7 回開催
	11.28	技術委員会 WG 成果発表会(職員会館)
	1.19	新春賀詞交歓会(自治会館) 千環協ニュース No. 11-13 発行 第 2 回ソフトボール大会実施 千環協業務案内、会員ガイドを作成し、公官庁 PR 首都圏連絡会業務委員会に参加(大気・騒音関連) 第 3 回クロスチェック分析実施(全りん) 第 4 回クロスチェック分析実施(全窒素) 計量管理のアンケート調査実施し、計量証明書の様式検討 COD 計-CODMn 手分析の換算式をまとめ、資料を会員に配布 研修見学会 1 回開催 講演会 1 回開催 第 4 回くらしと計量展に協賛

年度	月日	活動内容
昭和59年	4.29 6.8 11.29 1.22	<p>通常総会(自治会館)</p> <p>合同委員会(職員会館)</p> <p>理事会8回開催</p> <p>技術委員会WG成果発表会(自治会館)</p> <p>新春賀詞交歓会</p> <p>千環協ニュース No.14-16 発行</p> <p>第3回ソフトボール大会実施</p> <p>59年度版会員ガイド等を作成し、公官庁PR</p> <p>会員間の機器貸借、経営管理指導、協働組合結成の可否検討</p> <p>首都圏連絡会業務委員会に参加(騒音関連)</p> <p>第5回クロスチェック分析実施(全りん、海洋観測指針法)</p> <p>計量証明書作成要領・水質編作成</p> <p>計量証明における報告下限値と有効桁数・水質・産廃・底質編作成</p> <p>実務者によるパネルディスカッション開催(BOD分析:職員会館)</p> <p>研修見学会1回開催</p> <p>講演会1回開催</p> <p>第5回くらしと計量展に協賛</p>
昭和60年	4.23 6.12 12.3 1.29	<p>通常総会において役員改選</p> <p>第3代会長に(株)日軽技研分析センター藤平泰万氏就任</p> <p>合同委員会(自治会館)</p> <p>理事会9回開催</p> <p>技術委員会WG成果発表会(職員会館)</p> <p>新春賀詞交歓会(自治会館)</p> <p>千環協ニュース No.17-18 発行</p> <p>第4回ソフトボール大会実施</p> <p>首都圏連絡会業務委員会に参加(水質関連)及びアンケート調査実施</p> <p>60年度版会員ガイド等を作成し、公官庁PR</p> <p>機器貸借、労務管理状況等についてアンケート調査実施</p> <p>第6回クロスチェック分析実施(鉛、全クロム)</p> <p>第1-6回クロスチェック結果をまとめ会員及び公官庁配布</p> <p>計量証明書作成要領・大気編作成</p> <p>計量証明における報告下限値と有効桁数・大気編作成</p> <p>実務者によるパネルディスカッション開催(鉛、全クロム:職員会館)</p> <p>研修見学会2回開催</p> <p>講演会1回開催</p>

年度	月日	活動内容
昭和 61 年	4.17	通常総会(自治会館) 第4代会長に(株)環境管理センター後藤一郎氏就任
	6.26	合同委員会(自治会館) 理事会10回開催
	10.24	創立10周年記念式典(自治会館)
	11.27	技術委員会WG成果発表会(自治会館)
	1.22	新春賀詞交歓会(自治会館)
		千環協ニュース No. 19-22 発行 首都圏連絡会業務委員会に参加(振動関連) 千環協紹介パンフレット等を作成し、公官庁PR 機器貸借、労務管理状況等についてアンケートまとめ、会員に資料配布 第7回クロスチェック分析実施(鉛、鉄) 計量証明に使用する測定機器管理基準検査方法検討 計量証明における報告下限値と有効桁数・水質・大気編完成版作成 実務者によるパネルディスカッション開催(鉛、鉄:職員会館) 研修見学会1回開催 講演会1回開催

年度	月日	活動内容
昭和 62 年	4.17	第 11 回通常総会（千葉県自治会館） 出席 28 社（委任状 12 社）／44 社 会名を「千葉県環境計量協会」に改称
	5.14	第 59 回理事会（千葉県職員会館）
	5.28	親睦ゴルフ大会（鶴舞カントリークラブ） 優勝 猿渡素矩氏（房総ファイン㈱）
	6.4～7	「計量なるほど展」協力
	6.16	合同委員会（千葉県職員会館）
	7.20	千環協ニュースNo.23 発行
	8.27	第 60 回理事会（千葉県自治会館）
	9.17～18	研修会（いこいの村 美の山） 「先端産業と環境問題」他
	9.25	研修見学会（川崎製鉄㈱千葉製鉄所）
	9～10	第 5 回ソフトボール大会（各地区予選）
	10.15	第 61 回理事会（千葉商工会議所）
	11.12	見学会（埼玉県立羽生水族館 他）
	11.26	技術委員会 WG 成果発表会（千葉県自治会館） 出席 29 社 55 名
	12.10	第 62 回理事会（千葉県職員会館） パネルディスカッション・講演会（千葉県職員会館） 出席 15 社 21 名
	1.21	新春講演会・賀詞交歓会（千葉県自治会館） 出席 34 社 68 名 労働衛生検査センター測定分析室 今泉敬士郎氏 「アスベストの測定と諸問題」 千葉県環境部環境調整課計画係 牧野敬一氏 「(2000 年の千葉県) その展望とふるさと千葉環境プランについて」 千環協案内 62 年版発行
	2.9	第 63 回理事会（千葉県自治会館）
	2.20	千環協ニュースNo.24 発行
3.23	第 1 回経営懇談会	
4.17	第 5 回ソフトボール大会 決勝戦（住化グラウンド） 優勝 ㈱住化分析センター	

年度	月日	活動内容
昭 63 年	4.7	第 64 回理事会 (千葉県自治会館)
	4.21	第 12 回通常総会 (千葉県自治会館) 出席 29 社 (委任状 10 社) / 45 社
	5.12	第 65 回理事会 (千葉県職員会館)
	6.2~5	「計量なるほど展」協力
	6.9	親睦ゴルフ大会 (太平洋クラブ市原コース) 優勝 猿渡素矩氏 (房総ファイブ㈱)
	6.20	千環協ニュースNo.25 発行
	6.23	第 66 回理事会・合同委員会 (千葉県自治会館) 出席 33 社 46 名
	8.26	研修見学会 (千葉県水産試験場 他)
	8.28	第 6 回ソフトボール大会 1 回戦 (川鉄グラウンド)
	8.	アスベスト分析に関するアンケート調査
	9.8	第 67 回理事会 (千葉県自治会館)
	10.7	第 2 回経営懇談会
	10.18	親睦ゴルフ大会 (本千葉カントリークラブ) 優勝 今西克司氏 (ヨシザワ LA㈱)
	10.27	第 68 回理事会 (千葉県自治会館)
	11.20	第 6 回ソフトボール大会 決勝戦 (住化グラウンド) 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	12.2	パネルディスカッション・講演会 (千葉県自治会館) 出席 20 社 35 名
	1.9	技術委員会 WG 成果発表会・第 1 回技術事例発表会 (千葉県自治会館)
	1.20	千環協ニュースNo.26 発行
	1.26	新春講演会・賀詞交歓会 (千葉県自治会館) 出席 33 社 64 名 千葉県計量検定所 藤代渡氏 「計量法の概要」 千葉県環境部環境調整課 金子弥四郎氏 「千葉県における環境アセスメントの実施状況とその特色」
	2.20	第 70 回理事会 (千葉県自治会館) 「千環協としての統一した消費税対策の検討」会議 (千葉県自治会館) 出席 30 社 46 名

年度	月日	活動内容
平成 元年	4.6	第 71 回理事会 (千葉県自治会館)
	5.22	第 13 回通常総会 (千葉県自治会館) 出席 27 社 (委任状 11 社) / 45 社
	6.8	第 72 回理事会 (千葉県自治会館)
	7.6	合同委員会 (千葉県自治会館)
	9.18	第 73 回理事会 (千葉県自治会館)
	10.12	研修見学会 (㈱日立製作所那珂工場)
	10.20	千環協ニュースNo.27 発行
	10.27	技術講演会
	11.21	技術委員会 WG 成果発表会・第 2 回技術事例発表会 パネルディスカッション (千葉県自治会館) 出席 31 社 52 名
	12.7	第 74 回理事会 (千葉市内 波奈)
	12.9	第 7 回ソフトボール大会 (八千代市総合運動公園) 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	1.26	臨時総会 (千葉県自治会館) 「退任理事の補充議案」 出席 18 社 (委任状 13 社) / 45 社 新春講演会・賀詞交歓会 (千葉県自治会館) 出席 35 社 62 名 千葉県環境部環境調整課 喜多大次郎氏 「千葉県の環境の現状と対策」 日立計測エンジニアリング(㈱)テクノリサーチセンター 酒井馨氏 「分析機器の多角的利用法—環境汚染を中心として—」
	2.26	経営問題懇談会
	3.20	千環協ニュースNo.28 発行

年度	月日	活動内容
平成 2 年	4.18	第 75 回理事会 (千葉県自治会館) 第 14 回通常総会 (千葉県自治会館) 出席 26 社 (委任状 9 社) / 45 社
	5.17	第 76 回理事会 (千葉市内 波奈)
	5.23	第 11 回親睦ゴルフ大会 (泉カントリークラブ) 優勝 菅谷光夫氏 (株ダイワ)
	6.4	合同委員会 (千葉県労働者福祉センター) 出席 25 社 38 名 「飲料水検査実態調査」報告 他
	6.7~10	「計量なるほど展」協力
	7.13	研修見学会 (千葉県内水面水産試験場 他)
	7.20	千環協ニュースNo.29 発行
	9.13	第 77 回理事会 (セイコー箱根荘)
	9.23	第 8 回ソフトボール大会 (住化グラウンド) 優勝 川鉄テクノリサーチ(株)
	10.20	講演会 (千葉県労働者福祉センター) 出席 30 社 46 名
	10.30	第 78 回理事会 (千葉県自治会館)
	11.2	第 12 回親睦ゴルフ大会 (鶴舞カントリークラブ) 優勝 山本吉彦氏
	11.20	技術委員会 WG 成果発表会・第 3 回技術事例発表会 (千葉県労働者福祉センター) 出席 25 社 50 名 千環協ニュースNo.30 発行
	12.4	パネルディスカッション・講演会 (千葉県労働者福祉センター) 出席 38 名
	12.6	第 79 回理事会 (セイコー鎌ヶ谷保養所)
	1.26	新春講演会・賀詞交歓会 (千葉県自治会館) 出席 28 社 52 名 千葉県衛生部薬務課 進藤攻氏 「小規模水道とその規則について」 千葉県衛生部衛生指導課環境衛生指導係 伊藤仁司氏 「特定建築物の貯水槽の維持管理について」 千葉県農業試験場生産環境試験室 丸論氏 「農薬の分析等について」
	2.6	第 4 回経営問題懇談会 (千葉県自治会館) 出席 12 社 14 名
3.20	千環協ニュースNo.31 発行	

年度	月日	活動内容
平成 3 年	4.18	第15回通常総会（千葉県自治会館） 出席 29社/50社 第5代会長に茂木義資氏（キッコーマン㈱）就任
	5.22	第81回理事会（千葉県自治会館）
	6.7	第13回親睦ゴルフ大会（本千葉カントリークラブ） 優勝 本田優氏（住友セメント㈱）
	6.12	合同委員会（千葉県自治会館） 出席 26社 40名
	7.4	第82回理事会（千葉県自治会館）
	7.19	研修見学会（もの知りしょうゆ館 他）
	7.20	千環協ニュースNo.32 発行
	9.3	千環協案内平成3年度版発行
	9.6	千環協主催 首都圏連絡会研修会（ちば共済会館） 出席 92名
	9.27	第83回理事会（千葉市内 波奈）
	9.29	第9回ソフトボール大会（出光千葉製油所サッカー場） 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	10.25～26	千環協主催 日環協環境セミナー（第3回）関東甲信越大会 （ちば共済会館）出席 130名
	11.8	第14回親睦ゴルフ大会（泉カントリークラブ） 優勝 富田陽美氏（房総ファイン㈱）
	11.14～17	「計量なるほど展」協力
	11.26	技術委員会 WG 成果発表会・第4回技術事例発表会 （千葉県自治会館）出席 29社 57名
	12.9	パネルディスカッション・講演会（青雲閣） 出席 26社 41名
	12.12	第84回理事会（セイコー鎌ヶ谷保養所）
	11.30	千環協ニュースNo.33 発行
	1.23	新春講演会・賀詞交歓会（青雲閣） 出席 30社 52名 千葉県環境部環境調整課環境政策室 久保木伸浩氏 「千葉県における環境行政について」 千葉県公害研究所 石井皓氏 「都市騒音・自動車騒音・生活騒音」 千葉県水質保全研究所 本橋敬之助氏 「手賀沼における水環境と浄化」
	2.14	第5回経営問題懇談会（千葉県自治会館） 出席 9社 10名
2.20	千環協ニュースNo.34 発行	
3.13	第85回理事会（出光興産㈱大原荘）	

年度	月日	活動内容
平成 4 年	4.13	第 86 回理事会 (㈱環境管理センター)
	4.21	第 16 回通常総会 (ちば共済会館) 出席 33 社 (委任状 16 社) / 51 社
		第 6 代会長に㈱住化分析センター 加藤元彦氏 就任
	6.12	第 15 回親睦ゴルフ大会 (太平洋クラブ市原コース) 優勝 鈴木郁夫氏 (ヨシザワ LA㈱)
	6.16	第 87 回理事会 (千葉県自治会館)
	6.24	合同委員会 (ちば共済会館) 出席 30 社 47 名
	7.20	千環協ニュースNo.35 発行
	7.24	研修見学会 (手賀沼浄化施設 他)
	9.2	第 88 回理事会 (千葉市内 波奈)
	9.20	第 10 回ソフトボール大会 (出光千葉製油所サッカー場) 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	11.26	技術委員会 WG 成果発表会・第 5 回技術事例発表会 (千葉県自治会館) 出席 30 社 52 名
	12.2	パネルディスカッション・講演会 (ちば共済会館) 出席 32 社 47 名
	12.12	第 89 回理事会 (出光 鹿野山寮)
	12.20	千環協ニュースNo.36 発行
	1.20	新春講演会・賀詞交歓会 (ちば共済会館) 出席 26 社 48 名 千葉県環境研究所 金子弥四郎氏 「ブラジルでの地球サミットの視察を終えて」 セイコー電子工業㈱ 松原道夫氏 「水質分析の公定法と原子スペクトル分析法」
	2.20	第 6 回経営問題懇談会 (千葉県自治会館) 出席 9 社 9 名
	3.13	第 90 回理事会 (出光興産㈱ 大原荘)
3.20	千環協ニュースNo.37 発行	

年度	月日	活動内容
平成 5 年	4.22	第 17 回通常総会（ちば共済会館） 出席 33 社（委任状 15 社）／55 社 新環境水質基準対応特別委員会発足
	5.19	第 91 回理事会（ちば共済会館） 合同委員会（ちば共済会館） 騒音・振動 WG 発足
	5.28	第 17 回親睦ゴルフ大会（泉カントリークラブ） 優勝 神野基行氏（㈱住化分析センター）
	7.2	新環境水質基準対応特別委員会（千葉商工会議所） 出席 25 社
	7.16	研修見学会（㈱環境管理センター環境基礎研究所 他）
	7.20	千環協ニュースNo.38 発行
	7.26	第 92 回理事会（千葉県自治会館）
	9.19	第 11 回ソフトボール大会（出光 千葉精油所グラウンド） 優勝 川鉄テクノリサーチ㈱
	9.23	第 93 回理事会（セイコー 八ヶ岳山荘）
	9.30	千環協案内平成 5 年度版発行
	10.7	新環境水質基準対応特別委員会 千葉県環境部へ要望書提出
	11.5	第 94 回理事会（千葉県自治会館） 技術委員会 WG 成果発表会・第 6 回技術事例発表会 （千葉県自治会館）出席 31 社 59 名
	11.19	パネルディスカッション・講演会（ちば共済会館） 出席 32 社 53 名
	12.20	千環協ニュースNo.39 発行
	12.23	第 95 回理事会（出光 山武研修センター）
	1.27	新春講演会・賀詞交歓会（ちば共済会館） 出席 29 社 48 名 環境庁大気保全局特殊公害課臭気対策係 前川清三郎氏 「悪臭追加物質とその測定方法について」 千葉県環境部水質保全課地下水汚染対策室 安藤純一氏 「水質に係わる新基準等の環境行政の動向」
	2.18	第 7 回経営問題懇談会（千葉県自治会館） 出席 12 社 14 名
	3.13	第 96 回理事会（南伊豆町 長江）
	3.20	千環協ニュースNo.40 発行

年度	月日	活動内容
平成 6 年	4.28	第 18 回通常総会（ちば共済会館） 出席 31 社（委任状 17 社）／57 社 第 7 代会長に中村豊氏（中外テクノス㈱）就任
	5.19	第 97 回理事会（ちば共済会館） 合同委員会（ちば共済会館） 調査開発 WG 発足
	5.26	第 19 回親睦ゴルフ大会（本千葉カントリークラブ） 優勝 高野不二男氏（セイコーアイ・テクノリサーチ㈱）
	6.20	調査開発 WG 発足準備会（千葉商工会議所）
	7.1	研修見学会（千葉県立現代産業科学館 他）
	7.19	第 98 回理事会（千葉商工会議所）
	7.20	千環協ニュースNo.41 発行
	8.	千環協案内平成 6 年度版発行
	9.11	第 99 回理事会（セイコー ハヶ岳山荘）
	9.18	第 12 回ソフトボール大会（セイコー谷津プラザ） 優勝 川鉄テクノリサーチ㈱
	11.18	第 20 回親睦ゴルフ大会（CPG カントリークラブ） 優勝 高橋直行氏（環境管理センター㈱）
	11.25	技術委員会 WG 成果・第 7 回技術事例発表会（千葉県自治会館） 出席 33 社 62 名 第 100 回理事会（千葉県自治会館）
	12.8	パネルディスカッション・講演会（ちば共済会館） 出席 23 社 38 名
	12.25	千環協ニュースNo.42 発行
	1.30	新春講演会・賀詞交歓会（ちば共済会館） 出席 33 社 53 名 千葉県廃棄物情報センター 原雄氏 「廃棄物情報センター技術開発の業務紹介と再生品使用時の安全性の考 え方」 日本検査キューエイ㈱ 斎藤喜孝氏 「環境監査の動向と監査手順」
	2.20	第 101 回理事会（ちば共済会館） 第 8 回経営問題懇談会（千葉県自治会館） 出席 13 社 13 名
	3.20	千環協ニュースNo.43 発行
3.24	第 102 回理事会（出光興産㈱ 保田寮）	

年度	月日	活動内容
平成 7年	4.20	第19回通常総会（ちば共済会館） 出席33社(委任状20社) / 59社 兵庫県南部地震救援募金に協力
	5.19	第103回理事会（千葉市内 船場）
	5.25	第21回親睦ゴルフ大会（太平洋クラブ市原コース） 優勝 後藤一郎氏（環境管理センター(株)）
	6.6	合同委員会（ちば共済会館）
	7.13	研修見学会（千葉県中央防災センター 他）
	7.20	千環協ニュース No.44 発行
	7.26	第104回理事会（千葉市内 船場）
	9.10	第105回理事会（セイコー八ヶ岳山荘）
	9.29	千環協主催 首都圏環協連合研修見学会（谷津干潟 他）
	10.22	第13回ソフトボール大会（セイコー谷津スポーツプラザ） 優勝 榑住化分析センター
	11.9	技術委員会 WG 成果発表会・第8回技術事例発表会 （千葉県自治会館） 会員38社77名、一般10社11名出席
	11.10	「計量なるほど展」協力 第106回理事会（千葉県自治会館）
	11.16	第22回親睦ゴルフ大会（千葉新日本ゴルフ倶楽部） 優勝 飯島公勇氏（キッコーマン(株)）
	11.22	計量関係団体代表者会議 参加
	12.8	パネルディスカッション・講演会（ちば共済会館） 15社25名出席
	12.25	千環協ニュース No.45 発行
	1.26	第107回理事会（セイコー電子工業(株)幕張本社）
	1.30	新春講演会・賀詞交歓会（ちば共済会館） 37社63名出席 千葉県環境部環境調整課環境政策室 鈴木一男氏 「21世紀に向けた本県環境の長期構想について」 (株)環境管理センター 岸田澄江氏 「ISO14001と環境管理システムについて」
	2.20	第3回計量関係団体代表者会議に参加
	2.28	第9回経営懇談会（千葉勤労市民プラザ） 東京、埼玉、神奈川環協の参加含め33名出席 「環境測定に関わる作業の安全性」
3.20	第108回理事会（出光興産(株) 保田寮）	
3.25	千環協ニュース No.46 発行	

年度	月日	活動内容
平成 8 年	4.5	20周年記念行事実行委員会（㈱環境管理センター）
	4.18	第20回通常総会（ちば共済会館） 出席 37社(委任状 18社) / 55社
	4.19	第4回計量関係団体代表者会議（センシティブタワー）
	5.22	第23回親睦ゴルフ大会（鶴舞カントリークラブ） 優勝 石澤善博氏（日本軽金属㈱）
	5.23	第109回理事会（ちば共済会館）
	5.23	合同委員会（ちば共済会館） 出席 32社 49名
	6.27	20周年記念行事実行委員会
	7.17	第110回理事会（船場）
	7.17	20周年記念拡大実行委員会（船場）
	7.24	研修見学会（東京都大田清掃工場 他）会員 24名
	7.25	千環協ニュース No,47 発行
	8.8	第1回千葉県計量協会（法人設立準備委員会）（正木屋）
	8.30	20周年記念拡大実行委員会（ちば共済会館）
	9.6	第111回理事会（セイコーハヶ岳山荘）
	10.6	第14回ソフトボール大会（稲毛海浜スポーツ施設） 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	10.15	第2回千葉県計量協会（法人設立準備委員会）（県自治会館）
	10.22	20周年記念行事（ちば共済会館） 記念講演「21世紀の環境と文明—環境に対する考え方—」 ㈱環境・文明研究所 加藤三郎氏
	10.31	技術委員会 WG 成果発表会・第9回技術事例発表会（ちば共済会館） 出席 36社 64名
	11.7	第24回親睦ゴルフ大会（市原ゴルフクラブ） 優勝 名取昭平氏（セイコーアイ・テクノリサーチ㈱）
	11.22	第112回理事会（ちば共済会館） パネルディスカッション・技術講演会（ちば共済会館） 出席 27社 36名
	12.25	20周年記念誌 発行
	1.17	第113回理事会（船場）
	1.29	新春講演会・賀詞交換会（ちば共済会館） 千葉県環境部大気保全課 銀川憲雄氏 「大気汚染防止法の改正について」 ㈱住化分析センター千葉事業所 山田秀昭氏 「分析サービス業における ISO9001 認証取得の実態」
2.26	第10回経営懇談会（千葉勤労市民プラザ）会員 23社 他県 11社	
3.10	千環協ニュース No,48 発行	
3.15	第114回理事会（出光興産㈱鹿野山寮）	

年度	月日	活動内容
平成 9 年	4.15	第 21 回通常総会 (ちば共済会館) 出席 29 社(委任状 21 社) /50 社
	5.16	第 8 代会長に名取昭平氏 (セイコーアイ・テクノリサーチ(株)) 就任 第 25 回親睦ゴルフコンペ (姉ヶ崎カントリークラブ) 優勝 重永清俊氏 (出光興産(株))
	6.5	第 115 回理事会 (ちば共済会館)
	6.5	合同委員会 (ちば共済会館) 出席 31 社 49 名
	7.11	第 21 回研修見学会 (アサヒビール(株)茨城工場 他) 会員 40 名
	7.22	第 116 回理事会 (かめや)
	7.25	千環協ニュース No,49 発行
	9.5	第 117 回理事会 (住友化学健康保険組合 蓼科高原荘)
	10.17	第 26 回親睦ゴルフコンペ (皆吉台カントリークラブ) 優勝 北村誠氏 (出光興産(株))
	10.21	技術委員会WG成果発表会・第 10 回技術事例発表会 (ちば共済会館) 出席 37 社 70 名
	10.28	調査開発WG 事業所訪問 廃棄情報技術センター 訪問取材
	11.9	第 15 回ソフトボール大会 (川崎製鐵(株)健保グラウンド) 優勝 (株)新日化環境エンジニアリング
	11.20	第 118 回理事会 (ちば共済会館)
	11.20	パネルディスカッション、技術講演会 (ちば共済会館) 出席 20 社 25 名
	12.25	千環協ニュース No,50 発行
	1.29	第 119 回理事会 (ちば共済会館)
	1.29	新春講演会・賀詞交換会 (ちば共済会館) 千葉県環境部産業廃棄物課 小川功氏 「千葉県土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の 発生の防止に関する条例」 (株)環境管理センター 橋場常雄氏 「ダイオキシンに関する諸問題について」
	2.16	第 11 回経営問題懇談会 (ちば共済会館) 出席 23 社 30 名
	3.6	第 120 回理事会 (出光興産(株)大原寮)
	3.25	千環協ニュース No,51 発行

年度	月日	活動内容
平成 10 年	4.15	第 22 回通常総会（プラザ菜の花） 出席 24 社（委任状 24 社）／48 社
	5.15	第 27 回親睦ゴルフコンペ（ザ・カントリークラブ・ジャパン） 優勝 神野基行氏（㈱住化分析センター）
	5.28	第 121 回理事会（プラザ菜の花）
	5.28	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 32 社 49 名
	7.16	第 1 回新任者教育 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 講師：千環協 神野基行氏、岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.24	第 22 回研修見学会（日本鋼管㈱京浜製鉄所 他） 会員 36 名
	7.25	千環協ニュース No.52 発行
	7.28	第 122 回理事会（かめや）
	9.6	第 123 回理事会（住友化学健康保険組合 蓼科高原荘）
	10.21	調査開発WG 事業所訪問 出光興産㈱石炭研究所 訪問取材
	10.23	第 28 回親睦ゴルフコンペ（東京湾カントリークラブ） 優勝 北村誠氏（出光興産㈱）
	11.16	第 124 回理事会（プラザ菜の花）
	11.16	技術委員会WG成果発表会・第 11 回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 31 社 68 名
	11.22	第 16 回ソフトボール大会（川崎製鐵㈱健保グラウンド） 優勝 川鉄テクノリサーチ㈱
	11.27	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 20 社 32 名
	12.25	千環協ニュース No.53 発行
	2.5	第 125 回理事会（プラザ菜の花）
2.5	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境部環境調整課 堀津誠氏 「環境ホルモン対策について」 千葉県環境部水質保全課 鈴木真人氏 「水質汚濁防止法に基づき排水基準を定める条例及び千葉県環境 保全条例施行規則の一部改正について」	
3.12	第 126 回理事会（出光興産㈱鹿野山寮）	
3.25	千環協ニュース No.54 発行	

年度	月日	活動内容
平成 11 年	4.16	第23回通常総会（プラザ菜の花） 出席 31 社（委任状 24 社）／55 社
	5.14	第29回親睦ゴルフコンペ（八房ゴルフ倶楽部） 優勝 藤谷光男氏（中外テクノス㈱）
	6.14	第127回理事会（プラザ菜の花）
	6.14	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 34 社 46 名
	7.9	第23回研修見学会（㈱クリタス環境分析センター 他） 会員 36 名
	7.16	第128回理事会（かめや）
	7.28	第2回新任者教育・経営問題懇談会 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 会員 35 名 講師：千環協 飯島公勇氏、岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.30	千環協ニュース No,55 発行
	9.5	第129回理事会（住友化学健康保険組合 蓼科高原荘）
	10.13	技術委員会WG成果発表会・第12回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 40 社 71 名
	10.15	第30回親睦ゴルフコンペ（ニュー南総ゴルフ倶楽部） 優勝 宮本敦夫氏（㈱環境エンジニアリング）
	11.5	第130回理事会（プラザ菜の花）
	11.5	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 26 社 37 名
	11.8	調査開発WG 事業所訪問 東京電力㈱技術開発センター 訪問取材
	11.13	第17回ソフトボール大会（川崎製鐵㈱健保グラウンド） 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	12.9	第131回理事会（㈱環境管理センター）
	12.25	千環協ニュース No,56 発行
	1.28	第132回理事会（プラザ菜の花）
	1.28	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境部大気保全課自動車公害対策室 小熊三郎氏 「千葉県の大気環境と自動車公害対策について」 千葉県環境部大気保全課 寺井賢一郎氏 「ダイオキシン類対策特別措置法に基づく設置者による測定について」 キッコーマン㈱ 長原歩氏 「蛍ルシフェラーゼを用いた衛生検査システム」
	2.25	第133回理事会（出光興産㈱山武研修センター）
3.25	千環協ニュース No,57 発行	

年度	月日	活動内容
平成 12 年	4.14	第24回通常総会（プラザ菜の花） 出席 33 社（委任状 20 社）／53 社
	5.16	第31回親睦ゴルフコンペ（市原ゴルフクラブ・柿の木台コース） 優勝 石澤善博氏（日本軽金属㈱）
	5.23	第134回理事会（プラザ菜の花）
	5.23	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 32 社 45 名
	7.11	第3回新任者教育 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 会員 21 名 講師：千環協 津上昌平氏、岡野隆志氏
	7.14	第24回研修見学会（（財）電力中央研究所、キッコーマン㈱） 会員 38 名
	7.28	第135回理事会（プラザ菜の花）
	7.31	千環協ニュース No,58 発行
	9.10	第136回理事会（住友化学健康保険組合 蓼科高原荘）
	9.29	調査開発WG 事業所訪問 川崎製鉄訪問取材
	10.20	第32回親睦ゴルフコンペ（真名カントリークラブ） 優勝 守久雄氏（環境エンジニアリング㈱）
	11.9	技術委員会WG成果発表会・第13回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 37 社 63 名
	11.19	第18回ソフトボール大会（川崎製鉄㈱健保グラウンド） 優勝 ㈱環境管理センター
	11.22	第137回理事会（プラザ菜の花）
	11.22	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 18 社 28 名
	12.25	千環協ニュース No,59 発行
	1.31	第138回理事会（プラザ菜の花）
	1.31	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境生活部産業廃棄物課 飯豊修司氏 「産業廃棄物処理の現状と課題について」 キッコーマン㈱ 山野晴久氏 「キッコーマンの環境施策～やってきたこと、いま考えていること～」
	3.2	第139回理事会（出光興産㈱山武研修センター）
3.25	千環協ニュース No,60 発行	

年度	月日	活動内容
平成 13 年	4.13	第 25 回通常総会（プラザ菜の花） 出席 31 社（委任状 16 社）／47 社
	5.15	第 140 回理事会（プラザ菜の花）
	5.15	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 29 社 40 名
	6.1	第 33 回親睦ゴルフコンペ（米原カントリークラブ） 優勝 遠藤正和氏（出光興産㈱）
	7.6	第 25 回研修見学会（新日本製鉄㈱君津製鉄所 他） 会員 31 名
	7.13	第 141 回理事会（船場）
	7.19	第 4 回新任者教育 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席社 会員 30 名 講師：千環協 津上昌平氏、岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.31	千環協ニュース No,61 発行
	9.2～9.3	第 142 回拡大理事会（小梅リエックスホテル）
	9.21	調査開発WG 事業所訪問 （財）千葉県工業技術振興センター東葛テクノプラザ
	11.9	技術委員会WG 成果発表会・第 14 回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 27 社 50 名
	11.17	第 19 回ソフトボール大会（川崎製鉄㈱健保グラウンド） 優勝 川鉄テクノリサーチ㈱
	11.22	第 34 回親睦ゴルフコンペ（姉ヶ崎カントリー倶楽部） 優勝 菅谷光夫氏（㈱ダイワ）
	11.30	第 143 回理事会（プラザ菜の花）
	11.30	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 19 社 32 名
	12.25	千環協ニュース No,62 発行
	1.23	第 144 回理事会（プラザ菜の花）
	1.23	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境生活部一般廃棄物課 三澤義郎氏 「ごみとリサイクルについて」 ㈱環境管理センター 朝来野国彦氏 「最近の環境行政の動向（化学物質関連を中心に・・・）」
	3.1	第 145 回理事会（出光興産㈱山武研修センター）
	3.31	千環協ニュース No,63 発行

年度	月日	活動内容
平成 14 年	4.19	第 26 回通常総会（プラザ菜の花）
	5.15	出席 34 社（委任状 18 社）／52 社 第 9 代会長に津上昌平氏（昭和産業㈱）就任 合同委員会（プラザ菜の花） 出席 26 社 36 名
	5.22	第 146 回理事会（プラザ菜の花）
	5.24	第 35 回親睦ゴルフコンペ（ニュー南総ゴルフ倶楽部） 優勝 宮澤康弘氏（㈱ダイワ）
	7.3	第 5 回新任者教育 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 会員 20 名 講師：千環協 岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.12	第 26 回研修見学会（㈱日立ハイテクノロジーズ那珂事業所 他） 会員 26 名
	7.19	第 147 回理事会（かめや）
	7.31	千環協ニュース No,64 発行
	9.1～9.2	第 148 回拡大理事会（住化化学健保保養所 蓼科高原荘）
	9.21	調査開発WG 事業所訪問 独立行政法人 国立環境研究所 参加者 12 名
	11.8	第 149 回理事会（プラザ菜の花）
	11.8	技術委員会WG成果発表会・第 15 回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 28 社 45 名
	11.17	第 20 回ソフトボール大会（川崎製鐵㈱健保グランド） 優勝 川鉄テクノリサーチ㈱
	11.22	第 36 回親睦ゴルフコンペ（ザ・カントリークラブ・ジャパン） 優勝 萩尾征雄氏（㈱ハイメック）
	11.27	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 21 社 25 名
	12.6	緊急理事会（プラザ菜の花）
	12.25	千環協ニュース No,65 発行
	1.17	第 150 回理事会（プラザ菜の花）
	1.17	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境生活部環境政策課 森茂氏 「千葉県循環型社会づくり計画について」 三菱マテリアル資源開発㈱ 松坂総一郎氏 「土壌汚染対策法施行後の土壌汚染状況調査・対策について」
	3.14～15	第 151 回拡大理事会（日立製作所健康保養所 波月荘）
3.31	千環協ニュース No,66 発行	

年度	月日	活動内容
平成 15 年	4.18	第 152 回臨時理事会（プラザ菜の花）
	4.18	第 27 回通常総会（プラザ菜の花） 出席 32 社（委任状 14 社）／46 社
	5.15	第 153 回理事会（プラザ菜の花）
	5.15	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 28 社 45 名
	5.30	第 37 回親睦ゴルフコンペ（ニュー南総ゴルフ倶楽部） 優勝 神野基行氏（㈱住化分析センター）
	7.3	第 6 回新任者教育 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 13 社 20 名 講師：千環協 岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.18	第 154 回理事会（日立習志野クラブ）
	7.31	千環協ニュース No,67 発行
	8.31～9.1	第 155 回拡大理事会（日立製作所健康保養所 ふじさん荘）
	9.5	第 27 回研修見学会（アサヒビール茨城工場 他） 会員 31 名 他県単 6 名 来賓 2 名（首都圏環協連との共催）
	10.22	第 38 回親睦ゴルフコンペ（千葉夷隅ゴルフクラブ） 優勝 神野基行氏（㈱住化分析センター）
	11.7	第 156 回理事会（プラザ菜の花）
	11.7	技術委員会WG成果発表会・第 16 回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 31 社 56 名
	11.16	第 21 回ソフトボール大会（J F E スチール㈱健保グラウンド） 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	11.28	パネルディスカッション（プラザ菜の花） 出席 17 社 23 名
	12.25	千環協ニュース No,68 発行
	1.23	第 157 回理事会（プラザ菜の花）
	1.23	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県健康福祉部衛生指導課 木村威氏 「旅館業法施行条例及び公衆浴場施行条例の一部改正について」 千葉大学海洋バイオシステム研究センター 服部克己氏 「地震予知研究最前線－地球電磁気学的手法」
	2.13	経営者交流会（J F E みやざき倶楽部） 出席 15 社 20 名
	3.5～6	第 158 回拡大理事会（日立製作所健康保養所 波月荘）
3.25	千環協ニュース No,69 発行	

年度	月日	活動内容
平成 16 年	4.16	第 159 回臨時理事会（プラザ菜の花）
	4.16	第 28 回通常総会（プラザ菜の花） 出席 40 社（委任状 20 社）／60 社
	5.13	第 160 回理事会（プラザ菜の花）
	5.13	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 25 社 35 名
	5.21	第 39 回親睦ゴルフコンペ（市原ゴルフクラブ） 優勝 飯塚嘉久氏（㈱ユーベック）
	7.9	第 7 回新任者教育 （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 22 社 31 名 講師：千環協 岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.18	第 161 回理事会（亀屋）
	7.23	第 28 回研修見学会（東京電力横浜火力発電所 他） 出席 16 社 28 名
	7.31	千環協ニュース No,70 発行
	9.5～6	第 162 回拡大理事会（日立製作所健康保養所 伊豆たが荘）
	10.22	第 40 回親睦ゴルフコンペ（大多喜カントリークラブ） 優勝 石澤善博氏（日本軽金属㈱）
	11.5	第 163 回理事会（プラザ菜の花）
	11.5	技術委員会WG成果発表会・第 16 回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 29 社 39 名
	12.3	第 164 回理事会（割烹 武石）
	12.3	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 31 社 42 名
	12.25	千環協ニュース No,71 発行
	1.28	第 165 回理事会（プラザ菜の花）
	1.28	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境生活部水質保全課 根田満氏 「土壌汚染対策法の施行状況」 （社）日本環境測定分析協会 鷺俊雄氏 「計量証明事業者の実態調査」
	2.4	第 2 回経営者交流会（プラザ菜の花）
	3.4～5	第 166 回拡大理事会（日立製作所健康保養所 波月荘）
3.25	千環協ニュース No,72 発行	

年度	月日	活動内容
平成 17 年	4.22	臨時理事会（プラザ菜の花）
	4.22	第29回通常総会（プラザ菜の花） 出席 31社（委任状 17社）／48社
	5.20	第41回親睦ゴルフコンペ（房総カントリークラブ房総ゴルフ場） 優勝 石澤善博氏（日本軽金属㈱）
	6.3	第167回理事会（プラザ菜の花）
	6.3	合同委員会（プラザ菜の花） 出席 27社 37名
	7.1	第168回理事会（プラザ菜の花）
	7.1	第8回新任者教育（プラザ菜の花） （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 17社 33名 講師：千環協 岡野隆志氏、日環協 北村哲氏
	7.29	第29回研修見学会（成田市リサイクルプラザ 他） 出席 13社 20名
	7.31	千環協ニュース No.73 発行
	9.2	第169回拡大理事会（日立製作所健康保養所 波月荘）
	10.28	第42回親睦ゴルフコンペ（房総カントリークラブ房総ゴルフ場） 優勝 宮本敦夫氏（日本環境㈱）
	11.11	第170回理事会（プラザ菜の花）
	11.11	技術委員会WG成果発表会・第17回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席 25社 39名
	11.27	第22回ソフトボール大会（JFEスチール㈱健保グラウンド） 優勝 JFEテクノリサーチ㈱
	12.2	第171回理事会（京成ホテル）
	12.2	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席 20社 33名
	12.25	千環協ニュース No.74 発行
	1.27	第172回理事会（プラザ菜の花）
	1.27	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県環境生活部大気保全課 大気・特殊公害指導室 工藤 智子 氏 「VOC法規制等について」 ニチアス 株式会社 環境管理室 技術本部 三輪 真之 氏 「アスベスト分析について最近の課題と今後の見通し」 出席 36社 54名
	3.3～4	第173回拡大理事会（日立製作所健康保養所 波月荘）
3.8	第3回経営者交流会 「第1回会員PR会」（プラザ菜の花）	
3.25	千環協ニュース No.75 発行	

年度	月日	活動内容
平成 18 年	4.6	第174回理事会（プラザ菜の花）
	4.21	第175回理事会（プラザ菜の花）
	4.21	第30回通常総会（プラザ菜の花） 出席29社（委任状27社）／56社
	6.3	第43回親睦ゴルフコンペ（千葉桜の里ゴルフクラブ） 優勝 伊藤裕一氏（㈱ダイワ）
	5.17	第176回理事会（プラザ菜の花）
	5.17	合同委員会（プラザ菜の花） 出席26社 35名
	7.7	第177回理事会（プラザ菜の花）
	7.7	第9回新任者教育（プラザ菜の花） （社）日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席17社 34名 講師：千環協 津上昌平氏、村上雅志氏、 セフティーレビュー 末松清志氏
	9.15	第178回理事会（プラザ菜の花）
	9.22	第30回研修見学会（土壌洗浄プラント（清水建設(株)他） 出席13社 50名
	11.17	第179回理事会（プラザ菜の花）
	11.17	技術委員会WG成果発表会・第18回技術事例発表会（プラザ菜の花） 出席28社 50名
	12.8	第180回理事会（プラザ菜の花）
	12.8	パネルディスカッション、技術講演会（プラザ菜の花） 出席19社 32名
	12.25	千環協ニュース No,76 発行
	1.26	第181回理事会（プラザ菜の花）
	1.26	新春講演会・賀詞交換会（プラザ菜の花） 千葉県計量検定所企画指導課 塚本 祐司 氏 「計量制度の見直しの概要について」 株式会社日本環境認証機構 倉水 勝氏 「情報開示と企業責任・信頼性 第三者審査による環境報告書の信頼性向上」 出席34社 66名
	3.3	第182回理事会（プラザ菜の花）
	2.23	交流懇談会（プラザ菜の花）

年度	月日	活動内容
平成 19 年	4.11	第 183 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.20	第 184 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.20	第 31 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 23 社 (委任状 20 社) / 43 社
	6.2	第 44 回親睦ゴルフコンペ (千葉桜の里ゴルフクラブ) 優勝 青木鉄雄氏 (㈱環境管理センター)
	5.15	第 185 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.15	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 20 社 32 名
	7.6	第 10 回新任者教育 (プラザ菜の花) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 18 社 34 名 講師: 千環協 津上昌平氏、(財) 千葉県環境財団 眞利子 浩氏、 セフティーレビュー 大山喜彦氏
	7.27	第 31 回研修見学会 (産業技術総合研究所 計量標準総合センター他) 出席 11 社 32 名
	9.7	第 186 回理事会 (プラザ菜の花)
	9.29	第 23 回ソフトボール大会 (稲毛海浜公園グラウンド) 優勝 (株)上総環境調査センター
	10.23	交流懇談会 (プラザ菜の花)
	11.9	第 187 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.9	技術委員会WG 成果発表会・第 18 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 26 社 53 名
	11.30	パネルディスカッション、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 12 社 20 名
	12.1	第 45 回親睦ゴルフコンペ (成田フェアフィールドゴルフクラブ) 優勝 鈴木広美氏 (日本環境(株))
	12.4	第 188 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.25	第 189 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.25	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境生活部大気保全課 田中 勉 氏 「千葉県揮発性有機溶剤の排出及び飛散の抑制のための取組の促進に 関する条例の公布について」 アジレント テクノロジー(株) LC/MS 営業部 今野 靖 氏 「有機フッ素化合物の分析法-LC/MS/MS を用いた分析及び前処理」 出席 25 社 53 名
	3.7	第 190 回理事会 (プラザ菜の花)

年度	月日	活動内容
平成 20 年	4.4	第 191 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.18	第 192 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.18	第 32 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 32 社 (委任状 26 社) / 58 社 第 10 代会長に武藤敏夫氏 (東電環境エンジニアリング(株)) 就任
	5.15	第 193 回理事会
	5.16	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 23 社 34 名
	6.7	第 46 回親睦ゴルフコンペ (神埼カントリー倶楽部) 優勝 青木鉄雄氏 (㈱環境管理センター)
	6.1	千環協ニュース No,78 発行
	7.11	第 194 回理事会 (プラザ菜の花) 臨時総会 (プラザ菜の花) 出席 12 社 (委任状 33 社) / 45 社
	7.11	第 11 回新任者教育 (プラザ菜の花) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 16 社 35 名 講師: 千環協 津上昌平氏、(財)千葉県環境財団 眞利子浩氏 セフティレビュー 大山喜彦氏
	8.8	第 195 回理事会 (プラザ菜の花)
	10.3	第 32 回研修見学会 (東京臨海リサイクルパワー(株) 他)
	10.17	第 196 回理事会
	10.17	交流懇親会 (プラザ菜の花)
	11.7	第 197 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.7	技術委員会WG成果発表会・第 21 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 34 社 61 名
	11.28	パネルディスカッション、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 20 社 26 名
	12.6	第 47 回親睦ゴルフコンペ (イーグルレイク ゴルフクラブ) 優勝 安田喜孝氏 (習和産業(株))
	12.25	千環協ニュース No,81 発行
	1.23	第 198 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.23	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県総合企画部 地域づくり推進課 市原 泰幸 氏 「PM2.5 環境基準導入の背景について」 東邦大学理学部生物学科教授 長谷川 博 氏 「大型海鳥 アホウドリの保護・研究について」 出席 30 社 50 名
3.6	第 199 回理事会 (プラザ菜の花)	
3.25	千環協ニュース No,82 発行	

年度	月日	活動内容
平成 21 年	4.17	第 200 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.17	第 33 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 24 社 (委任状 29 社) / 53 社
	5.15	第 201 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.15	合同委員会 (プラザ菜の花)
	6.20	第 48 回親睦ゴルフコンペ (成田東カントリークラブ) 優勝 伊藤裕一氏 (株式会社ダイワ)
	6.24	第 12 回新任者教育 (社団法人日本環境分析協会) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 11 社 30 名
	7.2	第 33 回研修見学会 (谷津干潟自然観察センター(習志野市)他)
	8.7	第 202 回理事会 (プラザ菜の花)
	10.2	第 203 回理事会 (プラザ菜の花)
	10.2	交流懇談会 (プラザ菜の花)
	10.24	第 24 回ソフトボール大会 (稲毛海浜公園グラウンド) 優勝 日鉄環境エンジニアリング株式会社
	11.6	技術委員会WG成果発表会・第 22 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 33 社 52 名
	11.6	第 204 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.27	パネルディスカッション、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 19 社 30 名
	1.22	第 205 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.22	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境研究センター 大気騒音振動研究室 内藤 季和氏 「三番瀬再生への取組～自然環境の再生保全と地域住民が親しめる海の再生を目指して～」 社団法人土壌環境センター 技術委員会 田澤 龍三氏 「土壌汚染対策法の改正点等について」 出席 33 社 51 名
	3.5	第 206 回理事会 (プラザ菜の花)

年度	月日	活動内容
平成 22 年	4.23	第 207 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.23	第 34 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 28 社 (委任状 23 社) / 51 社 第 11 代会長に甘崎恭徳氏 (中外テクノス(株)) 就任
	5.13	第 208 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.13	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 23 社 31 名
	6.5	第 49 回親睦ゴルフコンペ (芝山ゴルフ倶楽部) 優勝 鈴木広美氏 (日本環境株式会社)
	6.11	第 13 回新任者教育 (社団法人日本環境測定分析協会) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 11 社 21 名
	8.6	第 209 回理事会 (プラザ菜の花)
	9.15	第 34 回研修見学会 (キッコーマン食品(株)野田工場 他) 出席 13 社 18 名
	10.23	第 25 回ソフトボール大会 (稲毛海浜公園グラウンド) 優勝 株式会社上総環境調査センター
	11.5	第 210 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.5	技術委員会WG 成果発表会・第 23 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 30 社 49 名
	11.26	第 211 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.26	パネルディスカッション、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 26 社 46 名
	1.21	第 212 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.21	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境生活部 廃棄物指導課 残土対策室長 秋葉 義晴氏 「千葉県土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に 関する条例」について 財団法人電力中央研究所 環境科学研究所 速水 洋氏 「都市大気環境問題への取り組み」 出席 29 社 54 名
	3.4	第 213 回理事会 (プラザ菜の花)

年度	月日	活動内容
平成 23 年	4.22	第 214 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.22	第 35 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 26 社 (委任状 25 社) / 51 社
	5.20	第 215 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.20	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 29 社 33 名
	6.15	第 14 回新任者教育 (社団法人日本環境測定分析協会) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 11 社 25 名
	7.31	千環協ニュース No.83 84 合併号発行
	8.5	第 216 回理事会 (プラザ菜の花)
	9.9	第 31 回研修見学会 ((財)電力中央研究所環境科学研究所、 キリンビアパーク取手 他) 出席 10 社 27 名
	10.22	第 28 回ソフトボール大会 (幕張西運動広場) 優勝 J F E テクノリサーチ (株)
	11.4	第 217 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.4	技術委員会WG成果発表会・第 24 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 29 社 48 名
	11.25	第 218 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.25	実務者技術フォーラム、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 15 社 21 名
	1.10	第 1 回ボウリング大会 (ラウンドワン習志野) 優勝 (株) 太平洋コンサルタント
	1.20	第 219 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.20	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境研究センター 大気騒音振動研究室 井上 智博氏 「千葉県の環境放射能について」 社団法人土壌環境センター 深田 園子氏 「土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン改訂に ついて」 出席 28 社 48 名
	3.2	第 220 回理事会 (プラザ菜の花)
3.31	千環協ニュース No.85 発行	

年度	月日	活動内容
平成 24 年	4.20	第 221 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.20	第 36 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 22 社 (委任状 24 社) / 46 社
	5.18	第 222 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.18	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 21 社 28 名
	6.20	第 15 回新任者教育 (社団法人日本環境測定分析協会) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 8 社 10 名
	7.28	第 50 回親睦ゴルフコンペ (セントラルゴルフクラブ) 優勝 宮本敦夫氏 (日本環境(株))
	8.3	第 223 回理事会 (プラザ菜の花)
	9.14	第 36 回研修見学会 ((独) 産業技術総合研究所、シャトーカミヤ 他) 出席 9 社 14 名
	11.2	第 224 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.2	技術委員会成果発表会・第 25 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 31 社 51 名
	11.10	第 27 回ソフトボール大会 (稲毛海浜公園 (スポーツ施設野球場)) 優勝 ユーロフィン日本環境 (株)
	11.16	第 225 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.16	実務者技術フォーラム、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 22 社 30 名
	12.1	第 2 回ボウリング大会 (ラウンドワン習志野) 団体優勝 (株) 環境管理センター 個人優勝 (株) 環境管理センター 木村幸剛氏
	1.18	第 226 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.18	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境生活部 水質保全課 生駒 昌弘 氏 「水質汚濁防止法改正の状況」 社団法人 日本作業環境測定協会 津上 昌平 氏 「胆管がん問題を例にした化学物質のリスクアセスメント」 出席 26 社 49 名
	3.8	第 227 回理事会 (プラザ菜の花)

年度	月日	活動内容
平成 25 年	4.26	第 228 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.26	第 37 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 24 社 (委任状 20 社) / 44 社
	5.17	第 229 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.17	経営者・中堅社員向けセミナー (プラザ菜の花)
	5.17	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 21 社 29 名
	6.19	第 16 回新任者教育 (社団法人日本環境測定分析協会) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 11 社 30 名
	7.6	第 3 回ボウリング大会 (ラウンドワン 習志野) 優勝 (株) 環境管理センター
	8.2	第 230 回理事会 (プラザ菜の花)
	10.19	第 28 回ソフトボール大会 (幕張西運動広場) 優勝 株式会社上総環境調査センター
	11.14	第 37 回研修見学会 (出光興産株式会社 石炭・環境研究所 他) 出席 9 社 17 名
	11.8	第 231 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.8	技術委員会成果発表会・第 26 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 29 社 45 名
	11.29	第 232 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.29	パネルディスカッション、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 20 社 22 名
	1.17	第 233 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.17	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境生活部 大気保全課 江畑 嘉臣 氏 「千葉県の大气環境行政の状況」 浄土真宗本願寺派布教使 赤川 浄友 氏 「仏教から学ぶ経営と営業」 出席 26 社 49 名
3.7	第 234 回理事会 (プラザ菜の花)	

年度	月日	活動内容
平成 26 年	4.18	第 235 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.18	第 38 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 23 社 (委任状 19 社) / 42 社 第 12 代会長に野口康成氏 (㈱太平洋コンサルタント) 就任
	5.23	第 236 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.23	経営者・中堅社員向けセミナー (プラザ菜の花)
	5.23	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 24 社 29 名
	6.17	第 17 回新任者教育 (プラザ菜の花) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 13 社 27 名
	8.8	第 237 回理事会 (プラザ菜の花)
	8.30	第 4 回ボウリング大会 (VEGA アサヒボウリングセンター) 優勝 株式会社太平洋コンサルタント
	9.10	第 38 回研修見学会 (東京税関 他) 出席 13 社 19 名
	11.7	第 238 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.7	技術委員会WG 成果発表会・第 27 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 29 社 48 名
	11.8	第 29 回ソフトボール大会 (幕張西運動広場) 優勝 日鉄住金環境株式会社
	11.21	第 239 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.21	パネルディスカッション、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 14 社 22 名
	1.23	第 240 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.23	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境生活部 廃棄物指導課 岩崎 進 氏 「千葉県特定自動車部品のヤード内保管等の適正化に関する条例について」 (一社)日本環境測定分析協会 副会長 津上 昌平 氏 「環境計量証明事業者の現状と課題」
	3.6	第 250 回理事会 (プラザ菜の花)

年度	月日	活動内容
平成 27 年	4.17	第 251 回理事会 (プラザ菜の花)
	4.17	第 39 回通常総会 (プラザ菜の花) 出席 22 社 (委任状 19 社) / 41 社
	5.29	第 252 回理事会 (プラザ菜の花)
	5.29	合同委員会 (プラザ菜の花) 出席 31 社 40 名
	6.24	第 18 回新任者教育 (社団法人日本環境測定分析協会) (社) 日本環境測定分析協会関東支部と共催 出席 13 社 26 名
	7.11	第 30 回ソフトボール大会 (稲毛海浜公園 野球場) 優勝 株式会社上総環境調査センター
	8.21	第 253 回理事会 (プラザ菜の花)
	9.11	第 39 回研修見学会 (地球の丸く見える丘展望館、ヒゲタしょうゆ工場 他) 出席 13 社 30 名
	11.6	第 254 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.6	技術委員会成果発表会・第 28 回技術事例発表会 (プラザ菜の花) 出席 27 社 39 名
	11.27	第 255 回理事会 (プラザ菜の花)
	11.27	実務者技術フォーラム、技術講演会 (プラザ菜の花) 出席 17 社 24 名
	1.22	第 256 回理事会 (プラザ菜の花)
	1.22	新春講演会・賀詞交換会 (プラザ菜の花) 千葉県環境研究センター 廃棄物・化学物質研究室 藤村 葉子 氏 「千葉県の水環境－水質保全の取り組みと水環境調査－」 国立大学法人 千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 教授 近藤 昭彦氏 「ラジコン電動マルチコプターによる環境計測」 出席 22 社 36 名
	3.18	第 257 回理事会 (プラザ菜の花)

4. 技術事例発表テーマ

(技術委員会)

発表のテーマ	社名	発表者
【昭和63年 第1回】 水酸化イットリウム共沈分離法について DSCによる自己反応性物質の測定条件の検討 濾紙スポット・蛍光X線による生活排水中の全リンの迅速定量 沿道大気浮遊粉塵中のPAH及びニトロPAHと変異原活性について	住友金属鉱山 セイコーアイ・テクノリサーチ 川村理化学研究所 環境管理センター	塚原様 奥山様 和田様 小林様
【平成元年 第2回】 ICPによる油中のV・Ni分析(標準法) ニッケルルツボによるクロム分析(底質)の問題点 ICP-MSによる超微量分析	出光興産 環境管理センター 住化分析センター	小峰様 高橋様 高橋様
【平成2年 第3回】 メタルフレームレス原子吸光法による高純度フッ酸中不純物の直接定量 高純度金属中微量塩素の定量方法 ICP-MSの真空紫外域発光線についての一考察 新規高分子物質の安全性試験について 分析室内空気汚染対策の一例(ガスクロマトグラフ法(ECD)による水質有機塩素化合物分析の場合)	セイコーアイ・テクノリサーチ 住友金属鉱山 中外テクノス 住化分析センター 永山環境科学研究所	坂部様 戸田様 斉藤様 吉崎様 永山様
【平成3年 第4回】 電気加熱黒鉛炉原子吸光法による水道水中の鉛の高感度直接定量 クリンルームエア中のアニオンの分析 サウジアラビア王国、ALカフジにおける大気環境汚染状況 トリクロロエチレン等の含有試験に用いる採取容器についての一事例	セイコーアイ・テクノリサーチ 住化分析センター 東京化学分析センター 環境管理センター	坂部様 飯川様 川岸様 小笠原様
【平成4年 第5回】 騒音問題についての一考察(最近の事例から) 自動COD計の使用実施例 防塵対策のための分析事例 尿尿処理における水質分析の注意点 汚濁物質の堆積と溶出挙動について	中外テクノス 住化分析センター セイコーアイ・テクノリサーチ 浅野工事 浅野工事	長谷様 大悟法様 浜田様 阿部様 高梨様
【平成5年 第6回】 水素化物導入ICP質量分析法による微量ゲルマニウムの定量 揮発性有機化合物の測定について 天然水飲料の分析事例 汚染土壌の分析技術	住友金属鉱山 住化分析センター セイコーアイ・テクノリサーチ 住化分析センター	鶴田様 吉池様 川鍋様 加藤様
【平成6年 第7回】 最新の蛍光X線分析装置による灰分成分の分析事例 鉛の原子吸光分析における分析方法の比較検討 ICP-MSによる超純水の微量金属分析 走査型プローブ顕微鏡による応用例の紹介	新日化環境エンジニアリング 中外テクノス 住化分析センター セイコーアイ・テクノリサーチ	大塚様 小林様 渡邊様 西岡様

<p>【平成7年 第8回】 CID-ICPによる微量金属の分析 イオン交換分離濃縮・吸光光度法による排水中の鉛の簡易分析法 分析結果から自然を理解する 臭気官能試験の留意点について 石油中の硫黄、バナジウム、ニッケルの同時分析 全窒素分析（紫外線吸光光度法）におけるMnの影響について</p>	<p>新日化環境エンジニアリング 住友金属鉱山 （株）ダイワ 環境管理センター 出光興産 浅野工事</p>	<p>手島様 菊池様 小池様 秦様 友池様 高梨様</p>
<p>【平成8年 第9回】 ごみ埋立地浸出水処理水のCODMn分析について （高塩化物イオン含有試料の銀塩添加量） フローインジェクション法による環境水中のシアン、フッ素の定量 土壤汚染調査とオンサイト分析 都市ごみ焼却飛灰中の22元素の濃度レベルとその挙動</p>	<p>浅野工事 川鉄テクノサーチ 住化分析センター 環境管理センター</p>	<p>富樫様 島田様 大悟法様 島貝様</p>
<p>【平成9年 第10回】 顕微レーザーラマン分光法を用いた石炭炭素質の分析と燃焼性評価 千葉県内における土壤中ひ素の化学存在形態 都川中流域における河川改修工事が自然生態系に及ぼす影響 連続気相導入／ICP発光分析法による炭酸の定量</p>	<p>出光興産(株)千葉製油所 (株)環境管理センター 中外テクノス(株) 住友金属鉱山(株)</p>	<p>岡崎様 王金子様 伊藤様</p>
<p>【平成10年 第11回】 絶縁油中低塩素化PCB迅速分析法の確立 パレット式回転炉による廃プラスチック処理装置の開発 環境水中のレジオネラ属菌の検出 品質管理に関するアンケート集計結果</p>	<p>東電環境エンジニアリング 中外テクノス(株) 新日化環境エンジニアリング 首都圏環協連担当</p>	<p>中島様 田中様 有馬様 名取様</p>
<p>【平成11年 第12回】 検知管による排水中の塩素イオン迅速定量法 バーコードによる薬品管理方法 環境試料中のフタル酸エステル類の測定 所内標準試料を用いた分析値の品質管理の取組み 環境放射能分析における標準試料</p>	<p>出光興産(株) セイコーアイ・テクニサーチ (株)住化分析センター (株)環境管理センター (財)日本分析センター</p>	<p>石郷岡様 小島様 木村様 堀野中様</p>
<p>【平成12年 第13回】 ポリウレタンフォーム(PUFP)を用いた水中ダイオキシン類の固相抽出法に関する検討 水晶振動子センサーの紹介 内分泌攪乱化学物質(R-P, BPA, PAE)一斉分析法の検討 所内標準試料を用いた河川水中極微量元素分析のための品質管理の取組み LC-MSを用いたエタノールアミン類のフローインジェクション分析</p>	<p>中外テクノス(株) セイコーアイ・テクニサーチ (株)住化分析センター (株)環境管理センター 新日化環境エンジニアリング</p>	<p>中菌様 土井様 吉田様 露木様 野中様</p>
<p>【平成13年 第14回】 レーザー光を用いた排ガス計測 蛍光X線による潤滑油中の微量硫黄分の分析法の検討 室内空気用の新規なホルムアルデヒド・サンプラー ステンレス鋼の抗菌試験 原油中特定化学物質の分析法開発</p>	<p>中外テクノス(株) 出光興産(株)千葉製油所 (株)住化分析センター 川鉄テクノサーチ(株) 出光興産(株)中央研究所</p>	<p>迫様 坂尾様 村上様 武内様 綿貫様</p>

<p>【平成14年 第15回】 発光分光分析装置による介在物濃度の分析 オープンパス方式測定器による大気汚染物質の測定 黄砂の源であるオールドス高地での表流水と地下水の分析 水中のアジピン酸エステルおよびフタル酸エステル類の定量 土壤汚染対策法に関連した、土壌含有基準に係る測定方法について</p>	<p>川鉄テクノロジー (株) 中外テクノス (株) (株) ダイワ (株)住化分析センター 習和産業 (株)</p>	<p>杉原様 小倉様 小池様 山内様 山谷様</p>
<p>【平成15年 第16回】 環境試料中の多環芳香族炭化水素類 (PAHs) の測定 表層土壌ガス調査の現場からの報告 コンポストの総合評価 Pseudallescheria boydii による無塩素化ダイオキシン分解 経路に関する研究 製鋼スラグと腐植物質による磯焼け回復法</p>	<p>(株)住化分析センター (株)CTIサイエンスシステム 川鉄テクノロジー (株) (株)環境管理センター 新日化環境エンジニアリング</p>	<p>木村様 勝間田様 栃原様 中村様 荒牧様</p>
<p>【平成16年 第17回】 水素化物発生 - ICP 発光分光法による石こう中の環境規制物質の 分析 環境試料における LC/MS/MS の有用性について 廃プラスチック熱分解油の評価 ホタルの発光酵素ルシフェラーゼの応用開発 ボルタンメトリーを用いた土壌中重金属等の迅速分析法</p>	<p>住友金属鉱山 (株) (株)上総環境調査センター 出光興産(株)中央研究所 キョーマン(株)分析センター (株)環境管理センター</p>	<p>池内様 柏崎様 佐藤様 辰巳様 辻本様</p>
<p>【平成17年 第18回】 EPMA 等によるコンクリートの劣化現象の解析 保全遺伝学的調査の事例紹介 拭き取り法による残留殺虫剤分析の溶媒選定に係る検討 固相抽出-LC/MS 法によるダラボンおよびハロ酢酸類の分析検討 DNA 解析による食品の品質判別分析</p>	<p>(株)太平洋コンサルタント (株)環境管理センター イカリ消毒(株) (株)住化分析センター 日本環境 (株)</p>	<p>沢木様 林様 太鼓地様 木村様 高橋様</p>
<p>【平成18年 第19回】 石綿含有建材分析の諸問題－前処理の有効性の検討－自動車騒 音の常時監視 (面的評価について) 室内空気中有機リン系難燃剤・可塑剤の分析試験法の検討 焼却施設を対象としたスクリーニングの活用を目的とするダイ オキシン類の迅速分析方法 土壌中重金属類の簡易・迅速分析 鉄道レールの組成から見た製鉄の歴史</p>	<p>(株)環境管理センター 中外テクノス(株) (株)住化分析センター (株)太平洋コンサルタント JFEテクノロジー(株) 日鉄環境エンジニアリング (株)</p>	<p>野坂様 道淵様 渡辺様 長浜様 吉川様 大石様</p>
<p>【平成19年 第20回】 小櫃川河口干潟における生物多様性についての考察及び、中央ク リークにおける底質環境と多毛類の分布について 固相抽出 GC/MS 法による水道法農薬類の回収率向上について 気中塩基性成分のキャピラリー電気泳動装置による定量 熱加水分解/FIA 法によるセメント中のフッ素の簡便迅速な定量 新規遺伝子検出定量法 (QP 法) による微生物解析</p>	<p>(株)環境管理センター (株)上総環境調査センター (株)住化分析センター (株)太平洋コンサルタント 日鉄環境エンジニアリング (株)</p>	<p>井深様 北橋様 嶋田様 野口様 十川様</p>
<p>【平成20年 第21回】 四重極型 GC/MS/MS による高感度、高精度な残留農薬一斉分析法 の開発 ケルゲル性窒素とアンモニア性窒素が整合しない測定試料の事例 ELISA 法による室内アレルゲンの分析方法の検討 環境規制に対応する ICP 分析の可能性について 建設系再生製品の環境安全評価システムにおける環境溶出試験</p>	<p>キョーマン(株)分析センター (株)環境管理センター (株)住化分析センター セイコーイテック(株) 中外テクノス(株)</p>	<p>榊原様 須藤様 渡辺様 前田様 西村様</p>

<p>【平成21年 第22回】 温室効果ガスの環境影響評価手法 紫外線照射-熱分解ガスクロマトグラフ質量分析法を用いた樹脂材料の劣化評価 世界遺産石見銀山の科学的調査について</p>	<p>中外テクノス(株) (株)住化分析センター 日鉄環境エンジニアリング(株)</p>	<p>宮崎 様 奥山 様 大石 様</p>
<p>【平成22年 第23回】 TDS-GC/MS装置を用いた分析事例と応用例 「絶縁油中の微量PCBに関する簡易測定法マニュアル(第2版)」で公表された2つの測定法の紹介(イノムアッセイ法及びGPC/GC-ECD法) 埼玉県秩父地方の産金についての検証 COD(Mn)の共同実験について</p>	<p>中外テクノス(株) (株)住化分析センター 日鉄環境エンジニアリング(株) 埼玉県環境計量協議会</p>	<p>小野 様 長屋 様 大石 様 渡辺 様</p>
<p>【平成23年 第24回】 匂い嗅ぎ・GC/MS/SCD装置を用いた臭気成分分析法の紹介 DXNs迅速分析の範囲拡大と技術向上 土壌試験において、ろ過速度が分析結果に与える影響について 作業環境測定～酸化プロピレン測定条件の検討～</p>	<p>日鉄環境エンジニアリング(株) (株)太平洋コンサルタント (株)ユーベック (株)住化分析センター</p>	<p>山口 様 神津 様 山本 様 山本 様</p>
<p>【平成24年 第25回】 超純水製造の最新技術の紹介と分析への適用 全自動還元水銀測定装置を用いた有機系妨害成分を含む試料の水銀分析の検討 窒素酸化物測定における残存酸素濃度差の影響の有無について 臭気測定の実際</p>	<p>オルガノ(株) (株)環境管理センター (株)ユーベック (株)住化分析センター</p>	<p>和田 様 長谷川 様 木村 様 小泉 様</p>
<p>【平成25年 第26回】 超純水の基礎技術と超純水装置アプリケーションの紹介 HPLC/MS/MSを用いた陰イオン界面活性剤(LAS)の分析 マトリックス効果を低減するPEGの検討 現場における空間線量率の測定と課題</p>	<p>オルガノ(株) 日本ウォーターズ(株) (株)ユーベック 中外テクノス(株)</p>	<p>竹田 様 佐藤 様 渡邊 様 水上 様</p>
<p>【平成26年 第27回】 ハンディタイプ蛍光X線分析装置の特性と限界 ICP-MS7を使用した微量元素分析に最適な超純水供給システム 実験計画法を用いたCODMn測定時のマスクングに及ぼす因子に関する調査 アセトン使用時における分析環境の確認</p>	<p>基礎地盤コンサルタンツ(株) オルガノ(株) 月島機械(株) (株)ユーベック</p>	<p>野田 様 和田 様 鈴木 様 柄澤 様</p>
<p>【平成27年 第28回】 ロボット導入による分析工程の自動化について 重曹プラスト工法による除染技術等の紹介 ヘキサン抽出法による鉱油類の回収実験 分析工程管理システムについて</p>	<p>(株)環境管理センター 中外テクノス(株) (株)ユーベック (株)オオスミ</p>	<p>平野 様 加藤 様 土屋 様 平澤 様</p>

5. 研 修 見 学 会 実 績

(教育・企画委員会)

第回	年月日	研修見学先	応対者・内容等	参加者
1	昭和 54 年 10 月 25 日	千葉県水質保全研究所 千葉県下水道管理事務所	第 2 水質研究室長 川島 信二 氏 BOD 測定法の諸問題について	24
2	昭和 55 年 7 月 1 日	千葉県公害研究所	所長 梶村 茂 氏 県公害全研究所	34
3	昭和 55 年 10 月 24 日	千葉県水産試験場	公害研究室長 高橋 哲夫 氏 県下の漁場と環境問題	20
4	昭和 56 年 10 月 24 日	新日本製鉄(株)君津製鉄所	日環協関東支部と共催	17
5	昭和 57 年 11 月 2 日	千葉県水質保全研究所	技師 平間 幸雄 氏 JIS K 0102 改正と問題点	27
6	昭和 58 年 11 月 16 日	キッコーマン(株)本社工場	企画管理室長 杉本 洋 氏 バイオテクノロジー	21
7	昭和 59 年 11 月 21 日	国立公害研究所 霞ヶ浦臨湖実験施設		15
8	昭和 60 年 9 月 27 日	セイコー電子工業(株) 高塚事業所	主任 高橋 純一 氏 ICP 測定の自動化	26
9	昭和 61 年 1 月 23 日	国立公害研究所 公害資源研究所	大気拡散風洞実験、水理モデル 各種物理分析機器、活性汚泥	27
10	昭和 62 年 1 月 26 日	住友化学工業(株) 千葉工場	総務部長 堤 碩 氏	21
11	昭和 62 年 9 月 25 日	川鉄テクノリサーチ(株) 千葉事業所	特別技術顧問 岸高 寿 氏 原子スペクトロメトリーの系譜	21
12	昭和 63 年 8 月 26 日	千葉県水産試験所 (千倉)	アワビ、タイ等の養殖 石堂寺 (丸山町)	20
13	平成元年 10 月 12 日	(株)日立製作所 那珂工場 (勝田市)	顧問 酒井 馨 氏 分析機器製造工程と機器分析	31
14	平成 2 年 7 月 24 日	千葉県内水面试験所	所長 田川 和幸 氏 他 房総のむら (大栄町)	34
15	平成 3 年 7 月 24 日	キッコーマン(株) 野田プラント	環境管理部長 茂木 義資 氏 他 御用蔵、清水公園	32
16	平成 4 年 7 月 24 日	手賀沼 水の館	県水保研第 3 研究室長 本橋敬之助 氏 ニッカウキスキー 手賀沼フィッシングセンター	31
17	平成 5 年 7 月 16 日	(株)環境管理センター 環境基礎研究所 (八王子)	社長 水落 陽典 氏 研究所長 橋場 常雄 氏	39
18	平成 6 年 7 月 1 日	千葉県現代産業科学館 (市川市)	学芸課主任技師 池田 文彦 氏 柴又帝釈天 (葛飾)	36

第回	年月日	研修見学先	応対者・内容等	参加者
19	平成7年 7月13日	千葉県中央防災センター 川村理化学研究所	川村理化/高田 加奈子 氏 国立歴史民族博物館	46
20	平成8年 7月24日	中央防波堤廃棄物処理場 大田清掃工場	広報係長 岩崎 晃 氏 下水道局南部スラッジプラント	26
21	平成9年 7月11日	アサヒビール(株) 茨城工場 (守谷町)	茨城県自然博物館 (岩井市)	41
22	平成10年 7月24日	日本鋼管(株)京浜製鉄所(川崎市) 廃プラ高炉原料化工場	キンビール横浜工場	37
23	平成11年 7月9日	(株)クリタス環境分析センター (筑波学園都市)	牛久シャトー (牛久市) 筑波山	36
24	平成12年 7月14日	(財)電力中央研究所 (我孫子市)	清水公園 (野田市) キッコーマン(株)野田プラント	39
25	平成13年 7月6日	新日本製鉄(株)君津製鉄所 廃プラ燃料ガス化工場	東電新エネルギーパーク (富津市) 東京ドイツ村 (袖ヶ浦市)	30
26	平成14年 7月12日	(株)日立ハイテクノロジーズ 那珂事業所	那珂湊港 大洗マリンパーク (大洗町)	27
27	平成15年 9月5日	アサヒビール(株)茨城工場 (守谷町) (首都圏環協連との共催)	あけぼの山農業公園 (柏市) 鳥の博物館 (我孫子市)	39
28	平成16年 7月23日	東電・横浜火力発電所 電力館 ツウイニー・ヨコハマ	横浜中華街 山溪園 (中区本牧)	28
29	平成17年 7月29日	いずみ清掃工場 (成田市) 成田市リサイクルプラザ	ウオッセ (銚子市) 波崎ウィンドファーム (波崎町)	20
30	平成18年 9月22日	清水建設(株) 土壌洗浄プラント (川崎) (首都圏環協連との共催)	キンビアビレッジ (横浜市)	27
31	平成19年 7月27日	産業技術総合研究所 計量標準 総合センター他 (首都圏環協連との共催)	サイエンススクエアつくば 牛久シャトー (牛久市)	25
32	平成20年 10月3日	東京臨海リサイクルパーク(株) スーパーエコプラント	サッポロビール千葉工場	19
33	平成21年 7月2日	谷津干潟自然観察センター (習志野市) 日環協関東支部環境セミナー	特別講演「東京湾の環境保全～ラム サール条約登録湿地谷津干潟を 例として」	34
34	平成22年 9月15日	キッコーマン食品(株)野田工場 キッコーマン国際食文化研究センター	醤油製造工程の説明と見学 茂木本家美術館見学	18
35	平成23年 9月22日	(財)電力中央研究所環境科学研 究所 (首都圏環協連との共催)	キンビアパーク取手	10
36	平成24年 9月14日	(独)産業技術総合研究所、 シャトーカヤ	(独)産業技術総合研究所のサイエ ンススクエアつくば、地質標本館	14

37	平成 25 年 11 月 14 日	出光興産株式会社 石炭・環境 研究所（袖ヶ浦市） 日環協経営者セミナー in 鴨川 （鴨川グランドホテル）	石炭・環境研究所見学/ 副所長 山田 修二 氏 特別講演の聴講	14
38	平成 26 年 9 月 10 日	東京税関（東京都江東区青海）	東京臨海広域防災公園 （東京都江東区有明）	19
39	平成 27 年 9 月 11 日	千葉県銚子沖の洋上風力発電所 の見学（荒天中止） （首都圏環協連との共催）	地球の丸く見える丘展望館、ヒゲ タしょうゆ工場、ウオッセ （銚子市）	13

注) 第 25 回の参加人数は、写真により確認した数です。

第 30 回は首都圏環協連との共催で、千環協より 27 名、全体で 52 名の参加です。

第 31 回は首都圏環協連との共催で、千環協より 25 名、全体で 32 名の参加です。

第 35 回は首都圏環協連との共催で、千環協より 10 名、全体で 27 名の参加です。

第 39 回は首都圏環協連との共催で、千環協より 13 名、全体で 30 名の参加です。

6. 技術講演会実績

(教育・企画委員会)

年月日	テーマ	講師
昭和 62 年 11 月 26 日	用水、排水中の低分子量ハロゲン化 炭化水素試験方法について	(株)環境管理センター 三村 秀一 氏
昭和 63 年 12 月 2 日	化学物質分析技術の近況と今後の展望	(株)島津製作所 計測本部 技師長 坂田 衛 氏
平成元年 10 月 27 日	①水質汚濁防止法の一部改正について ②トリクロロエチレン及び農薬分析上の 問題点について	県環境部水質保全課 鏑田 功 氏 県水質保全研究所 中島 淳 氏
平成 2 年 12 月 4 日	E D S' - S E M の環境分析への対応	セイコー電子工業株科学機器事業部 杉山 淳子 氏
平成 3 年 12 月 9 日	①千葉県における大気中の水銀濃度 ②四塩化炭素の分析方法と問題点の検討	県公害研究所 押尾 敏夫 氏 県水質保全研究所 半野 勝正 氏
平成 4 年 12 月 2 日	新廃棄物処理法、法令関係の解説	県環境部産業廃棄物課 課長補佐 内山 一郎 氏
平成 5 年 11 月 19 日	新計量法及び計量証明事業の問題点	通産省通商産業検査所化学部 化学工業品課長 田坂 勝芳 氏
平成 6 年 12 月 8 日	①環境水分析法の比較検討 ②GC/MSによる環境基準及び 要監視項目の測定	県水質保全研究所 平間 幸雄 氏 県水質保全研究所 吉澤 正 氏
平成 7 年 12 月 8 日	高速液体クロマトグラフィーを用いた 農薬の同時定量	県水質保全研究所 主任研究員 藤本 千鶴 氏
平成 8 年 11 月 22 日	有害大気汚染物質の分析技術	川崎市公害研究所 鈴木 茂 氏
平成 9 年 11 月 20 日	分析値の信頼性に関する国際的動向	(株)日立製作所 C I T A C 委員 安田 和男 氏
平成 10 年 11 月 27 日	原子吸光法及び I C P 発光法の ポイントとなる使い方	千葉大学工学部物質工学科 講師 平野 善博 先生
平成 11 年 11 月 5 日	試験所認定制度及び技能試験について (I S O / I E C ガイド 25)	(財)日本分析センター 高田 芳矩 氏
平成 12 年 11 月 22 日	鉄鋼業における環境問題	新日鉄総合技術センター・鉄鋼研究所 理事 古牧 育男 氏
平成 13 年 11 月 30 日	技能試験について	(社)日本環境測定分析協会 企画部長 山田 修一 氏
平成 14 年 11 月 27 日	I C P 発光分光分析による不確かさの 求め方	セイコーインスツル(株) 科学機器事業部 技術課長 大橋 和夫 氏
平成 15 年 11 月 28 日	なし (パネルディスカッションに充当)	—

年月日	テーマ	講師
平成 16 年 11 月 22 日	環境計量証明事業登録の手引き	県計量検定所指導課課長 山田 保 氏 県計量検定所指導課主事 木口 静 氏
平成 17 年 12 月 2 日	VOC 規制の排出量規制とその測定	(株)堀場製作所東京セールスオフィス 隈田 晋一 氏
平成 18 年 12 月 8 日	X 線回折装置による建材製品中のアスベスト含有率測定の実際	(株)島津製作所 小柳 和夫 氏
平成 19 年 11 月 30 日	千葉県における悪臭防止対策 臭気指数による規制	千葉県環境研究センター大気研究室 上席研究員 井上 智博 氏
平成 20 年 11 月 28 日	JISK0102(工場排水試験法)改訂の概要について	(社)日本工業用水協会 本郷 秀昭 氏
平成 21 年 11 月 27 日	水中のシアン化合物の分析方法～シアン及び全シアンの分析と誤検出～	環境技術評価研究所 野々村 誠 氏
平成 22 年 11 月 26 日	水質汚濁防止法一部改正の要点～今後の排水管理のあり方～	環境省水・大気環境局水環境課 課長補佐 富坂 隆史 氏
平成 23 年 11 月 25 日	2011 年東北地方太平洋沖地震による千葉県内の地震動と液状化～流動化	千葉県環境研究センター地質環境研究室 古野 邦雄 氏、酒井 豊 氏
平成 24 年 11 月 16 日	ICP-MS の最新情報と環境分析の基礎	アジレント・テクノロジー(株) アプリケーションセンター 大森 美音子 氏
平成 25 年 11 月 29 日	①遠心機について (弊社製造遠心機) ②13 号告示改正に伴うフィルター変更の経緯と現状	(株)コクサン 荻島 博之 氏 アドバンテック東洋(株) 高野 武郁 氏
平成 26 年 11 月 21 日	①新たな排水管理手法～WET 手法～ ②JIS 化された連続流れ分析について	(一財)化学物質評価研究機構 久留米事業所 関 雅範 氏 ビーエルテック(株) 秋月 晃 氏
平成 27 年 11 月 27 日	環境分野における新たな取り組み～バイオアッセイによる評価技術の一例	(株)佐々木環境技術事務所 佐々木 克典 氏

注) 上記リストの技術講演会としては昭和 62 年度からの記録ですが、千環協ニュースの創立 10 周年記念特集には、講演会として昭和 54-61 年度までに 11 回の講演会開催の記録があります。

7. 新 春 講 演 会 実 績

(総務委員会)

年度	年月日	テ ー マ	講 師
昭和 62 年	昭和 63 年 1 月 21 日	①アスベストの測定と諸問題	労働衛生検査センター測定分析室 今泉 敬士郎 氏
		②2000 年の千葉県その展望と ふるさと千葉環境プランについて	千葉県環境部環境調整課 計画係 牧野 敬一 氏
昭和 63 年	平成元年 1 月 26 日	千葉県における環境アセスメントの 実施状況とその特色	千葉県環境部環境調整課 金子 弥四郎 氏
平成 元 年	平成 2 年 1 月 26 日	千葉県の環境の現状と対策	千葉県環境部環境調整課 喜多 大次郎 氏
平成 2 年	平成 3 年 1 月 26 日	①小規模水道とその規制について	千葉県衛生部衛生指導課 環境衛生指導係 伊藤 仁司 氏
		②農薬の分析等について	千葉県農業試験場 生産環境試験室 丸 諭 氏
平成 3 年	平成 4 年 1 月 23 日	①千葉県における環境行政について	千葉県環境部環境調整課 環境政策室 久保木 伸浩 氏
		②手賀沼における水環境と浄化	千葉県水質保全研究所 本橋 敬之助 氏
平成 4 年	平成 5 年 1 月 20 日	①ブラジルでの地球サミットの 視察を終えて	千葉県環境研究所 金子 弥四郎 氏
		②水質分析の公定法と 原子スペクトル分析法	セイコー電子工業(株) 松原 道夫 氏
平成 5 年	平成 6 年 1 月 27 日	①悪臭追加物質とその測定法について	環境庁大気保全局 特殊公害課臭気対策係 前川 清三郎 氏
		②水質に係わる新基準等の 環境行政の動向	千葉県環境部水質保全課 地下水汚染対策室 安藤 純一 氏
平成 6 年	平成 7 年 1 月 30 日	①廃棄物情報センター技術開発の 業務紹介と再生品使用時の安全性の 考え方	千葉県廃棄物情報センター 原 雄 氏
		②環境監査の動向と監査手順	日本検査キューエイ(株) 斎藤 喜孝 氏

平成7年	平成8年 1月30日	①21世紀に向けた本県環境の 長期構想について	千葉県環境部環境調整課 環境政策室 鈴木 一男 氏
		②ISO14001と環境管理システム について	(株)環境管理センター 岸田 澄江 氏
平成8年	平成9年 1月29日	①大気汚染防止法の改正について	千葉県環境部 大気保全課 銀川 憲雄 氏
		②分析サービス業における、 I S O 9001の認証取得の実態	株式会社住化分析センター 山田 秀昭 氏
平成9年	平成10年 1月29日	①「千葉県土砂等の埋立等による 土壌の汚染及び災害の発生の防止に 関する条例」の概要について	千葉県環境部 産業廃棄物課 主幹 小川 功 氏
		②ダイオキシンに関する諸問題について	株式会社環境管理センター 東京支社長 橋場 常雄 氏
平成10年	平成11年 2月5日	①環境ホルモン対策について	千葉県環境部環境調整課 副主査 堀津 誠 氏
		②水質汚濁防止法に基づき、排出基準を 定める条例及び千葉県環境保全条例 施行規則の一部改正について	千葉県環境部 水質保全課 副主幹 鈴木 真人 氏
平成11年	平成12年 1月28日	①ダイオキシン類対策特別 措置法について	千葉県環境部 大気保全課 課長補佐 寺井 賢一郎 氏
		②千葉県の大気環境と自動車 公害対策について	千葉県環境部大気保全課 自動車公害対策室長 小熊 三郎 氏
		③蛍光ルリーフェラーゼを用いた 衛生検査システム	キッコーマン株式会社 環境保全推進室 課長 長原 歩 氏
平成12年	平成13年 1月31日	①産業廃棄物処理の現状と課題について	千葉県環境生活部 産業廃棄物課 飯豊 修司 氏
		②キッコーマンの環境施策 －やって来たこと、今考えていること－	キッコーマン株式会社 環境保全推進室長 山野 晴久 氏
平成13年	平成14年 1月23日	①ごみとリサイクルについて	千葉県環境生活部 一般廃棄物課 主査 三澤 義郎 氏
		②最近の環境行政の動向 －化学物質対策を中心に－	株式会社環境管理センター 理事 朝来野 邦彦 氏
平成14年	平成15年 1月17日	①千葉県循環型社会づくり計画について	千葉県環境生活部 環境政策課 資源循環推進室 室長 森 茂 氏
		②土壌汚染対策法施行後の 土壌汚染状況調査・対策について	三菱マテリアル資源開発株式会社 取締役 松坂 総一郎 氏

平成 15 年	平成 16 年 1 月 23 日	①旅館業法施行条例及び公衆浴場法 施行条例の一部改定について 「レジオネラ症、発生防止対策」	千葉県、健康福祉部衛生指導課 生活衛生推進室 副主査 木村 威 氏
		②地震予知 研究最前線地球・電磁気的手法	千葉大学 理学部 海洋バイオシステム研究センター 助教授 服部 克己 氏
平成 16 年	平成 17 年 1 月 28 日	①土壌汚染対策法について	千葉県環境生活部 水質保全課地質環境対策室 副主査 根田 満 氏
		②平成 15 年度環境計量事業者 (事業所) の実態調査	社団法人日本環境測定分析協会 事務局長 鷺 俊雄 氏
平成 17 年	平成 18 年 1 月 27 日	①VOC法規制等について	千葉県環境生活部 大気保全課 大気・特殊公害指導室 工藤 智子 氏
		②アスベスト分析について 最近の課題と今後の見通し	ニチアス株式会社 環境管理室 技術本部 三輪 真之 氏
平成 18 年	平成 19 年 1 月 26 日	① 計量制度の見直しの概要について	千葉県計量検定所 企画指導 課長 塚本 祐司氏
		②情報開示と企業責任・信頼性第三者審 査による環境報告書の信頼性向上	株式会社日本環境認証機構 倉水 勝氏
平成 19 年	平成 20 年 1 月 25 日	① 千葉県揮発性有機溶剤の排出及び飛 散の抑制のための取組の促進に関する 条例の公布について	千葉県環境生活部 大気保全課 主幹 田中 勉氏
		② 有機フッ素化合物の分析法 LC/MS/MS を用いた分析及び前処理	アジレント・テクノロジー株式会社 今野 靖氏
平成 20 年	平成 21 年 1 月 23 日	①PM2.5 環境基準導入の背景について	千葉県総合企画部 地域づくり推 進課 三番瀬再生推進室 主査 市原 泰幸氏
		②大型海鳥 アホウドリの保護・研究につ いて	東邦大学 理学部 生物学科 教授 長谷川 博氏
平成 21 年	平成 22 年 1 月 22 日	①三番瀬再生への取り組み ～自然環境の再生保全と地域住民が親 しめる海の再生を目指して～	千葉県環境研究センター 大気騒音振動研究室 主席研究員 内藤 季和氏
		②土壌汚染対策法の改正点等について	社団法人土壌環境センター 技術委員会 副委員長 田澤 龍三氏

平成22年	平成23年 1月21日	①「千葉県土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例」について	千葉県環境生活部 廃棄物指導課 残土対策室長 秋葉 義晴氏
		②都市大気環境問題への取り組み	財団法人電力中央研究所 環境科学研究所 上席研究員 速水 洋氏
平成23年	平成24年 1月20日	①千葉県の環境放射能について	千葉県環境研究センター 大気騒音振動研究室 主席研究員 井上 智博氏
		②土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン改訂について	社団法人土壌環境センター 嘱託研究員 深田 園子氏
平成24年	平成25年 1月18日	①水質汚濁防止法改正の状況	千葉県環境生活部 水質保全課 副技監(兼)水質指導室長 生駒 昌弘氏
		②胆管がん問題を例にした化学物質のリスクアセスメント	社団法人 日本作業環境測定協会 京葉支部長 津上 昌平氏
平成25年	平成26年 1月17日	①千葉県の大気環境行政の状況	千葉県環境生活部 大気保全課 大気規制班 班長 江畑 嘉臣氏
		②仏教から学ぶ経営と営業	浄土真宗本願寺派布教使 赤川 浄友氏
平成26年	平成27年 1月23日	①千葉県特定自動車部品のヤード内保管等の適正化に関する条例について	千葉県環境生活部 廃棄物指導課 副課長(ヤード・残土対策) 岩崎 進氏
		②「環境計量証明事業者の現状と課題」～平成25年度(日環協)実態調査報告書より～	一般社団法人 日本環境測定分析協会 副会長 津上 昌平氏
平成27年	平成28年 1月22日	①千葉県の水環境－水質保全の取り組みと水環境調査－	千葉県環境研究センター 廃棄物・化学物質研究室 藤村 葉子氏
		②ラジコン電動マルチコプターによる環境計測	国立大学法人 千葉大学 環境リモートセンシング 研究センター 教授 近藤 昭彦氏

注) 昭和55年度より新春賀詞交歓会(昭和56年1月28日)が開催されています。新春講演会としては、昭和62年度からの記録ですが、講演会としては技術講演会実績にも示したように、昭和54・61年度で11回開催されています。

8. 経営問題懇談会実績

(経営・業務委員会)

第回	年度・年月日	活動実績
1	昭和 62 年度 昭和 63. 3. 23	各会社相互間の信頼関係をより深くして、それぞれの問題点を出し合い協会の活発な活動に結びつける事を主旨として発足。会合名を「経営懇談会」とする。
2	昭和 63 年度 昭和 63. 10. 7	「企業経営分析」をテーマに懇談 講師：(株)住化分析センター 吉岡 真史
3	平成元年度 平成 2. 2. 26	①「消費税に関する問題点」 導入後の影響並びに受注関連と社内対応について ②人材募集・確保 その現状と対策について
4	平成 2 年度 平成 3. 2. 6	教育・ローテーション・資格者確保・育成 環境計量士の資格者の育成 業務関連資格者確保の方策
5	平成 3 年度 平成 4. 2. 14	人材育成の一貫としての「考課・評定・査定」についてフリーディスカッションによる討論・意見交換。
6	平成 4 年度 平成 5. 2. 20	①検査・分析における人材確保と人材育成 (1) 人材不足の実態と人材確保 (2) 人材育成 ②検査・分析機器の高度化について (1) 現有機器の採算性 (2) 機器の高度化について等 最近の市場動向、環境計量における事業展開に対する意見交換。
7	平成 5 年度 平成 6. 2. 18	千環協案内の配布担当グループの名称、活動の在り方等討論。 今後、顧客ニーズの吸い上げ、市場調査をして千環協の運営に反映。 新計量法に基づく事業規程等情報交換。 本年度から調査開発 WG 発足。 発足準備委員会 (6 月)、第 1 回 (7 月) 第 2 回 (9 月) 第 3 回 (11 月)。 テーマ選定：「顧客への最新技術情報の提供」「顧客ニーズ調査」。

8	平成6年度 平成 7. 2. 20	「部下の動機付け」「部下とのコミュニケーション」のビデオ放映 後討論。 調査開発 WG 「最新の環境情報」をニュース第 42 号、43 号、45 号に掲載 「顧客ニーズ調査」アンケート調査実施 ニュース第 44 号に掲載
9	平成7年度 平成 8. 2. 28	「環境測定における安全性」をテーマに東京都下水道局森ヶ崎水処 理センター南部スラッジプラント 山田様より講演
10	平成8年度 平成 9. 2. 26	経営問題懇談会 千葉勤労市民プラザ 講演：計量証明事業所における「ISO9000, ISO14000」の 概要とその取り組みについて 講師：日本照射サービス(株)常務取締役 高橋富男様
11	平成9年度 平成 9. 6. 27 平成 9. 10. 28 平成 10. 2. 16	調査開発 W/G 環境技術関連情報編集等会議 調査開発 W/G 廃棄情報技術センター訪問取材 経営問題懇談会 ちば共済会館 参加者：23 社、会員 30 名 他県単 3 社、4 名 講演：「経営責任者の為の ISO9000」 講師：川合 敏弘氏（日本検査キューエイ(株)理事審査員）
12	平成10年度 平成 10. 6. 30 平成 10. 7. 16 平成 10. 10. 21	調査開発 W/G 本年度活動計画等検討 経営問題懇談会 新任者教育 会員 22 名（於：プラザ菜の花） 講演：「新任者教育講座」（日環協と共催） 講師：神野 基行（(株)住化分析センター） 岡野 隆志氏（川鉄テクノリサーチ（株）） 北村 哲氏（（社）日本環境測定分析協会） 調査開発 W/G 出光興産（株）石炭研究所訪問取材

13	<p>平成 11 年度 平成 11. 7. 28</p> <p>平成 11. 11. 8</p>	<p>経営問題懇談会 新任者教育 会員 35 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協と共催) 講師：飯島 公勇 (キッコーマン(株)) 岡野 隆志氏 (川鉄テクノリサーチ (株)) 北村 哲氏 ((社) 日本環境測定分析協会) 調査開発 W/G 東京電力 (株) 技術開発センター訪問取材</p>
14	<p>平成 12 年度 平成 12. 7. 11</p> <p>平成 12. 9. 29</p>	<p>新任者教育 会員 21 名 (於：プラザ菜の花) 講師：津上 昌平氏 (習和産業 (株)) 岡野 隆志氏 (川鉄テクノリサーチ (株)) 調査開発 W/G 川崎製鉄訪問取材</p>
15	<p>平成 13 年度 平成 13. 7. 19</p> <p>平成 13. 9. 21</p>	<p>新任者教育 会員 30 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協と共催) 講師：津上 昌平氏 (習和産業 (株)) 岡野 隆志氏 (川鉄テクノリサーチ (株)) 北村 哲氏 ((社) 日本環境測定分析協会) 調査開発 W/G (財) 千葉県工業技術振興センター東葛テクノプラザ訪問</p>
16	<p>平成 14 年度 平成 14. 7. 3</p> <p>平成 14. 9. 21</p>	<p>新任者教育 会員 20 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協と共催) 講師：岡野 隆志氏 (川鉄テクノリサーチ (株)) 北村 哲氏 ((社) 日本環境測定分析協会) 調査開発 WG 事業所訪問 独立行政法人 国立環境研究所 参加者 12 名</p>
17	<p>平成 15 年度 平成 15. 7. 3</p> <p>平成 16. 2. 13</p>	<p>新任者教育 会員 12 社、会員 20 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協と共催) 講師：岡野 隆志氏 (川鉄テクノリサーチ (株)) 北村 哲氏 ((社) 日本環境測定分析協会) 経営者交流会 JFE みやざき倶楽部 参加者：15 社、20 名</p>

18	<p>平成 16 年度 平成 16. 7. 9</p> <p>平成 17. 2. 4</p>	<p>新任者教育 会員 22 社、会員 31 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協関東支部と共催) 講師：岡野 隆志氏(川鉄テクノリサーチ(株)) 北村 哲氏((社) 日本環境測定分析協会) 経営者交流会 プラザ菜の花 参加者：14 社、15 名</p>
19	<p>平成 17 年度 平成 17. 7. 1</p> <p>平成 18. 3. 8.</p>	<p>新任者教育 会員 17 社、会員 33 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協関東支部と共催) 講師：岡野 隆志氏(JFE テクノリサーチ(株)) 北村 哲氏((社) 日本環境測定分析協会) 会員 PR 会 プラザ菜の花 参加者：14 社、15 名</p>
20	<p>平成 18 年度 平成 18. 7. 7.</p> <p>平成 19. 2. 23.</p>	<p>新任者教育 会員 17 社、会員 34 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「新任者教育講座」(日環協関東支部と共催) 講師：津上 昌平氏(千環協) 末松 清志氏(セレティールビュー) 交流懇談会 会員 13 社、会員 20 名、来賓 4 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「CSR やリスクマネジメントの動向を踏まえた土壤汚染対策等における環境計量証明事業の方向性」 講師：光成 美樹氏(みずほ情報総研株式会社)</p>
21	<p>平成 19 年度 平成 19. 5. 15.</p> <p>平成 19. 10. 23.</p>	<p>会員 20 社、人員 30 名、来賓 2 名 (於：プラザ菜の花) 計量検定所からの伝達事項として、平成 18 年度に実施された環境計量証明事業者立入り検査の結果について報告された。 交流懇談会 会員 12 社、会員 20 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「職場におけるメンタルヘルス(うつ病予防と復帰支援)」 講師：村越 登祐氏(日本産業カウンセラー協会関東支部)</p>

22	平成 20 年度 平成 21. 5. 16.	<p>合同委員会 会員 23 社、人員 32 名、来賓 2 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>計量検定所からの伝達事項として、平成 19 年度に実施された環境計量証明事業者立入り検査の結果について報告された。</p>
	平成 20. 10. 17.	<p>交流懇談会 会員 13 社、会員 15 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>経営・業務委員会で実施した協会活動についてのアンケートまとめについて報告、意見交換を行った。</p> <p>講演：「メンタルヘルス、生活習慣病に係る健康講話」 講師：山瀧 一氏 ((財)君津健康センター産業保険部長)</p>
23	平成 21 年度 平成 21. 5. 15.	<p>合同委員会 会員 20 社、人員 31 名、来賓 2 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>計量検定所からの伝達事項として、平成 20 年度に実施された環境計量証明事業者立入り検査の結果について報告された。</p>
	平成 21. 10. 2	<p>経営者セミナー 参加者：12 社、人員 15 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>講演：「新型インフルエンザは実際に大流行を起こすか??」 講師：赤松 隆氏 (太平洋セメント (株) 産業医)</p>
24	平成 22 年度 平成 22. 5. 13.	<p>合同委員会 会員 23 社、人員 30 名、来賓 1 名 (於：プラザ菜の花)</p>
	平成 22. 7. 5	<p>低価格入札に関するアンケート実施 (対象 63 事業所)</p>

25	<p>平成 23 年度 平成 23. 5. 20.</p> <p>平成 23. 7. 25.</p> <p>平成 23. 11. 14.</p> <p>平成 23. 11. 24. 平成 24. 1. 30.</p>	<p>合同委員会 会員 29 社、人員 30 名、来賓 3 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>分析単価（物価書籍）に関するアンケートを実施</p> <p>放射線・放射能測定・分析に関するアンケートを実施</p> <p>「環境計量に係る入札制度の改善要望書及び関連資料」を千葉県環境生活部に提出。</p>
26	<p>平成 24 年度 平成 24. 5. 18.</p> <p>平成 24. 7. 23.</p> <p>平成 24. 11. 30.</p>	<p>合同委員会 会員 21 社、人員 27 名、顧問 1 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>入札に関するアンケート（首都圏）実施 結果を各会員に配布するとともに、新春講演会にて報告。</p> <p>事業所訪問 副会長 1 名、経営・企画委員 4 名 訪問先 環境管理センター 東関東支社</p>
27	<p>平成 25 年度 平成 25. 5. 17.</p> <p>平成 25. 5. 17.</p>	<p>合同委員会 会員 21 社、人員 28 名、顧問 1 名 (於：プラザ菜の花)</p> <p>経営者・中堅社員向けセミナー 会員 14 社、会員 25 名、顧問 1 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「現代の管理職の在り方、相手を伸ばすコーチング技術」 講師：藤田 潮(うしほ)氏 (and Cs 代表)</p>

28	<p>平成 26 年度 平成 26. 5. 23.</p> <p>平成 26. 5. 23.</p>	<p>合同委員会 会員 24 社、人員 26 名、来賓 2 名、顧問 1 名 (於：プラザ菜の花) 千葉県計量検定所より「平成 25 年度環境計量事業者立入検査」結果ならびに「平成 26 年度環境計量事業者立入検査」の予定について連絡があった。</p> <p>経営者・中堅社員向けセミナー 会員 12 社、会員 22 名、顧問 1 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「うつの早期発見と予防」 講師：千葉 浩彦氏 (淑徳大学総合福祉学部教授)</p>
29	<p>平成 27 年度 平成 27. 5. 29.</p>	<p>合同委員会 会員 31 社、人員 39 名、顧問 1 名 (於：プラザ菜の花)</p>
30	<p>平成 28 年度 平成 28. 5. 27.</p>	<p>経営者・中堅社員向けセミナー 会員 9 社、会員 13 名 (於：プラザ菜の花) 講演：「ファシリテーションとは？」 講師：桜井 淳 氏 (株湘南セールスプロモーション代表)</p>

9. ソフトボール大会・ゴルフ大会・ボウリング大会

(総務委員会)

ソフトボール大会

第回	年月日	場 所	優 勝
1	57年度	不明	不明
2	58年度	不明	不明
3	59年度	不明	不明
4	60年度	不明	不明
5	62.9-10 63.4.17	各地区予選 住化グラウンド(決勝戦)	(株)住化分析センター
6	63.11.20	住化グラウンド	(株)新日化環境エンジニアリング
7	元.12.9	八千代市総合運動公園	(株)新日化環境エンジニアリング
8	2.9.23	住化グラウンド	川鉄テクノロジーサーチ(株)
9	3.9.29	出光千葉製油所サッカー場	(株)新日化環境エンジニアリング
10	4.9.20	出光千葉製油所サッカー場	(株)新日化環境エンジニアリング
11	5.9.19	出光 千葉精油所グラウンド	川鉄テクノロジーサーチ(株)
12	6.9.18	セイコー谷津プラザ	川鉄テクノロジーサーチ(株)
13	7.10.22	セイコー谷津スポーツプラザ	(株)住化分析センター
14	8.10.6	稲毛海浜スポーツ施設	(株)新日化環境エンジニアリング
15	9.11.9	川崎製鐵(株)健保グラウンド	(株)新日化環境エンジニアリング
16	10.11.22	川崎製鐵(株)健保グラウンド	川鉄テクノロジーサーチ(株)
17	11.11.13	川崎製鐵(株)健保グラウンド	(株)新日化環境エンジニアリング
18	12.11.19	川崎製鐵(株)健保グラウンド	(株)環境管理センター
19	13.11.17	川崎製鐵(株)健保グラウンド	川鉄テクノロジーサーチ(株)
20	14.11.17	川崎製鐵(株)健保グラウンド	川鉄テクノロジーサーチ(株)
21	15.11.16	JFEスチール(株)健保グラウンド	(株)新日化環境エンジニアリング
22	17.11.27	JFEスチール(株)健保グラウンド	JFEテクノロジーサーチ(株)
23	19.9.29	稲毛海浜スポーツ施設	(株)上総環境調査センター
24	21.10.24	稲毛海浜スポーツ施設	日鉄環境エンジニアリング(株)
25	22.10.23	稲毛海浜スポーツ施設	(株)上総環境調査センター
26	23.10.22	幕張西運動広場	JFEテクノロジーサーチ(株)
27	24.11.10	稲毛海浜スポーツ施設	ユーロフィン日本環境(株)
28	25.10.19	幕張西運動広場	(株)上総環境調査センター
29	26.11.8	幕張西運動広場	日鉄住金環境(株)
30	27.7.11	稲毛海浜スポーツ施設	(株)上総環境調査センター

ゴルフ大会

第回	年月日	場 所	優勝者(社名)
	62.5.28	鶴舞カントリークラブ	猿渡素矩氏(房総ファイン(株))
	63.6.9	太平洋クラブ市原コース	猿渡素矩氏(房総ファイン(株))
	63.10.18	本千葉カントリークラブ	今西克司氏(ヨシザワ LA(株))
11	2.5.23	泉カントリークラブ	菅谷光夫氏 ((株)ダイワ)
12	2.11.2	鶴舞カントリークラブ	山本吉彦氏
13	3.6.7	本千葉カントリークラブ	本田優氏(住友セメント(株))
14	3.11.8	泉カントリークラブ	富田陽美氏(房総ファイン(株))
15	4.6.12	太平洋クラブ市原コース	鈴木郁夫氏(ヨシザワ LA(株))
16	不明	不明	不明
17	5.5.28	泉カントリークラブ	神野基行氏((株)住化分析センター)
18	不明	不明	不明
19	6.5.26	本千葉カントリークラブ	高野不二男氏(セイコーアイ・テクノロジー(株))
20	6.11.18	CPG カントリークラブ	高橋直行氏(環境管理センター(株))
21	7.5.25	太平洋クラブ市原コース	後藤一郎氏(環境管理センター(株))
22	7.11.16	千葉新日本ゴルフ倶楽部	飯島公勇氏(キッコーマン(株))
23	8.5.22	鶴舞カントリークラブ	石澤善博氏(日本軽金属(株))
24	8.11.7	市原ゴルフクラブ	名取昭平氏(セイコーアイ・テクノロジー(株))
25	9.5.16	姉ヶ崎カントリークラブ	重永清俊氏(出光興産(株))
26	9.10.17	皆吉台カントリークラブ	北村誠氏(出光興産(株))
27	10.5.15	ザ・カントリークラブ・ジャパン	神野基行氏((株)住化分析センター)
28	10.10.23	東京湾カントリークラブ	北村誠氏(出光興産(株))
29	11.5.14	八房ゴルフ倶楽部	藤谷光男氏(中外テクノス(株))
30	11.10.15	ニュー南総ゴルフ倶楽部	宮本敦夫氏((株)環境エンジニアリング)
31	12.5.16	市原ゴルフクラブ・柿の木台コース	石澤善博氏(日本軽金属(株))
32	12.10.20	真名カントリークラブ	守久雄氏(環境エンジニアリング(株))
33	13.6.1	米原カントリークラブ	遠藤正和氏(出光興産(株))
34	13.11.22	姉ヶ崎カントリー倶楽部	菅谷光夫氏((株)ダイワ)
35	14.5.24	ニュー南総ゴルフ倶楽部	宮澤康弘氏((株)ダイワ)
36	14.11.22	ザ・カントリークラブ・ジャパン	萩尾征雄氏((株)ハイメック)
37	15.5.30	ニュー南総ゴルフ倶楽部	神野基行氏((株)住化分析センター)
38	15.10.22	千葉夷隅ゴルフクラブ	神野基行氏((株)住化分析センター)
39	16.5.21	市原ゴルフクラブ	飯塚嘉久氏((株)ユーベック)
40	16.10.22	大多喜カントリークラブ	石澤善博氏(日本軽金属(株))
41	17.5.20	房総カントリークラブ房総ゴルフ場	石澤善博氏(日本軽金属(株))
42	17.10.28	房総カントリークラブ房総ゴルフ場	宮本敦夫氏(日本環境(株))
43	18.6.3	千葉桜の里ゴルフクラブ	伊藤裕一氏((株)ダイワ)
44	19.6.2	千葉桜の里ゴルフクラブ	青木鉄雄氏((株)環境管理センター)

45	19.12.1	成田フェアフィールドゴルフクラブ	鈴木広美氏(日本環境(株))
46	20.6.7	神崎カントリー倶楽部	青木鉄雄氏(株環境管理センター)
47	20.12.6	イーグルレイク ゴルフクラブ	安田喜孝氏(習和産業(株))
48	21.6.20	成田東カントリークラブ	伊藤裕一氏(株ダイワ)
49	22.6.5	芝山ゴルフ倶楽部	鈴木広美氏(日本環境(株))
50(終)	24.7.28	セントラルゴルフクラブ	宮本敦夫氏(日本環境(株))

注)20周年記念誌によると第11回以前では、平成元年度は開催記録がなく、昭和62-63年度に3回開催の記録がありますが、それぞれ第何回かは不明です。さらに、それ以前では、10周年記念誌でも記録がありません。また、平成4年度の第16回と平成5年度の第18回についてもニュース等にも記録がありません。

注:2)ゴルフコンペ46回~47回の記録が不明です。

ボウリング大会

第回	年月日	場 所	優勝者(社名)
1	23.1.10	ラウンドワン 習志野	(株)太平洋コンサルタント
2	24.12.1	ラウンドワン 習志野	(株)環境管理センター
3	25.7.6	ラウンドワン 習志野	(株)環境管理センター
4	26.8.30	VEGA アサヒボウリングセンター	(株)太平洋コンサルタント

千環協について

1. 千葉県環境計量協会について

(略称:千環協)

I 設立趣旨

本会は、環境計量に関する技術の向上と、適正な環境計量の実施を確保することを目的として各種事業を実施し、併せて関係諸機関との連携を密にしつつ、千葉県の公害対策並びに環境保全に寄与することを目的として設立された団体であります。

II 設立及び構成

昭和 51 年 6 月 25 日に設立され、千葉県知事に環境計量証明事業の登録をした 7 事業所により発足、構成会員は平成 28 年 10 月現在、正会員 46 事業所、賛助会員 8 事業所となっております。

III 事業内容

当協会は、主として次の事業を実施しておりますが、その活動方法は全会員が五つの委員会のいずれかに所属し、全員参加ですすめております。

1. 総務委員会

(1) 会員従業員を含むレクリエーション行事の開催

2. 経営・業務委員会

(1) 会員ガイドの発行（会員事業所毎の人員、設備・証明分野・業務実績の紹介）

(2) 会員の事業実態の把握とまとめ

(3) 人材育成、組織の活性化等、経営に関する諸問題の検討

(4) 先端研究所等、事業所訪問による紹介

3. 技術委員会

(1) クロスチェック分析の実施

(2) 定量限界値の統一等の研究

(3) 計量機器管理の検討

(4) 技術研究発表会の開催

4. 教育・企画委員会

(1) 研修見学会、講演会の開催

(2) 実務者技術フォーラムの開催

(3) 新任者教育の実施

5. 広報・情報委員会

(1) 会報の発行

(2) 各種情報の提供

(3) ホームページ情報管理

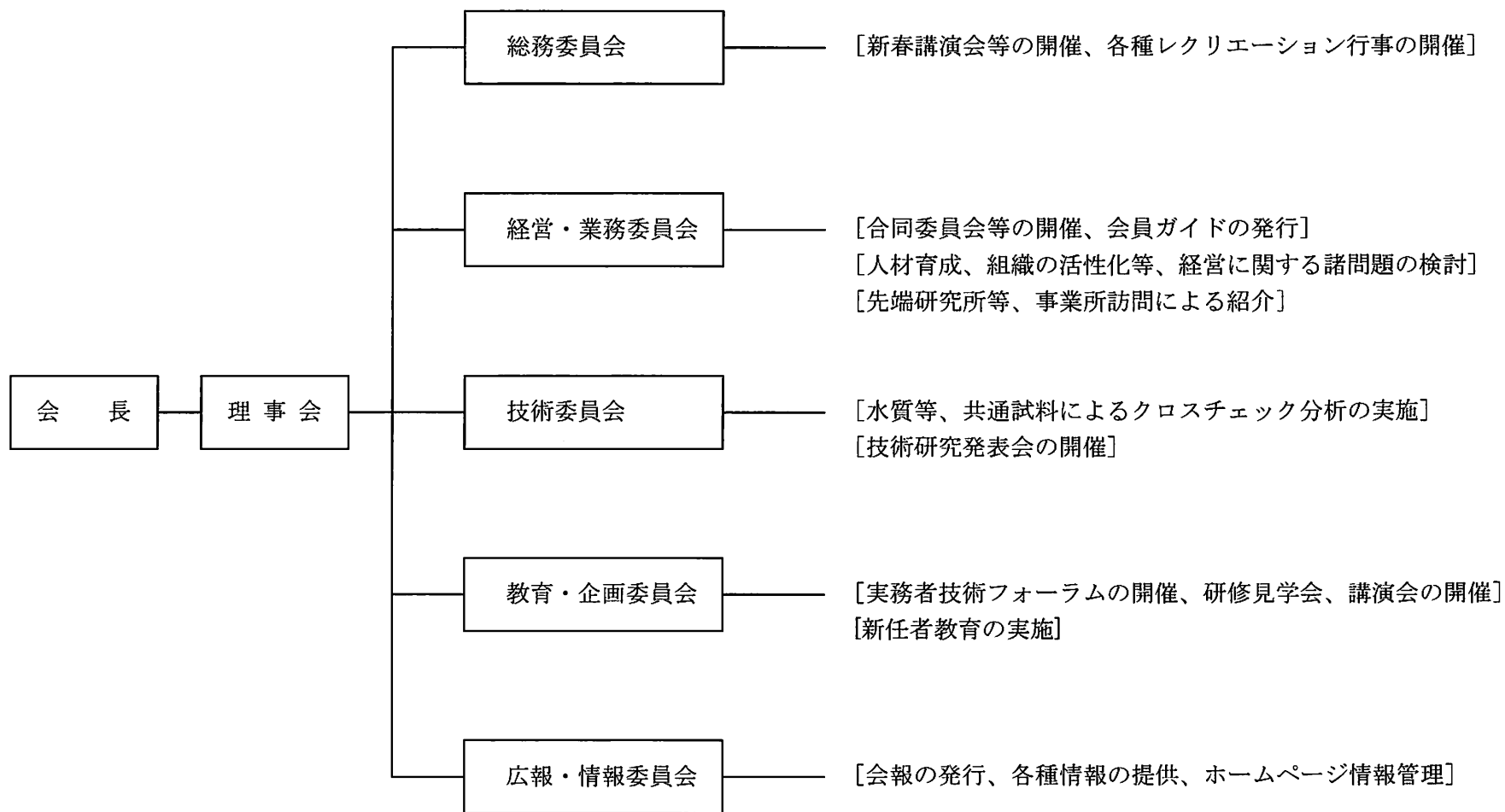
IV 中央団体との関係

一般社団法人日本環境測定分析協会、並びに一般社団法人千葉県計量協会に加入、共催事業を実施するほか、各種事業に参加、及び新技術の情報提供を受けております。

また、近隣協議会（東京・神奈川・埼玉）とは、首都圏環境計量協議会連絡会を組織し、各種事業に参画しております。

2. 千葉県環境計量協会の組織及び事業活動

(略称：千環協)



3. 千葉県環境計量協会規約

第1章 総則

(目的)

第1条 本会は環境計量に関する技術の向上と、会員相互の親和と協調に努め、かつ関係諸機関との連携を密にし、環境計量証明事業の正しい発展を図ることを目的とする。

(名称)

第2条 本会は千葉県環境計量協会と称する。

(事務所)

第3条 本会は事務所を千葉県内におき、所要の職員をおくことができる。

(事業)

第4条 本会は第1条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 環境計量証明事業の進歩改善に関する事
- (2) 環境計量技術の向上に関する事
- (3) 環境計量に関する教育・訓練・指導に関する事
- (4) 環境計量に関する情報、資料を収集し提供すること
- (5) 官公庁及び関連団体との連絡協調をはかること
- (6) その他目的を達成するために必要な事項

(会員)

第5条 本会の会員は、正会員、賛助会員により構成する。

2. 正会員は千葉県に登録した濃度、音圧レベル、振動加速度レベルに係る計量証明事業者で、本会の趣旨に賛同する法人とする。
3. 賛助会員は、前項以外で本会の目的、事業に賛同する法人とする。

(入会)

第6条 入会を希望するものは、所定の申込書を本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

(退会)

第7条 会員が本会を退会しようとするときは、事前に文書をもって本会に届け出なければならない。

2. 会員が次の事由のいずれかに該当する場合は、理事会の決定により本会を退会するものとする。
 - (1) 本会の目的に反する行為をしたとき
 - (2) 著しく本会の名誉を毀損したとき
 - (3) 著しく会費を滞納したとき

(入会金及び会費)

第8条 会員は、別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

第2章 役員

(役員)

第9条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名以内
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 2名

(役員を選出)

第10条 理事及び監事は総会において正会員中より選出する。

(役員職務)

第11条 会長は会を代表して会の業務を統括する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
3. 理事は業務の円滑な運営にあたる。
4. 監事は会計を監査する。

(役員任期)

第12条 役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

2. 役員に欠員が生じたときはこれを補充するものとし、補充によって選出された役員任期は前任者の残任期間とする。

(顧問)

第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会において推薦したものを会長が委嘱する。

2. 顧問は本会の運営又は事業会務につき、会長の諮問に応じる。
3. 顧問の任期は、役員任期に準ずる。

第3章 会議

(会議)

第14条 会議は総会及び理事会とする。また必要に応じて専門委員会を設けることができる。

(総会の開催)

第15条 総会は通常総会と臨時総会とし、通常総会は毎年1回以上開催する。臨時総会は会長が必要と認めたとき開催する。ただし会員の3分の1以上から要請があった場合は総会を開催しなければならない。

(総会の成立)

第16条 総会は正会員の2分の1以上の出席により成立する。ただし委任状を提出したものは出席者とみなす。

第17条 総会の議事は出席正会員の過半数で決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

(議長)

第18条 総会の議長は会長がこれにあたる。

(総会の議決事項)

第19条 総会は次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支決算
- (2) 事業報告及び収支決算
- (3) 規約の変更
- (4) その他理事会において必要と認めた事項

(理事会の開催と議事)

第20条 理事会は会長が必要と認めるときに開催し、規約に定めてある事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関すること
 - (2) 総会に付議すべきこと
 - (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること
2. 理事会は理事の2分の1以上の出席により成立する。
 3. 理事会の議事は出席理事の過半数で決する。
 4. 理事会の議長は会長がこれにあたる。

第4章 資産会計等

(経費)

第21条 本会の経費は会費その他の収支をもって充当する。

2. 入会金、会費については理事会の議を経て総会で決定する。また必要のある場合は臨時会費を徴収することができる。既納の入会金、会費は返戻しない。

(資産の管理)

第22条 本会の資産の管理及び運用に関して必要な事項は理事会において別に定める。

(事業年度)

第23条 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(予算及び決算)

第24条 本会の収支予算及び決算は理事会の同意を得て会長が作成し、決算については監事の監査を受けた後、ともに総会の決議を得なければならない。

第 5 章 雑 則

(解 散)

第25条 本会は理事の3分の2以上の同意を得、総会において正会員の3分の2以上の賛成により決議した場合は解散する。

(施行細則)

第26条 この規約の施行についての細則は理事会において別に定める。

附 則

この規約の改正は平成19年4月21日から施行する。

4. 現理事及び歴代理事



会長
野口 康成
(株)太平洋コンサルタント



副会長
山本 重俊
(株)環境管理センター



副会長
福田 茂晴
東京パワーテクノロジー(株)



総務委員長
川口 弘樹
中外テクノス(株)



経営・業務委員長
鈴木 健治
月島機械(株)



教育・企画委員長
箭内 朋子
日鉄住金環境(株)



技術委員長
大井 裕之
(株)ユーベック



広報・情報委員長
田中 亮
イカリ消毒(株)



顧問
岡崎 成美

歴代理事

任 期	会 長	副 会 長	理 事	幹 事
昭和 51 年～ 昭和 53 年	前 沢 辰 雄	森 本 長 正 永 山 端 男	松 尾 大 巴 遠 藤 正 弘 後 藤 一 郎	山 本 和 弘
昭和 54 年～ 昭和 55 年	前 沢 辰 雄	栗 山 晃 太 郎	後 藤 一 郎 佐々木 勇 永 山 端 男 赤 津 一 衛 久 末 浩 猿 渡 素 炬	森 本 長 正 浜 田 康 雄
昭和 56 年	栗 山 晃 太 郎	後 藤 一 郎 永 山 端 男	前 沢 辰 雄 猿 渡 素 炬 和 田 重 美 上 野 良 一	森 本 長 正 浜 田 康 雄
昭和 57 年	栗 山 晃 太 郎	後 藤 一 郎 永 山 端 男	前 沢 辰 雄 猿 渡 素 炬 藤 平 康 万 須磨崎 一 治	森 本 長 正 浜 田 康 雄
昭和 58 年～ 昭和 59 年	栗 山 晃 太 郎	藤 平 康 万 須磨崎 一 治	後 藤 一 郎 森 永 幸 吉 宮 本 肇 作 大 坪 光	永 山 端 男 堀 井 修 一
昭和 60 年	藤 平 康 万	後 藤 一 郎 竹 内 五 郎	尾 花 貞 美 平 野 保 昭 宮 本 肇 則 小 谷 幸	永 山 端 男 下 野 輝 美
昭和 61 年	後 藤 一 郎	茂 木 義 資 鈴 木 幸 夫	尾 花 貞 美 平 野 保 昭 宮 本 肇 則 小 谷 幸 勝 村 石 勝 良	永 山 端 男 下 野 輝 美

任 期	会 長	副 会 長	理 事	幹 事
昭和 62 年～ 昭和 63 年	後 藤 一 郎	茂 木 義 資 小 谷 幸 則 松 友 信 寿	村 石 勝 良 永 山 端 男 下 野 輝 美 近 藤 喜 代 太	山 本 吉 彦 尾 花 貞 美
平成元年	後 藤 一 郎	茂 木 義 資 小 谷 幸 則	永 岡 山 端 男 下 崎 成 美 村 野 輝 美 石 勝 良	山 本 吉 彦 尾 花 貞 美
平成 2 年	後 藤 一 郎	茂 木 義 資 加 藤 元 彦	永 岡 山 端 男 中 崎 成 美 名 村 昭 平 取 昭 平	山 本 吉 彦 尾 花 貞 美
平成 3 年	茂 木 義 資	加 藤 元 彦 永 山 端 男	岡 崎 成 美 中 村 昭 平 山 内 英 二	山 本 吉 彦 尾 花 貞 美
平成 4 年	加 藤 元 彦	北 原 成 之 永 山 端 男	名 岡 取 昭 平 菅 崎 成 美 山 谷 光 夫 中 内 村 英 二	山 本 吉 彦 尾 花 貞 美
平成 5 年	加 藤 元 彦	北 原 成 之 中 村 豊	名 岡 取 昭 平 菅 崎 成 美 西 谷 光 夫 高 橋 直 徹 行	尾 花 貞 美 永 山 端 男
平成 6 年	中 村 豊	高 橋 直 行 北 原 成 之	名 岡 取 昭 平 菅 崎 成 美 佐々木 正 夫	安 川 準 一 林 美 代 子
平成 7 年	中 村 豊	高 橋 直 行 野 村 国 夫	名 菅 取 昭 平 菅 谷 光 夫 高 梨 正 夫 有 馬 富 之 平 野 安 之	安 川 準 一 林 美 代 子

任 期	会 長	副 会 長	理 事	幹 事
平成 8 年	中 村 豊	野 村 国 夫 名 取 昭 平	菅 谷 光 夫 大 北 秀 哲 山 田 鉄 昭 青 木 石 雄 小 石 想 一	林 釜 本 美代子 釜 本 信 弘
平成 9 年	名 取 昭 平	野 村 国 夫 岡 崎 成 美	菅 谷 光 夫 大 北 秀 哲 山 田 鉄 昭 青 木 文 二郎 福 田 文 二郎	川 釜 岸 本 決 男 釜 本 信 弘
平成 10 年	名 取 昭 平	野 村 国 夫 岡 崎 成 美	菅 大 富 青 藤 神 谷 北 田 木 谷 野 邦 鉄 光 基 昭 雄 男 行 哲 行 男 徹	川 釜 岸 本 決 男 釜 本 信 弘
平成 11 年	名 取 昭 平	野 村 国 夫 岡 青 木 鉄 雄	菅 大 神 藤 川 北 野 谷 村 基 光 哲 行 男 徹	川 釜 岸 本 決 男 釜 本 信 弘
平成 12 年～ 平成 13 年	名 取 昭 平	菅 谷 光 夫 岡 崎 成 美	田 中 孝 一 荒 牧 寿 弘 神 野 基 行 藤 谷 光 男 川 村 徹 哲 大 北	福 釜 田 本 文 二郎 釜 本 信 弘
平成 14 年	津 上 昌 平	藤 菅 谷 光 男 菅 谷 光 夫	内 野 洋 之 蛭 子 聡 川 村 徹 石 澤 善 博 田 中 孝 一 飯 島 公 男	福 釜 田 丸 山 文 二郎 釜 本 信 彦

任 期	会 長	副 会 長	理 事	幹 事
平成 15 年	津 上 昌 平	藤 谷 光 男 菅 谷 光 夫	内 野 洋 之 蛭 子 聡 石 澤 善 博 田 中 孝 一 飯 島 公 男 廣 野 耕 一	福 田 文 二 郎 丸 山 孝 彦
平成 16 年	津 上 昌 平	内 野 洋 之 菅 谷 光 夫	藤 谷 光 男 堀 内 達 雄 石 澤 善 博 田 中 孝 一 廣 野 耕 一 吉 本 優	福 田 文 二 郎 丸 山 孝 彦
平成 17 年	津 上 昌 平	内 野 洋 之 菅 谷 光 夫	藤 谷 光 男 堀 内 達 雄 石 澤 善 博 廣 野 耕 一 吉 本 優 村 上 雅 志	福 田 文 二 郎 丸 山 孝 彦
平成 18 年	津 上 昌 平	丸 田 俊 久 内 野 洋 之	藤 谷 光 男 石 澤 善 博 戸 邊 光 一 朗 村 上 高 行 吉 本 優	福 田 文 二 郎 丸 山 孝 彦
平成 19 年	津 上 昌 平	丸 田 俊 久 内 野 洋 之	藤 谷 光 男 石 澤 善 博 戸 邊 光 一 朗 村 上 高 行 吉 本 優	満 尾 勝 丸 山 孝 彦
平成 20 年	武 藤 敏 夫	内 野 洋 之 甘 崎 恭 徳	綾 田 隆 史 山 本 重 俊 榊 原 達 哉 村 上 高 行 荒 木 徹	望 月 正 丸 山 孝 彦

平成 21 年	武藤 敏夫	内野 洋之 甘崎 恭徳	綾田 隆史 山本 重俊 榑原 達哉 村上 高行 荒木 徹	望月 正 丸山 孝彦
平成 22 年	甘崎 恭徳	内野 洋之 久保田 律男	野口 康成 山本 重俊 榑原 達哉 飯塚 嘉久 倉富 俊雄	望月 正 丸山 孝彦
平成 23 年	甘崎 恭徳	内野 洋之 久保田 律男	野口 康成 山本 重俊 榑原 達哉 飯塚 嘉久 吉田 寧子	望月 正 丸山 孝彦
平成 24 年	甘崎 恭徳	内野 洋之 野口 康成	吉田 寧子 山本 重俊 榑原 達哉 飯塚 嘉久 吉野 昭仁	丸山 孝彦 岩瀬 和哉
平成 25 年	甘崎 恭徳	内野 洋之 野口 康成	吉田 寧子 山本 重俊 榑原 達哉 飯塚 嘉久 吉野 昭仁	岩瀬 和哉 石澤 善博
平成 26 年	野口 康成	内野 洋之 山本 重俊	鈴木 健治 川口 弘樹 福田 茂晴 大井 裕之 吉野 昭仁	岩瀬 和哉 石澤 善博
平成 27 年	野口 康成	内野 洋之 山本 重俊	鈴木 健治 川口 弘樹 福田 茂晴 大井 裕之 吉野 昭仁	平下 淳二 石澤 善博

千環協會會員名簿

会員名	所在地	担当者	事業区分						注)その他	
			濃度							
			大気	水質	土壌	特計	音圧	振動加速度		
アエスト環境(株) 代表取締役 三澤 剛	〒270-2221 松戸市紙敷1丁目30番地の2 Tel 047-389-6111 Fax 047-389-3366	三澤 剛	●	●	●					上
旭硝子(株) 千葉工場 工場長 上田 泰之 http://www.agc.com/	〒290-8566 市原市五井海岸10番地 Tel 0436-23-3149 Fax 0436-23-3126	CSR室 品質保証統括G 竹村 哲二	●	●	●					産
イカリ消毒(株) LC環境検査センター センター長 吉浪 誠 http://www.ikari.co.jp/	〒275-0024 習志野市茜浜1-5-10 Tel 047-452-6718 Fax 047-452-6720	環境分析グループ 田中 亮 ryo-tanaka@ikari.co.jp * 理事(広報・情報)	●	●	●					環上
(株)出光プラントック 千葉 代表取締役社長 長 英運 http://www.idemitsu.co.jp/factory/chiba/profilo/ip.html	〒299-0192 市原市姉崎海岸2番地1 Tel 0436-60-1734 Fax 0436-60-1902	事業一部試験課 栗源 秀典 hidenori.kurisawa@idemitsu.com	●	●						環試
(株)上総環境調査センター 代表取締役 浜田 康雄 post@kazusakankyo.co.jp http://www.kazusakankyo.co.jp/	〒292-0834 木更津市潮見4-16-2 Tel 0438-36-5001 Fax 0438-36-5073	三上 正 eigyuu@kazusakankyo.co.jp	●	●	●	●	●	●		産上 悪試 環作
(株)加藤建設 ジオテクノロジー事業部 技術部 部長代理 伊藤 浩邦 http://www.kato-kensetu.co.jp/	〒284-0001 四街道市大日字大作岡1097-7 Tel 043-304-2399 Fax 043-304-2665	ジオテクノロジー事業部 技術部 平山 千恵子 chi.hirayama@kato-kensetu.co.jp		●	●					試
(株)環境管理センター 東関東支社 執行役員支社長 堀 宏一郎 syamamoto@kankyo-kanri.co.jp http://www.kankyo-kanri.co.jp/	〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野5-44-3 Tel 043-300-3300 Fax 043-300-3312	技術営業部長 山本 直俊※ syamamoto@kankyo-kanri.co.jp * 理事 (副会長)	●	●	●	※	●	●		産上 悪試 環作 放射能
(株)環境コントロールセンター 本社 代表取締役 松尾 博之 info@e-c-c.co.jp	〒260-0806 千葉市中央区宮崎1-22-10 Tel 043-265-2261 Fax 043-261-0402	環境部 飛田 誠 mtobita@e-c-c.co.jp 永友 康浩 ynagatomo@e-c-c.co.jp	●	●						産上
(株)環境測定センター 代表取締役社長 小野 博利 onohi@kansoku.jp http://kansoku.jp	〒262-0023 千葉市花見川区検見川町3-316-25 Tel 043-274-1031 Fax 043-274-1032	鈴木 健一 onohi@kansoku.jp	●	●						
基礎地盤コンサルタンツ(株) 代表取締役 岩崎 公俊 noda.norihito@kiso.co.jp http://www.kiso.co.jp	〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原町 51 基礎地盤コンサルタンツ(株) Tel 043-298-6310 Fax 043-250-5219	野田 典広 090-9004-5774 noda.norihito@kiso.co.jp		●	●					試
(有)君津清掃設備工業 濃度計量証明事業所 取締役社長 松尾 昭憲 info@kss3194.co.jp http://www.kss3194.co.jp/	〒299-0236 袖ヶ浦市横田3954 Tel 0438-75-3194 Fax 0438-75-7029	遠藤 紀英 info@kss3194.co.jp		●						
(株)ケーオーエンジニアリング 代表取締役 小栗 勝 http://www.ko-e.co.jp/	〒277-0827 柏市松葉町2-11-10 Tel 04-7133-0142 Fax 04-7133-0131	第二営業部 小栗 隼人 koe@bb.wakwak.com	●	●			●	●		
(株)ケミコート 代表取締役社長 中川 完司 http://www.chemicoat.co.jp	〒283-0826 東金市丘山台1-14 Tel 0475-86-6512 Fax 0475-50-7800	技術開発部 代田 和宏 k-sirota@chemicoat.co.jp		●						
(株)建設技術研究所 東京本社 河川部 水質試験室長 永矢 貴之 nagaya@ctie.co.jp http://www.ctie.co.jp/index.html	〒278-0022 野田市山崎728-6 Tel 04-7121-2021 Fax 04-7121-2022	平田 治 o-hirata@ctie.co.jp		●	●					環試 上
公密計器サービス(株) 代表取締役 佐藤 政敏 kks-sato@w6.dion.ne.jp http://www.h2.dion.ne.jp/~kks-home/	〒290-0042 市原市出津7番地8 Tel 0436-21-4871 Fax 0436-22-1617	北沢 久和	●							
(株)合同資源 千葉事業所 代表取締役常務 千葉事業所長 山ノ井 敏夫	〒299-4333 長生郡長生村七井土1365 Tel 0475-32-1111 Fax 0475-32-1115	技術研究所 工藤 潤 j.kudou@godoshigen.co.jp	●	●	●					
(株)三遊試験センター 東部事業所 所長 松本 正文 matumotom@mes.co.jp http://www.mestrc.co.jp/	〒290-0067 市原市八幡海岸通1番地 Tel 0436-43-8931 Fax 0436-41-1256	化学環境分析グループ 田辺晋昭 tanabey@mes.co.jp	●	●	●		※	※		産試 作
JFEテクノロジー(株) 分析ソリューション本部 本部長 藤本 京子 chiba-com@jfe-tec.co.jp http://www.jfe-tec.co.jp/	〒260-0835 千葉市中央区川崎町1 Tel 043-262-4815 Fax 043-262-2199	分析部 井田 隆 i-ida@jfe-tec.co.jp *(監事)	●	●	●					産環 悪試 作
(株)ジオソフト 代表取締役 鈴木 民夫 info@geosoft.co.jp	〒281-0012 千葉市美浜区磯辺1-2-11 Tel 043-270-1261 Fax 043-270-1815	鈴木 民夫 info@geosoft.co.jp						●	●	環試
swing(株) 袖ヶ浦薬品事業所 所長 三山 義輝 http://www.swing-w.com/	〒299-0267 袖ヶ浦市中袖35 Tel 0438-63-8700 Fax 0438-60-1171	薬品技術センター 薬品技術二課 高橋 広治 takahashi.kohji@swing-w.com		●	●					産上 悪試

会員名	所在地	担当者	事業区分						注)その他	
			濃度					振動加 速度		
			大気	水質	土壌	特計	音圧			
(株)杉田製線 市川工場 代表取締役社長 杉田 光一 s-kimura@sugitawire.co.jp http://www.sugitawire.co.jp/	〒272-0002 市川市二俣新町17番地 Tel 047-327-4517 Fax 047-328-6260	化成品グループ 木村 成夫 s-kimura@sugitawire.co.jp		●	●					産
(株)太平洋コンサルタント 代表取締役社長 棚本 隆 takashi_tochigi@taiheiyo-c.co.jp http://www.taiheiyo-c.co.jp/	〒285-0802 佐倉市大作2-4-2 Tel 043-498-3890 Fax 043-498-3919	分析技術部長 長濱 剛 tsuyoshi_nagahama@taiheiyo-c.co.jp 品質試験部長 野口 康成* * 理事 (会長) Tel:043-498-3871 Fax:043-498-3887 Yasunari.Noguchi@taiheiyo-c.co.jp		●	●	●	●	※		産 試 作※
(株)ダイワ 千葉支店長 菅谷 光夫 m.sugaya@daiwa-eco.com http://daiwa-eco.com/	〒283-0062 東金市家徳238番地の3 Tel 0475-58-5221 Fax 0475-58-5415	菅谷 光夫 m.sugaya@daiwa-eco.com		●	●	●	※	※	※	産 上 懸 試 環 作
(株)千葉分析センター 代表取締役 周 照順 bunseki@chiba-bunseki.co.jp http://www.chiba-bunseki.co.jp	〒276-0045 八千代市大和田123番地6 Tel 047-455-3513 Fax 047-484-5340	末松 大司 bunseki@chiba-bunseki.co.jp		●	●	●				産 試
中外テクノス(株) 関東環境技術センター 所長 澁川 勝也 http://www.chugai-tec.co.jp/	〒267-0056 千葉市緑区大野台2-2-16 Tel 043-295-1101 Fax 043-295-1110	羽根 司 t.hane@chugai-tec.co.jp 川口 弘樹※ 理事(総務)		●	●	●	※	●	●	産 上 懸 試 環 作
(株)中研コンサルタント 船橋技術センター センター長 堀口 浩司 khoriguchi@ccc.soc.co.jp http://www.chuken.co.jp/	〒274-0053 船橋市豊高町585 Tel 047-457-3628 Fax 047-457-6284	材料部 分析評価グループ 秋山 達志 takiyama@ccc.soc.co.jp		●	●	●				試
月島機械(株) 開発本部 研究所 所長 佐藤 正則 ke_suzuki@tsk-g.co.jp http://www.tsk-g.co.jp/	〒272-0127 市川市塩浜1-12 Tel 047-359-1653 Fax 047-359-1663	研究所 分析グループ 鈴木 健治※ ke_suzuki@tsk-g.co.jp * 理事(経営・業務)		●	●	●				産 上 試
(株)東京化学分析センター 代表取締役社長 森本 薫子 info@tcac.co.jp http://www.tcac.co.jp/	〒290-0044 市原市玉前西2丁目1番地52 Tel 0436-21-1441 Fax 0436-21-5999	営業事務 鈴木 典子 suzuki123x@tcac.co.jp		●	●	●				産 上 懸 試
東京公害防止(株) 代表取締役社長 小野 次男	〒277-0863 柏市豊四季508-53 Tel 04-7174-6446 Fax 04-7174-4625	専務取締役 小野 真一 shinichi-ono@tkb.co.jp tkbakiba@m20.alpha-net.ne.jp		●	●	●				上 作 産 懸 試 環
東京パワーテクノロジー(株) 分析センター センター長 山崎 賢司 yamazaki-kenji@tokyo-pt.co.jp http://www.tokyo-pt.co.jp	〒267-0056 千葉市緑区大野台2-3-6 Tel 043-295-8405 Fax 043-295-8407	福田 茂晴※ fukuda-shigeharu@tokyo-pt.co.jp * 理事(副会長)		●	●	●		●	●	産 上 試 環 作
東洋テクノ(株) 代表取締役社長 久保田 隆 jiubaojianlong@gmail.com http://www.shokokai.or.jp/12/1240711000/index.htm	〒289-1516 山武市松尾町田越328-1 Tel 0479-86-6636 Fax 0479-86-6624	高江 幸子 jiubaojianlong@gmail.com		●	●	●				産 環 上 試
(株)永山環境科学研究所 代表取締役社長 永山 英樹 info@ngym.co.jp http://www.ngym.co.jp	〒273-0123 鎌ヶ谷市南初富1-8-36 Tel 047-445-7277 Fax 047-445-7280	永山 貴生 info@ngym.co.jp		●	●	●	●	●	●	産 上 懸 試 環 作
日廣産業(株) 環境技術センター 所長 藤本 匡 nikkosangyo@dream.com	〒260-0826 千葉市中央区新浜町1番地 Tel 043-266-1221 Fax 043-266-1220	松戸 康朗 nikkosangyo-chiba@gaea.ocn.ne.jp			●	●				
(株)日百分析センター 千葉事業所 所長 高嶋 一英 info@ncas.co.jp http://www.ncas.co.jp/	〒290-0045 市原市五井南海岸12-54 Tel 0436-23-2149 Fax 0436-23-4982	松本 仁志 info@ncas.co.jp		※	●	●				産 作 試
日鉄住金環境(株) 分析ソリューション事業本部 顧問 君津センター長 水内 千明 c.minochi@eco-tech.nssmc.com http://www.eco-tech.nssmc.com/index.php	(二) 〒292-0825 木更津市畑沢1-1-51 君津センター長 水内 千明 Tel 0438-36-5911 Fax 0438-36-5914 (赤) 〒292-0825 木更津市畑沢1-1-51 君津支店 Tel 0438-80-2855 Fax 0438-80-2860	君津支店営業部 安藤 淳 a.ando@eco-tech.nssmc.com 筋内 朋子※ * 理事(教育・企画)		●	●	●	※	※	※	産 懸 試 環 作
日鉄住金テクノロジー(株) 富津事業所 田中 富三男 http://www.nsst.nssmc.com	〒293-0011 富津市新富20-1 Tel 0439-80-2691 Fax 0439-80-2767	山本 祐輔 yamamoto-yusuke@nsst.jp 080-4602-3834		●	●	●	※	※	※	産 懸 試 環

千葉県環境計量協会会員名簿

会員名	所在地	担当者	事業区分						注)その他	
			大気	水質	土壌	特計	音圧	振動加速度		
(株)日本環境分析センター 代表取締役 岡田 智彦 n-kankyo@fancy.ocn.ne.jp http://www.c-hokken.com/nkbc/	〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原789-4 Tel 043-215-1441 Fax 043-215-1466	代表取締役 岡田 智彦 n-kankyo@fancy.ocn.ne.jp		●						
(株)日本公害管理センター 千葉支店 支店長 佐藤 考行 chiba@nkkc.co.jp http://www.l4.ocn.ne.jp/nkkc	〒286-0134 成田市東和田348-1 Tel 0476-24-3438 Fax 0476-24-2096	伊藤 裕一 itoh@nkkc.co.jp	※	※	※		●	●		産作
(株)日立産機ドライブ・ソリューションズ 代表取締役 服部 眞 http://www.hitachi-ies-ds.co.jp	(二) 〒275-0001 習志野市東習志野3-15-11 Tel 047-477-5300 Fax 047-477-6454 (赤) 〒275-0001 習志野市東習志野3-15-11 Tel 047-477-5098 Fax 047-477-5324	環境管理セン 部長代理 西村 欣也 nishimura-kinya@hitachi-ise.co.jp 主任 安田 喜孝 yasuda-yoshitaka@hitachi-ies.co.jp		●	●	●		●	●	産上悪 環境作
(株)日立プラントサービス 分析技術センター センター長 内宮 康成 http://www.hitachi-hps.co.jp/	〒271-0064 松戸市上本郷537 Tel 047-365-3840 Fax 047-367-6921	フロントグループ 堤 兼資郎 kenshiro.tsutsumi.vo@hitachi.com	●	●	●			●	●	悪上 試産作
公益社団法人船橋市清美公社 理事長 湯浅 勇	〒273-0016 船橋市潮見町16-7 Tel 047-431-3796 Fax 047-433-6788	分析センター 湯浅勇樹 y.yuasa@seibikosya-funabashi.com	●	●	●					
(株)古河電工アドバンスエンジニアリング 代表取締役社長 廣野 浩己 eigy@feae.co.jp http://www.furukawa.co.jp	〒290-8555 市原市八幡海岸通6番地 Tel 0436-42-1608 Fax 0436-42-1796	環境エンジニアリング課 中嶋 陽一 nakajima@feae.co.jp	●	●	●					作
(株)三井化学分析センター 市原事業所長 赤木 一生 http://www.mcanac.co.jp/	〒299-0108 市原市千種海岸3番地 Tel 0436-62-9490 Fax 0436-62-8294	化学分析C 近田 一幸 kazuyuki.konda@mitsui-chem.co.jp		●	●					試
(株)ユーベック 代表取締役社長 飯塚 嘉久 info@ubec.co.jp http://www.ubec.co.jp	〒292-0004 木更津市久津間613番地 Tel 0438-41-7878 Fax 0438-41-7876	技術部 大井 裕之※ info@ubec.co.jp * 理事(技術)	●	●	●			●	●	産上 悪作試
ライト工業(株) R&Dセンター センター長 高橋 修 http://www.raito.co.jp/	〒274-0071 船橋市習志野4-15-6 Tel 047-464-3611 Fax 047-464-3613	飯正 正俊 iimasa@raito.co.jp			●	●				
寒冷環境エンジニアリング(株) 取締役社長 丸山 孝彦 http://www.mitsubishielectric.co.jp/group/reec/	〒272-0127 市川市塩浜3丁目12番地 Tel 047-318-7001 Fax 047-318-7021	技術本部 保守点検 水質分析課 酒井 祐介 yusuke-sakai@melplant.co.jp			●					
(株)住化分析センター 千葉ラボラトリー 理事所長 木原 勇人	〒299-0266 袖ヶ浦市北袖2-1 Tel 0438-63-6920 Fax 0438-63-6921	千葉営業部 保坂 典男 (E-mail)	●	●	●	※	※	※		産 悪作 試
住友大阪セメント(株) セメント・コンクリート研究所 環境技術センター 所長 金井 謙介	〒274-8601 船橋市豊高町585 Tel 047-457-0751 Fax 047-457-7871	金井 謙介 (E-mail)			●	●		●		
ヨシザワLA(株) 環境分析センター 取締役社長 佐久本 明	〒277-0804 柏市新十条二丁目17-1 Tel 04-7131-4122 Fax 04-7131-4124	結城 清崇 (E-mail)		●	●					

注) 特計: 特定計量証明事業

産: 産業廃棄物分析

悪: 悪臭

※: 県外事業所登録

環: 環境アセスメント

作: 作業環境

上: 上水分析

試: 試験・研究・開発

(赤): 赤本(年1回発行の会員名簿)の担当 (二): 千葉協ニュース会員名簿の担当

※会員名簿は、一部 個人情報を含むものですが、事前に会員各社における担当個人情報取り扱いの了解のもと掲載しております。

(賛助会員)

会員名	所在地	担当者	事業区分						注)その他	
			大気	水質	土壌	特計	音圧	振動加速度		
(株)エヌサイト ソリューション事業部営業部 担当部長 石垣 高之 ishigaki@nsyt.co.jp http://www.nsy.co.jp/	〒221-0052 神奈川県横浜市神奈川区 栄町10-35 ポートサイドダイヤビル5F Tel 045-440-5960 Fax 045-440-5967	ソリューション事業部 営業部 神崎 陽一 kanzaki@nsyt.co.jp								
(有)ケーズオフィス 代表取締役 川添 公貴 mail@kz-office.co.jp http://www.kz-office.co.jp/	〒264-0025 千葉市若葉区都賀5-17-3 Tel 043-233-8967 Fax 043-233-8960	川添 公貴 mail@kz-office.co.jp								
(株)コスモス テクノソリューション事業部 事業部長 柴田 眞保子 shibata@cosmos-flw.co.jp http://www.cosmos-flw.co.jp/	〒260-0028 千葉市中央区新町18-14 千葉新町ビル7F Tel 043-248-2391 Fax 043-248-2071	柴田 眞保子 shibata@cosmos-flw.co.jp								

千葉県環境計量協会会員名簿

会 員 名	所 在 地	担 当 者	事 業 区 分						注)その他
			濃 度						
			大気	水質	土壌	特計	音圧	振動加 速度	
(株)東京科研 千葉営業所 所長 石井 龍一 ishii@tokyokaken.co.jp http://www.tokyokaken.co.jp	〒260-0842 千葉市中央区南町3-16-17 Tel 043-263-5431 Fax 043-263-5433	白根 雄太 shirane@tokyokaken.co.jp							
東京テクニカルサービス(株) 代表取締役 吉池 南 tokyo@tts-4u.co.jp http://www.tts-4u.co.jp	(赤)〒279-0022 浦安市今川4-12-38-1 Tel 047-354-5337 Fax 047-352-6637 Fax 03-5667-1084 (二)〒134-0088 東京都江戸川区 西葛西8-20-20 TEL 03-3688-3284 FAX 03-5667-1084	技術二部 藤井 雄造 tokyo@tts-4u.co.jp	※	※	※	※	※	※	産上 懸 試 験 作
ビーエルテック(株) 代表取締役 川本 和信 contact@bi-tec.co.jp http://www.bi-tec.co.jp	〒103-0011 東京都中央区日本橋 大伝馬町14-15 マツモトビル4F Tel:03-5847-0252 Fax:03-5847-0255	秋月 晃 akizuki@bi-tec.co.jp							
松田産業(株) 代表取締役 松田 芳明 http://www.matsuda-sangyo.co.jp/index.html	〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-2-5-8F Tel:03-3993-3301 Fax:03-3948-0024	ア-ハンパイル営業部 東京営業所 吉川 栄一 yoshikawa-e@matsuda-sangyo.co.jp							
ユーロフィン日本環境(株) 千葉営業所 所長 宮本 敏夫 atsuomiyamoto@eurofins.com http://www.eurofins.co.jp/	(赤)〒262-0031 千葉市花見川区武石町1-534-1 Tel 043(296)2272 Fax 043(296)2273 (二)〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-1-13 営業部ディレクター 木村 克年 TEL 045-780-3848 FAX 045-780-1285	営業部ディレクター 木村 克年 katsutoshikimura@eurofins.com	※	※	※	※	※	※	産上 懸 試 験 作

広 告

このたび当協会創立 40 周年にあたり、記念特集号の発行に際まして日ごろお世話になっております各社様より広告のご賛同を戴きました。

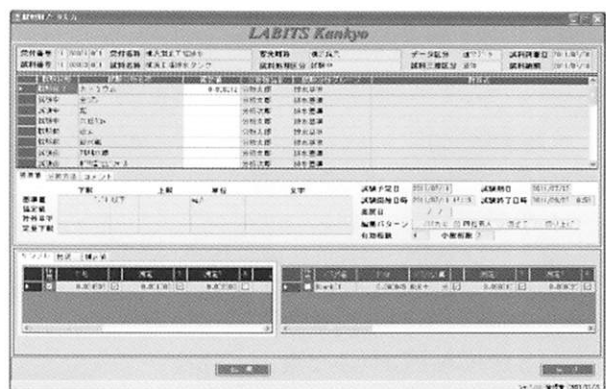
ここに、ご紹介いたしますとともにお礼申し上げます。

社 名 掲載ページ(順不同)

環境分析支援システム

LABITS kankyo

- ◎ 検査結果のキーボード入力、自動取込により、記入ミスを防止します。
- ◎ 計量証明書を効率よく作成します。
- ◎ 受付・検査状況、過去の検査結果などをすばやく検索できます。
- ◎ 運用に合わせたカスタマイズにも対応します。



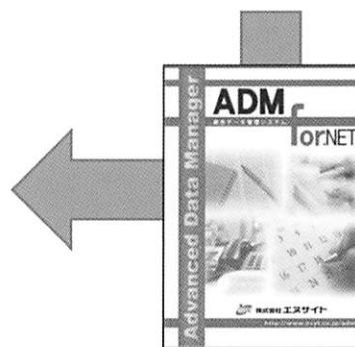
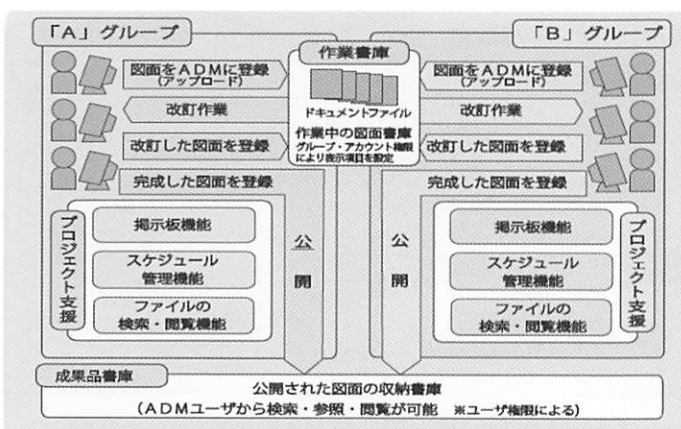
データ管理システムADM for .NETとの連携で計量証明事業における記録等の電子保存の運用基準（ガイドライン）にも対応！

見積書

野帳

計量
証明書

電子化（PDF）



お陰様で30周年

株式会社エヌサイト

ソリューション事業部 営業部

〒220-0052

横浜市神奈川区栄町10-35 ポートサイドダイヤビル5F

TEL 045-440-5966 FAX 045-440-5967

ビーエルテックの自動化学分析装置

SYNCA

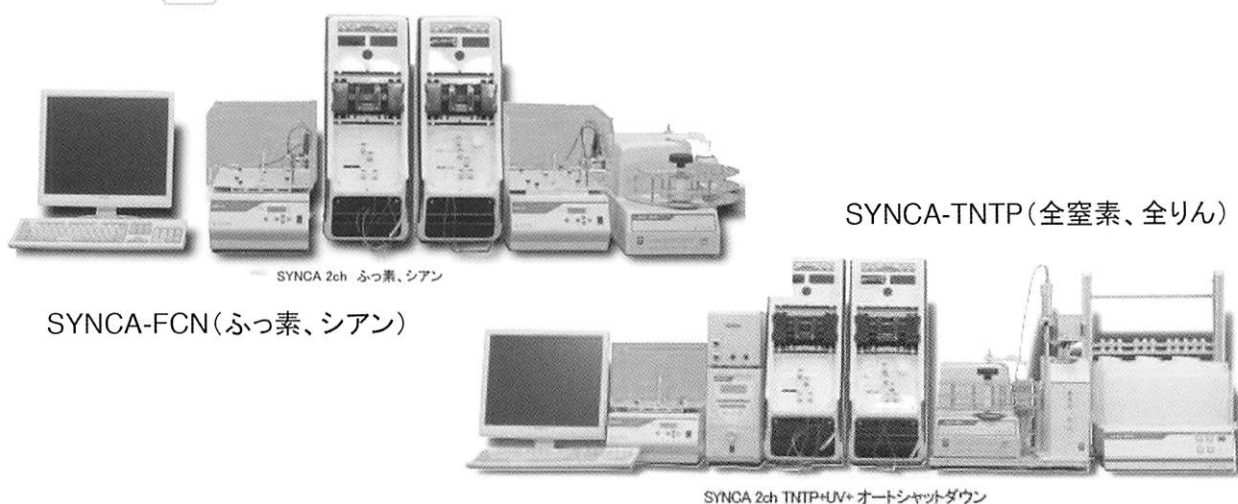
JISK0102、告示収載の連続流れ分析法(CFA)を採用

1時間に20検体以上の自動分析ができます！

排水及び土壌汚染対策のふっ素、シアン

環境水・地下水などの全窒素、全りん、栄養塩 など

SYNCAは、オートアナライザーの最新型で非常にコンパクトなシステムです。ほとんど全ての吸光光度法の項目の自動分析が可能になります。

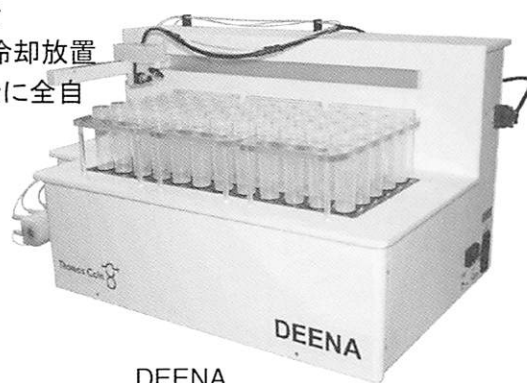


酸化分解加熱装置 DEENA

DEENAは、金属前処理をはじめとする、様々な分野の分析を自動化することの出来る装置です。試薬の添加、加温加熱、冷却放置、スパイクの添加からメスアップに至るまで、正確、迅速、安全に全自動で行う事が出来ます。

- 塩酸添加
- 硝酸添加
- 加熱分解
- 放冷
- メスアップ

自動処理



ビーエルテック株式会社 <http://www.bl-tec.co.jp>

本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル2F
TEL:06-6445-2332 FAX:06-6445-2437


東京本社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 マツモトビル4F
TEL:03-5847-0252 FAX:03-5847-0255

九州支店 〒811-3311 福岡市福津市宮司浜1-16-10サンガーデン宮司A棟101
TEL:0940-52-7770 ※FAXは本社へ

塩化銀・分析廃棄物のことなら、 松田産業にお任せ下さい！！

1. 塩化銀(COD分析)の買取

分析会社様




COD分析

塩化銀 (AgCl)


→

硝酸銀(液) (AgNO3)

松田産業(株)
武蔵工場



銀製造・販売



¥ 銀の買取


硝酸銀の販売 (試薬特級)

★弊社への委託のメリット★

- 銀量、銀相場に応じた買取
- 液状の硝酸銀でも買取可
- 硝酸銀試薬の販売 (塩化銀との相殺OK)
- 少量からでも買取可(1kg~)
- 全国対応可能

2. 各種分析工程より発生する廃棄物の適正処理

分析会社様

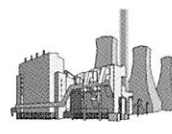


各種分析


→

廃棄物

・松田産業(株)
・協力会社



適正処理
リサイクル



分析廃液 廃試薬 分析機器
リサイクル

★弊社への委託のメリット★

- 廃棄物の適正処理・リサイクル
- 小口廃棄物の対応可 (少量でも低コスト提案可)
- 全国対応可能 (全国の産廃収運許認可を保有)
- 廃棄物の総合コンサルティング (廃棄物でお困りの際は何でも相談下さい)

松田産業株式会社 アーバンリサイクル営業部

<本社> 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル6F TEL03-5909-5101

<拠点>

仙台営業所 TEL022-236-3125
 埼玉営業所 TEL04-2900-0131
 東京営業所 TEL03-3993-3301
 神奈川営業所 TEL046-246-2095

名古屋営業所 TEL0562-95-2111
 大阪営業所 TEL06-6475-3301
 福岡営業所 TEL092-631-1531

COSMOS

Company Of sophisticated staff Management Of Service

人材派遣事業部

千葉支店：043-248-2391

首都圏支社：03-5577-4601

本 社：03-5577-3810

東京支店：03-5577-4626

大阪支店：06-6442-7550

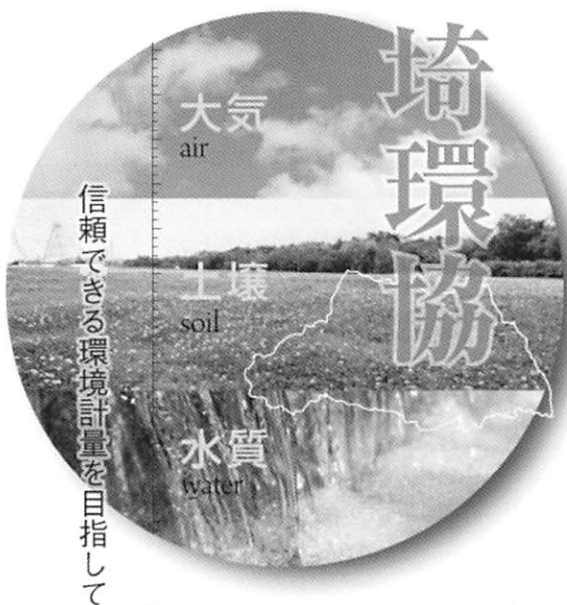
大宮支店：048-647-1560

仙台支店：022-213-7651

祝 40周年

一般社団法人

埼玉県環境計量協議会

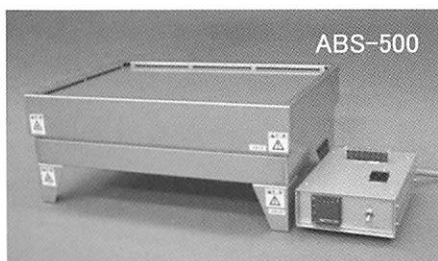


一般社団法人埼玉県環境計量協議会(略称:埼環協)は、環境計量に関する技術の向上と会員相互の協調による環境計量証明事業の適正な運営を目的に、昭和52年に任意団体として発足致しました。埼玉県内に所在を置く環境計量証明事業者や協賛会社で構成され、各種専門委員会により技術力や分析精度の向上、社会環境の保全に寄与する活動を展開しています。

また、平成25年4月1日より「一般社団法人」として法人化し、基本原則として 構成員である会員が現在よりもより多くのメリットを享受でき、環境計量の専門的で行政や事業場などからの相談を受けられる「公に認知された機関」としての 役割を果たすことを目指してまいります。

連絡先:一般社団法人埼玉県環境計量協議会 事務局
埼玉県さいたま市大宮区上小町 1450-11(一般社団法人埼玉県環境検査研究協会内)
Tel.048-649-5499 E-mail:saikankyo@saitama-kankyo.or.jp

耐酸ホットプレート ABS-500/ABS-300



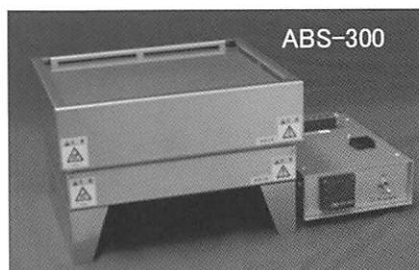
耐酸ホットプレートABS-500/ABS-300は酸性ガス雰囲気において使用した場合、従来の商品より(当社比)本体の耐酸性を向上したホットプレートです。
本体と温度制御器を2mのコードにてセパレートタイプにしました。
アウターフレームを採用し温度分布が向上しました。

【仕様】

天板材質: SUS304
天板寸法: W300×D250(ABS-500)
外形寸法: W500×D350(ABS-500)
温度制御方式: PIDゼロクロス制御(定置制御)
外装材質: SUS304
使用温度範囲: 常温～350℃
電源: AC100V15A

定価

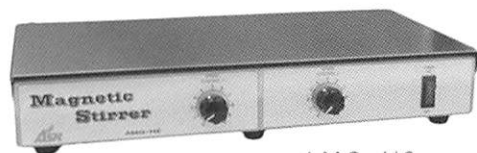
ABS-500 ¥250,000円
ABS-300 ¥220,000円



AMGスターラー

小型スターラーから二連式・大容量スターラーまで豊富なラインアップ

NEW!



AMG-H2

二連式スターラー AMG-S2/AMG-H2

攪拌容量: 50ml～5lくらいまで×2系統
回転数: 50～2300rpm
外形寸法: W445×D225×H80mm
電源: AC100V 50/60Hz

定価

AMG-S2 ¥138,000円
AMG-H2 ¥160,000円



AMG-S

パワースターラー AMG-S/AMG-H

攪拌容量: 50ml～10lくらいまで
回転数: 50～2300rpm
外形寸法: W220W×D220D×H80mm

定価

AMG-S ¥73,000円
AMG-H ¥90,000円

温度を科学する 理化学機器製造販売

株式会社
ASAHI アサヒ理化製作所

〒262-0043 千葉県千葉市花見川区天戸町973-3
TEL: 043-257-9123 FAX: 043-257-9229
URL <http://www.asahi-rika.co.jp>

環境検査システム 導入実績 No.1!

見積受注、分析、報告書作成、請求業務までを
エイビスが一括サポート!

機能面、セキュリティ面や操作性がアップした新バージョンを続々リリース中!

今回新たに 浄化槽管理システム 計画管理システム がリリース開始!

見積受注システム

見積作成から受注の管理、採水や収集計画の策定も可能、販売管理システムとの連携で売上予測や実施状況の把握も管理します

水質検査システム

計量、飲料水、産廃、土壌、衛生 etc に対応

大気測定システム

JIS 規格に準拠した自動計算機能を装備

作業環境システム

厚生労働省モデル様式対応
評価図・推移図を標準装備

食品検査システム

わずらわしいマスタ登録やメンテナンスも充実サポート

簡易専用水道システム

シンプル操作でしっかりデータ管理

浄化槽管理システム

検査予定作成からの検査案内状の印刷
分析機器からBOD結果値取り込み機能

空気環境システム

スピーディーで信頼性の高い業務を実現

販売管理システム

検査業務にマッチした売上管理、入金消し込みが可能、
さまざまな状況を確認する管理帳票も充実
経理システムなどへのデータ吐き出し機能を装備

顧客管理システム

見積、受注、分析、売上、入金状況を顧客ごとに管理
営業戦略にもご活用いただけます

AiVS
Advanced Information Valuable Service

環境事業ソフトのオーソリティを目指して...

株式会社エイビス

<http://www.aivs.co.jp>

e-mail: info@aivs.co.jp

大分(本社)

〒870-0026 大分市金池町 3-3-11 金池MGビル
TEL: 097-536-0999 FAX: 097-536-0998

東京支店

〒105-0014 東京都港区芝 3-3-14 ニットクビル4F
TEL: 03-5232-3678 FAX: 03-5232-3679

大阪営業所

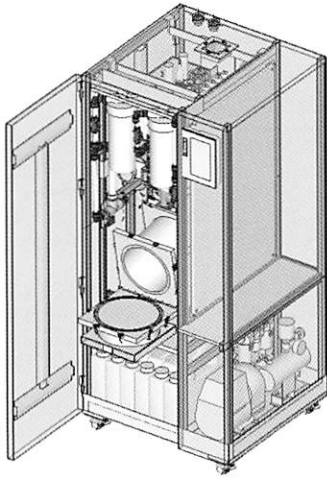
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-19-11 大城ビル 403
TEL: 06-6300-7525 FAX: 06-6300-7524

分析廃液の仮置き場の問題解決に！

産廃費用のランニングコスト削減に！！

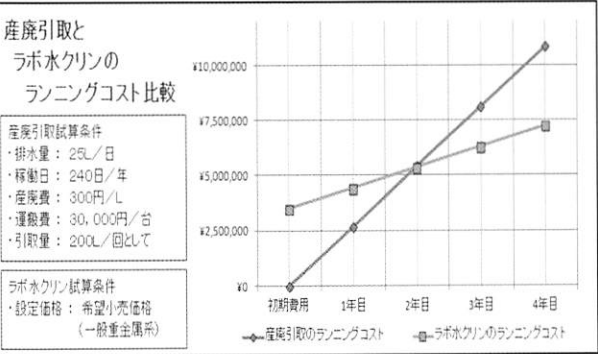
WACON

少量廃液処理装置 **ラボ水クリン** 自動運転 ラクラク操作



- 特長
- 全自動
- 多機能
- 電源 100V
- コンパクト
- キャスター付き

廃液の産廃引取とのコスト比較



WACON -Water Conditioning- ~純水製造から排水処理まで~

総合水処理メーカー **日本ワコン株式会社** www.wacon.co.jp
本社工場 〒254-0082 神奈川県平塚市東豊田594-32 TEL.(0463)53-4110 FAX.(0463)54-1113

★★★★ 理化学機器の総合商社 ★★★★★

45年を超える実績でお客様のニーズにお応え致します。
地域密着型の細かいサポートを致します。

分析機器 ・ 理化学機器 ・ 環境測定機器 ・ 研究設備 ・ 試薬工薬全般
代理店・特約店

- 日本分光(株) ・ 日本電子(株) ・ サモフィッシャー・サイエンティフィック(株) ・ (株)ダルトン
- (株)日立ハイテクサイエンス ・ パナソニックヘルスケア(株) ・ メルク(株)ミリポア
- 東亜ディーケーケー(株) ・ ヤマト科学(株) ・ 日本ウォーターズ(株)
- 日本電色工業(株) ・ 関東化学(株) ・ メルク(株)シグマ 等

ニーズにこたえる分析機器

Sanyo 三洋科学株式会社

〒264-0021 千葉県千葉市若葉区若松町2156-15
TEL 043 (232) 3131 (代)
FAX 043 (233) 4409
E-mail : mail@sanyo-kagaku.co.jp

お客様と明日の 「ワクワク」を共感するため・・・

当社は試薬・理化学機器の販売店として
地域の皆様のおかげをもちまして
創業30年を迎えることが出来ました。

日々変化する環境、市場のニーズに対応し、
今後とも顧客の皆様に満足して頂ける
サポート体制を実現を目指し、会社一丸となって
さらに確実な歩みを重ねてまいります。

試薬・消耗品・工業薬品・理化学機器販売及び保守修理

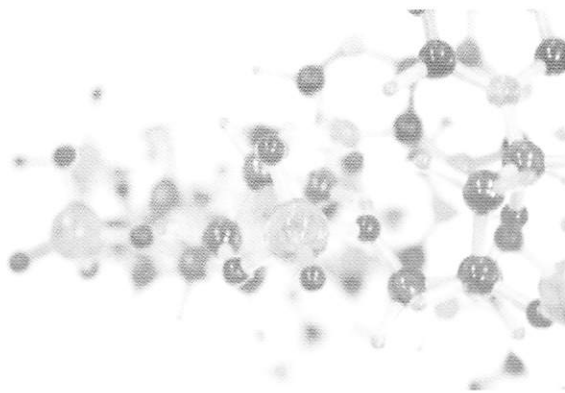
広島和光株式会社

Hiroshima wako Co.,Ltd.

本社 TEL:082-285-5155 FAX:082-510-0290

Mail:hiroshima@hiroshima-wako.co.jp

当社では、環境保全活動を推進するため ISO14001を取得しております。



営業所案内

岡山営業所	〒700-0971 岡山県岡山市野田5丁目11-31 TEL:086-241-0771 FAX:086-243-1503
福山営業所	〒721-0926 広島県福山市大門町4丁目16-43 TEL:084-943-2720 FAX:084-943-1198
東広島営業所	〒739-0046 広島県東広島市鏡山3丁目12番26号 ハヤマビル101号 TEL:082-431-3511 FAX:082-431-3515
広島営業所	〒735-0024 広島県安芸郡府中町緑ヶ丘6-40 TEL:082-285-6225 FAX:082-285-2505
岩国営業所	〒740-0024 山口県岩国市旭町2丁目12-29 TEL:0827-22-0683 FAX:0827-22-0819
徳山営業所	〒745-0801 山口県周南市久米宇沖角田3039-1 TEL:0834-25-1230 FAX:0834-25-1249
防府営業所	〒747-0825 山口県防府市大字新田66-2 TEL:0835-24-5432 FAX:0835-24-5464
宇部営業所	〒755-0008 山口県宇部市明神町3丁目3-26 TEL:0836-34-3331 FAX:0836-34-3431
東京営業所	〒141-0001 東京都品川区北品川5丁目8-26 TEL:03-5447-6181 FAX:03-3449-7861
千葉営業所	〒290-0056 千葉県市原市五井9130 TEL:0436-22-2671 FAX:0436-22-5348
■グループ企業 鳥取サイエンス	〒680-0841 鳥取県鳥取市吉方温泉3丁目110 TEL:0857-23-5651 FAX:0857-23-5652

東京電機産業株式会社



Agilent Technologies

Authorized Distributor

すべての課題の答えを
ここから

化学分析、ライフサイエンス分野の
ラボパートナー

千葉支店 分析営業Gr
〒260-0825
千葉市中央区村田町1211
電話番号:043-300-8618
FAX番号:043-208-5803

さいたま営業所 分析営業Gr
〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町2-38-7
卯月商事第二ビル2F
電話番号:048-669-1511 FAX番号:048-669-1500

北関東支店 分析営業Gr
〒360-0847 埼玉県熊谷市籠原南1-176
電話番号:048-530-2203 FAX番号:048-533-1139

北関東支店 分析営業Gr高崎分室
〒370-0854 群馬県高崎市下之城町148
電話番号:027-326-1302 FAX番号:027-326-7775

宇都宮支店 分析営業Gr
〒321-0925 栃木県宇都宮市東築瀬1-33-3
電話番号:028-636-6440 FAX番号:028-636-6442

新潟支店 分析営業Gr
〒950-0986 新潟県新潟市中央区神道寺南2-4-6
電話番号:025-244-6151 FAX番号:025-244-6155





多種多様なガスを準備・供給致します。
また、御使用される用途により、
いろいろな供給形態をとれますので、
どうぞご相談ください。

取扱ガス
酸素 医療用酸素 窒素 空気ガス アルゴン
アセチレンガス 炭酸ガス エチレンガス
水素 LPG ヘリウム 各種フロンガス
混合ガス 標準ガス レーザーガス
(その他ガスもお気軽にお問い合わせください。)



各種高圧ガス ガス関連機器製造販売

 **横浜ケミカル株式会社**

本社工場 〒230-0004横浜市鶴見区元宮2丁目4番55号

TEL:045(571)3541 FAX:045(571)7933

鹿島営業所TEL:0299(96)1360

福島営業所TEL:0246(88)9907

柏崎営業所TEL:0257(45)2083

URL:<http://www.yoko-chemi.co.jp>

自然と人間が共存できる地球のために



お問い合わせは…

富士産業株式会社

〒230-0072 横浜市鶴見区平安町一丁目59番地8

TEL 045-502-1828

FAX 045-502-1842

E-mail eigyou@fjsg.co.jp

URL <http://www.fjsg.co.jp>



エコアクション21
環境省
認証番号 00005873

会員名簿の記載事項に変更が
ございましたら、都度、下記書式にて、
千環協事務局宛ファックス願います。

Fax通信

Fax:043-233-8967

千環協:事務局御中
(有)ケースオフィス内)

会員名簿記載事項変更連絡

会員名： _____

担当者： _____

今般、記載事項に変更がありましたので下記の通り連絡致します。

変更実施		年 月 日より	
項 目		変更 (変更項目のみ記載で可)	備 考
会員名	社名		
	代表者		
連絡場所	住所		
	TEL		
	FAX		
連絡担当者			
事業区分			

※ 備考：備考欄には、差し支えない範囲内で変更事由を記載下さい。

〔事務局処理〕

受付日	年 月 日	受付No.	
FAX 連絡	会 長 宛	理事会への報告：	年 月予定
	広報委員長宛	ニュース	年 月 (No. 号) 変更予定

－ 編集後記 －

創立 40 周年記念特集号をお届けします。

千環協発足 40 周年記念式典は、7 月 15 日プラザ菜の花において多くのお客様、会員各位をお迎えした中で、盛大な式典等が開催されました。40 周年式典が盛況のうちに開催できたことは、ひとえに、会員各位のお力添えと感謝しております。

記念特集号としての本誌は、記念式典の記録及び千環協が歩んだ歴史をテーマとして作成・編集しました。歴代の功労者からのお言葉もいただき、各委員会理事のご協力により千環協の歴史記録が充実したものになり、満足のいく紙面作りができましたことに感謝申し上げます。

残念ながら 10 年前に比べると会員数が減ってきていますが、諸先輩方々から引き継いだこの協会を盛り上げていき、次の 50 周年につなげたいと思います。

今後、協会会員の社会に果たす役割はますます重要かつ責任あるものになっていくものと思われれます。次の 10 年の協会会員のいっそうの活躍に期待したいと考えます。

引き続き、皆様のご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(執筆担当：田中)

広報・情報委員長	田中	亮	イカリ消毒(株)
委員	川添	公貴	(有)ケーズオフィス
	北澤	久和	公害計器サービス(株)
	工藤	潤	(株)合同資源
	栗澤	秀典	(株)出光プランテック千葉
	近田	一幸	(株)三井化学分析センター
	西村	欣也	(株)日立産機ドライブ・ソリューションズ
	松戸	康朗	日廣産業(株)
	山本	祐輔	日鉄住金テクノロジー(株)

創立 40 周年記念特集

千環協ニュース

平成 29 年 2 月 20 日

発行 千葉県環境計量協会

〒264-0025 千葉市若葉区都賀 5-17-3

(有)ケーズオフィス内

TEL (043)233-8967

印刷 キクノウ印刷所

〒274-0065 千葉県船橋市高根台 7-16-5

TEL (047)466-3218

Fax (047)466-3217



千葉県環境計量協会

Chiba Prefectural Environmental Measurement Association